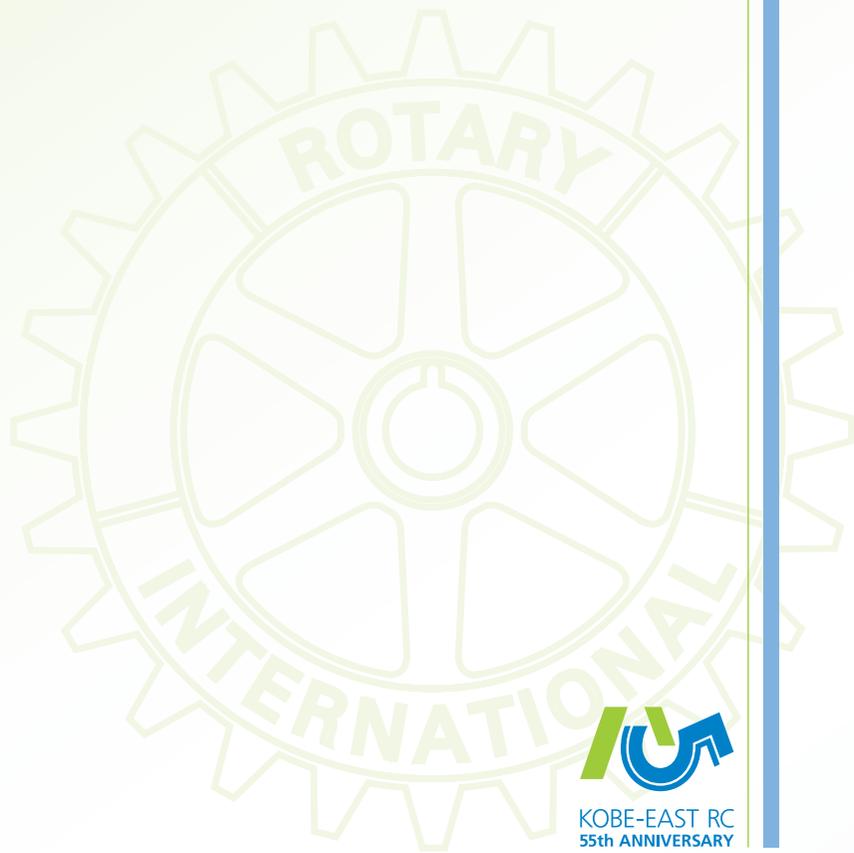


神戸東ロータリークラブ  
創立55周年記念誌



神戸東ロータリークラブ



**KOBE-EAST RC**  
55th ANNIVERSARY

# 創立55周年記念誌

 神戸東ロータリークラブ



**KOBE-EAST RC**  
55th ANNIVERSARY

# 創立55周年記念式典・祝賀会

## 第1部 式典



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY



受付



開会の挨拶 小倉宗夫実行委員長



歓迎の挨拶 野田晴清会長



国歌及びロータリーソング斉唱



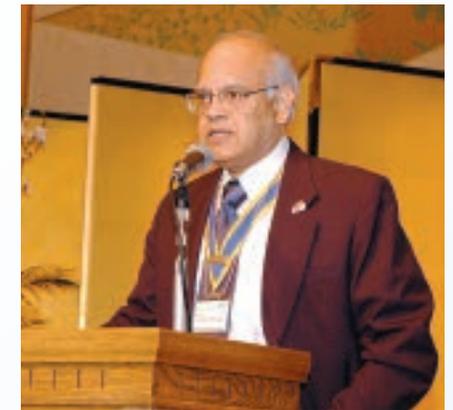
司会  
鮑 悦初 家族委員長



ご来賓入場



ご来賓祝辞 宮本一ガハナー



Mr.Paliath Mohandas (SINGAPORE RC President)



物故会員追悼

### 記念品贈呈



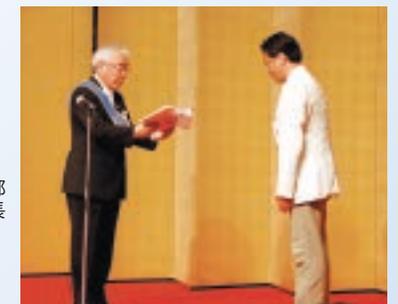
グランド六甲ポール  
波多達也社長



ご来賓紹介



シンガポールRC 記念品授与



こうべ小学校野球部  
地福保彦 部長



ブリスベンRC会長挨拶  
Mr. Michael Kelly (BRISBANE RC President)



オーストラリア総領事挨拶 Mr.Christopher Rees



御茶席



絵画同好会



# 創立55周年記念式典・祝賀会

## 第2部 祝賀会



コーラス同好会



鏡開き



乾杯  
今井鎮雄  
RI元理事





金婚会員表彰

皆出席会員表彰



銀婚会員表彰



アトラクション



唱和  
手にてつないで



閉会の挨拶  
高嶋良平 副実行委員長





## 創立55周年を迎えて

### 野田晴清

神戸東ロータリークラブ 会長



## 創立55周年記念事業の報告

### 小倉宗夫

創立55周年記念事業実行委員会 委員長

創立55周年に当たり、ご挨拶申し上げます。

先の式典には、ガバナーの宮本一様・国際ロータリー元理事の今井鎮雄様を始め、地区代表幹事の永井譲様、パストガバナーの松岡通夫様・橋本一豊様・加藤隆久様、ガバナーエレクトの中村尚義様・ガバナーノミニーの柴田整宏様、ガバナー補佐の中谷紀之様・村野利昭様、神戸ロータリークラブ会長の菊池晴彦様・幹事の松岡康生様を始め市内各ロータリークラブの会長・幹事22名の皆様、又公務ご多忙の中、在大阪オーストラリア領事館総領事のクリストファー・リース様にもご臨席賜りました。

海外からは、姉妹クラブであるシンガポールロータリークラブのバリアス・マンダス会長ご夫妻・石崎昌市ご夫妻を始めとする9名の皆様、更に今年2月2日に新しく姉妹クラブの仮調印をして参りましたブリスベンロータリークラブのマイケル・ケリー会長ご夫妻のご出席を賜りました。

また、我がクラブの活動にご協力いただいております日本熊森協会代表の森山まり子様、(株)グラント六甲社長の波多達也様、神戸市中央区少年野球の地福保彦・高橋秀和様、神戸プロバスケクラブ会長の奥田二郎様・副会長の津川昌治様、GSE派遣団員の清野和彦君、米山奨学生のチャン・ミン・フェさん、そして我がクラブが誇るむつみ会の皆様にも神戸東ロータリークラブの創立55周年記念例会・式典・祝賀会に多数ご出席下さいましたこと、誠に有り難く改めて厚く御礼申し上げます。

神戸東ロータリークラブは、神戸ロータリークラブをスポンサーとして昭和29年4月21日に国際ロータリーに加盟承認を受け、33名のメンバーで創立されました。以来「奉仕の理想」を旗幟鮮明にして地道な活動を積み重ねると共に、朋友有心を心にロータリアンとしての資質に富んだ会員増強活動に努めて参りました。おかげをもちまして会員数105名で創立55周年を迎える事が出来ました事、重ねてお礼申し上げます。

この日が迎えられるのも、チャーターメンバーはもちろんのこと多くの先輩ロータリアンを始めとする会員一人ひとりの日々に亘る奉仕と友愛へのご精進、そしてクラブへの力強いご努力とご協力の賜物と改めて感謝申し上げる次第です。

言えば我がクラブは順風満帆のようにも見えますが、先の阪神大震災では大きな打撃を受け、漸く傷口も回復かと思いきや今度はサブプライムローンの破綻に依る世界金融恐慌のあおりを受けております。100年に1度という経済不況が蔓延しそうですが、ロータリアンらしく温故知新を基に知恵と勇気と努力で乗り切りたいものです。

我がクラブは、本年未来への希望ある歩みを着実に押し進めるため「未来委員会」を設けました。久野薫委員長率いる委員会では諸先輩方を羅針盤として熱心な討議が重ねられ、提言がまとめられました。来る60周年に向けてこの提言を具体化していくことが我々の務めだと思っております。

昨年来、55周年実行委員会を設け記念例会・記念事業・祝賀会・同好会発表等、好意と友情を深める企画立案をしていただきました。あのような全員参加の温かい心のこもった記念式典を準備万端にして進めていただいた小倉宗夫実行委員長を始めとする各理事・役員・部会長・実行委員の皆様には、この場をお借りしまして心より厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、式典にご臨席を賜りました、遠くはブリスベン、シンガポールから、そして地区および他クラブからお集まりの皆様と一緒に、神戸東ロータリークラブリーダーシッププランに向かって友愛の輪を広げ益々発展することを祈念いたしますと共に、皆様もどうかお身体をご自愛頂きます事をお願い申し上げます。

誠に有難うございました。

創立55周年を迎えた神戸東ロータリークラブは、平成21年4月14日、ホテルオークラ神戸において、記念式典・祝賀会を開催し、会員・家族130名に、国内・海外からの来賓ロータリアン・家族・関係者など60名を合わせ合計190名の参加を得て、盛大に挙行されました。

当日は、本クラブが過去55年間を通じて培われた、友愛・奉仕の歴史を基盤として、5年後の60周年に向けて、その夢と理想を実現するため、それにふさわしい奉仕活動の出発点として、次の通り記念事業を発表いたしました。

#### 記念事業

##### (1) オーストラリア、ブリスベンロータリークラブとの姉妹提携

神戸市、ブリスベン両市の協力を得て、両市ロータリークラブにその気運が高まり、本年2月、本クラブより代表団を派遣し姉妹クラブ提携の仮調印を行いました。

4月14日、記念式典において、オーストラリア総領事 クリストファー・リーズ氏の立会いの下、当クラブ 野田晴清会長、ブリスベンクラブ ミッシェル・ケリー会長両人によって、姉妹クラブの認証式を行い、今後長期間にわたる姉妹関係を締結致しました。

##### (2) 未来委員会の設置と5ヵ年計画の発足

本年度より、未来委員会を新設し、本クラブの現状を分析検証の上、今後の活動方針を提言致します。本年度については55周年記念誌に上梓発表致しました。

##### (3) 社会奉仕活動の継続と開始

1. 青養東・友生両養護学校を対象とした招待ボウリング大会の継続。
2. 日本熊森協会に対して一会員として協力を継続。
3. 神戸少年団親善野球大会への協力を開始。

##### (4) 創立55周年記念誌を発刊

既に、創立50周年記念誌において、本クラブの50年にわたる全ての活動と歴史を網羅した記念誌が刊行されていますので、今回は過去の記録ではなく、本クラブの未来に向けての提言や抱負が主体となる構成に心がけました。

即ち、未来委員会の提言、直近5年間の幹事経験者の座談会、会員多数による個人的ロータリー一観などがその趣旨によるものです。その意味では、現会員はもとより、今後新しく本クラブに入会される諸兄にも、創立50周年記念誌に添えて、ご通読いただければ幸いです。

# 式典・祝賀会(式次第/来賓/物故会員/皆出席会員/金婚・銀婚のお祝い)

## 式典・祝賀会次第

### 第1部 記念式典

来賓紹介  
国歌斉唱  
ロータリーソング斉唱  
開会の挨拶  
物故会員追悼  
歓迎の挨拶  
来賓祝辞  
姉妹クラブ調印式  
55周年記念事業披露

### 第2部 祝賀会

コーラス  
乾杯  
会食  
皆出席会員表彰  
金婚・銀婚のお祝い  
アトラクション  
閉会の挨拶

神戸南 RC 松田 茂樹(会長)  
豊田 勝(幹事)  
神戸六甲 RC 澤井 瑛人(会長エレクト)  
藤井 佳朗(幹事エレクト)  
神戸ベイ RC 老田新一郎(会長)  
武内隆一郎(幹事)  
神戸西 RC 飯山 嘉昭(会長)  
矢坂 誠徳(幹事)  
神戸須磨 RC 早水 勝徳(副会長)  
山下 英世(幹事)

神戸北 RC 多田 修造(会長)  
阪本 幸一(幹事)  
神戸垂水 RC 新井紀美子(会長)  
澤村 正夫(幹事)  
神戸中 RC 吉田 泰弘(会長)  
宇尾 好博(幹事)  
神戸東プロバスクラブ 奥田 二郎(会長)  
津川 昌治(副会長)

## 物故会員 (平成16年7月以降)

滝本 雅彦 平成17年2月4日 享年58歳  
植橋 淳秀 平成17年11月15日 享年78歳  
高嶋 平介 平成18年2月28日 享年92歳  
柏井 博之 平成19年2月14日 享年83歳

## 来賓(敬称略)

オーストラリア総領事  
Mr. Christopher Rees (Consul General)  
Mrs. Tracey Rees

ROTARY CLUB OF SINGAPORE  
Mr. Paliath Mohandas (President)  
Mrs. Vatsala Mohandas  
Mr. Peter Tan (Past President)  
Mrs. Shirley Tan  
Mr. Mohan K Vaswani  
Mrs. Kawita Vaswani  
Mr. Shoichi Ishizaki  
Mrs. Kimie Ishizaki  
Mr. Keizo Fujitake

ROTARY CLUB OF BRISBANE  
Mr. Michael Kelly (President)  
Mrs. Julie Kelly

(株)グランド六甲 社長 波多 達也  
こうべ小学校野球部 部長 地福 保彦  
こうべ小学校野球部 監督 高橋 秀和  
日本熊森協会 代表 森山まり子  
米山奨学生 チャン・ミン・フエ  
GSE派遣団員 清野 和彦

## 国際ロータリー第2680地区

RI元理事 今井 鎮雄(神戸西)  
ガバナー 宮本 一(芦屋)  
パストガバナー 松岡 通夫(神戸)  
橋本 一豊(神戸須磨)  
加藤 隆久(神戸)  
ガバナーエレクト 中村 尚義(洲本)  
ガバナーノミニー 柴田 整宏(西宮夙川)  
地区代表幹事 永井 譲(芦屋)  
神戸第1Gガバナー補佐 中谷 紀之(神戸南)  
神戸第2Gガバナー補佐 村野 利昭(神戸西)  
神戸 RC 菊池 晴彦(会長)  
松岡 泰生(幹事)  
神戸東灘 RC 荒巻 順一(会長)  
山路 雄三(幹事)  
神戸有馬 RC 金原 保隆(会長)  
藤野 亮司(幹事)

## 皆出席会員

40年 嘉納 忠夫  
31年 木下 健 光葉 貞男  
28年 新宮 千早  
24年 山野 真 向井 菊美  
20年 田中 健三  
18年 小倉 宗夫 石橋 恒生  
16年 上村 伸幸  
14年 中井 章詞 白羽 誠  
11年 横山 幹夫  
10年 野田 晴清 松下 衛

9年 吉田 茂 吉井 正幸  
8年 岩野 了 吉田 建美  
千葉 始 福原 敏晃  
5年 乙守 典厚 横山 滋  
山邑 耕一  
4年 橋本 豊捷 壺井 醇  
3年 平岡 秀樹 山崎 仁嗣  
1年 高石 昇 樋口 一哉

## 金婚を迎えられた会員

赤木 文生・和子  
樽本 久・晶子  
向井 菊美・和代

## 銀婚を迎えられた会員

吉田 建美・真知子  
中井 章詞・恵俐子  
尾山 宜道・裕加里

## 目次 Contents

55周年記念式典・祝賀会 会場風景	2
創立55周年を迎えて 神戸東RC 会長 野田晴清	10
創立55周年記念事業の報告 神戸東RC創立55周年記念事業実行委員会 委員長 小倉宗夫	11
式典・祝賀会(式次第・来賓・物故会員・皆出席会員・物故会員・金婚・銀婚のお祝い)	12
<b>第1部</b> 神戸東RC未来委員会からの提言(その①)	16
<b>第2部</b> 創立55周年記念座談会 わがクラブの将来はいかにあるべきか?	44
<b>第3部</b> 「私のロータリーライフ」	62
<b>第4部</b> 5年間の歩み(資料)	
4大奉仕委員会報告	90
歴代役員、理事、委員長(5年間)	98
歴代地区委員(5年間)	100
同好会報告	101
むつみ会	109
現会員名簿	110
創立55周年記念事業実行委員会組織図・編集後記	113



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY



第一部 神戸東RC未来委員会からの提言(その①)

55th ANNIVERSARY KOBE-EAST RC



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY

# 神戸東RC未来委員会からの提言(その①)

未来委員会委員長 久野 薫

## ■ はじめに

本委員会は神戸東RC創立55周年事業の一環として、野田会長の懸案事項として発足いたしました。その舵取りを委託されました私といたしましては、大いなる戸惑いの中にあります。なぜならば、RIは会員数120万人という巨大組織化いたしました。巨大組織は自律性を獲得し、初期の目的を忘れ、ひたすら増強拡大を求める宿命にあります。現在のRIは草創期のロータリーの心との同一性を照合しつつ今日あるわけではありません。時代が移って、社会情勢も人の価値観も変化し、それにも対応しながら、進化(=変化)しました。猿はヒトが退化したものであるという表現がありますが、進化した今日のRIにあって、草創期のつまり退化したRIの心にあこがれる私のような退化したロータリアンにこれからも進化し続けるであろうロータリーの未来の夢を語る資格があるのかという戸惑いがあるからです。

しかし、ロータリーがロータリーでありうる為には、草創期のロータリーの“心”=寛恕=職業奉仕重視の立場を堅持しなければ、社会的存在意義はないと委員会は考えます。“古いものこそ、最も新しい”という言葉もあります。この考えを基本的立場において、短期、中期、長期の神戸東RCの未来の夢を語ってみたいと思います。特に5年後、神戸東RC創立60周年のころの在りようを念頭におきました。最後には、“神戸東RC未来委員会からの提言”として皆さんにお示しできることを願っております。

## ■ 委員会運営の基本的方針 (2008年7月30日、記)

- 1) 皆さんに御回答頂きましたアンケート結果を重視して未来を展望します。(2008年7月8日施行)
- 2) 出来る限り会員の全員参加方式をとります。その手段として、アンケート、バズセッション、ラウンドテーブル、パネルディスカッション等を導入し結果を週報会報等を通して広報いたします。
- 3) 委員会委員として出来るだけ沢山の方に御参加いただきます。(単年委員を設けました)
- 4) 討議するにあたっては出来るだけ、現状分析→過去との照合→未来への展望という段階をふんで案をまとめたと思います。
- 5) 月一回を原則として委員会を開催いたします。(委員以外の方の自由参加を歓迎します)

## ■ 今期委員会構成 (敬称、肩書き略)

常任委員：戸山、高嶋、久野 尚、小倉55周年記念実行委員長にも原則的に出席を依頼します。  
2年委員：野田、松下  
単年度委員：赤木、樽本、植村、横山(幹)(但し再任を妨げない)  
委員長補佐書記：須藤 尚、毎年度の会長ノミニ、エレクトにも参加を依頼する予定です。

## ■ 委員会で取り上げる予定の議題 (順不同で取り上げたいと思います)

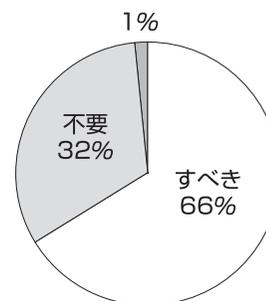
- 1) 会員増強に関する事：適正会員数、クラブ運営に支障を来さない会員数の財務面からの分析、会員増強の方策
- 2) 会員の質に関する事：質とは何か、質の向上のための方策。
- 3) クラブ奉仕に関する事：例会のあり方、卓話のありかた、クラブ運営経費節約の方策、CLPに関連して委員会構成の見直しの検討
- 4) クラブ会長選考方法に関する事：現状のままでよいか？
- 5) 職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕に関する事：そもそもロータリーでいう奉仕とは何か？ロータリーでしかできない奉仕の形態は何か
- 6) ロータリーの2大標語の解釈に関する事：私達は正しい解釈をしているのでしょうか？
- 7) クラブと地区との関わり合いに関する事：地区委員、ガバナー輩出に関する事。
- 8) ロータリークラブの理想像：神戸東RCの未来像。(ラウンドテーブルにゆだねる予定)
- 9) その他：他に取り上げるべき課題があれば、全会員の皆さんから募ります。

## ■ 会員増強に関する事：現状分析と過去からの推移 (2008年9月10日、記)

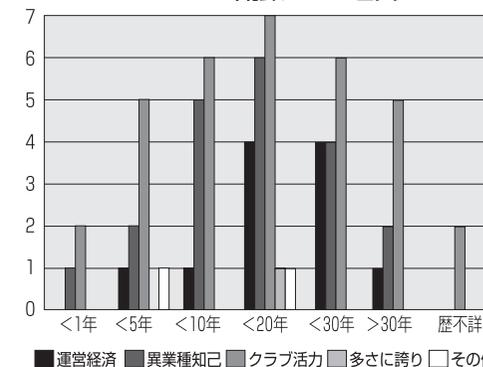
去る20年7月8日に実施されましたロータリーに関する神戸東RCの会員の意識調査に関するアンケート調査結果によりますと計77名の会員のうち、66%の方が増強すべき、32%の方が増強不要、残りは不明でした。増強すべき理由の36%は多い方がクラブに活力がうまれる(多いことは良いことだ。多々益々弁ず、衆寡敵せず)、25%は異業種交流に役立つ、10%がクラブ運営のための財務事情が改善されるというものでした。

### アンケート結果

Q6. 増強すべき？



Q7. 増強すべき理由



我がクラブの在籍会員数は現在103名です。これは満足すべき数ではありますが、ロータリー先進国では一般的に人口の0.1%がロータリアンで、ほっておくと年12%の会員が減少するといわれています。退会の理由は6%が健康上の理由、13%が死亡、12%が退職、30%が転出、転勤、17%は欠席、22%がその他となっております。

つまり、60%はやむをえない理由ですが、残り40%の退会理由にはいささか問題があるということです。したがって、103名在籍している我がクラブでも会員増強の努力を怠ると、会員数は自然に減少し、あっという間に70~80人に減少するのも時間の問題です。

“会員増強より、縮小、原石を磨け”という意見があります。しかし、会員数が多い事が必ずしも質の低下を意味しませんし、逆に会員数が少ない事が、少数精鋭、質の高さを意味しません。

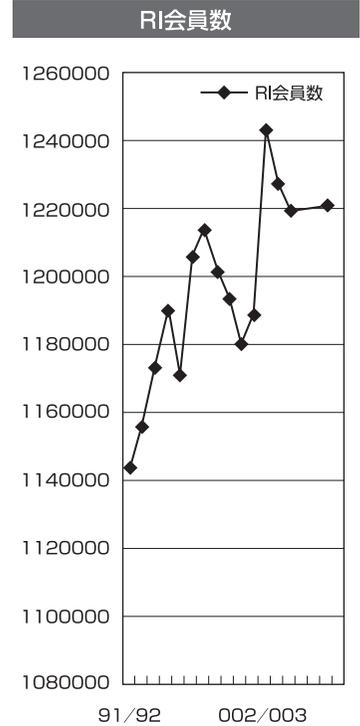
入会させてもらったという意識と入会してやったと言う意識の差は会員の質の差をうみます。全ては会員増強の方法にあります。会員数はロータリー先進国では停滞ないし減少の傾向にあります。

しかし、世界の会員数には下げ止まりの感があります。何故か？ロータリー先進国での減少を発展途上国と後進地域での増加が代償してあまりあるからでないでしょうか。援助を受ける側と援助を与える側の会員数の逆転は、必然的にロータリーとしての活動方針に変質をもたらします。草創期はロータリー=職業奉仕であったように思いますが、今やロータリー=WCS=財団となってしまったように思われます。しかし、ロータリアンは“人類全体に奉仕しなければならない”という崇高で大きな理念で会員増強が可能でしょうか。もっと身近な生業や日常生活に潤いを与える心のオアシスであるべきだと私は思います。2005年職業奉仕、会員増強合同地区セミナーに出席した時の講話で、職業奉仕は会員相互の切磋琢磨で自己啓発されることによって、高い職業倫理をもつ職業人を育成することで達成される。為に自己啓発されるクラブ環境を創らなければならない。それ故により質の高い会員増強が必要であります。元RI会長のビチャイ・ラタクル氏は、質が伴えば、量は必ずついてくると述べられております。

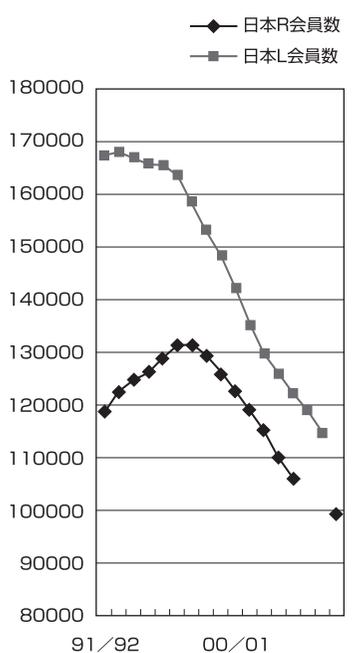
「闇雲に会員増強をはかりますと、クラブ内で原石として磨き上げようとしても、光らない会員が現れ、ひいては悪貨は良貨を駆逐し、組織は自己崩壊の道を辿ります」と語られました。また原理原則を守り、門戸を狭くして、安易に入会を認めないことが、逆説的ではあるが、会員増強には重要であるとも、教えられました。これらのことを念頭に会員の質と量の問題は検討しなければなりません。

《未来委員会からの提言》

【RI、日本、クラブの会員数の推移】

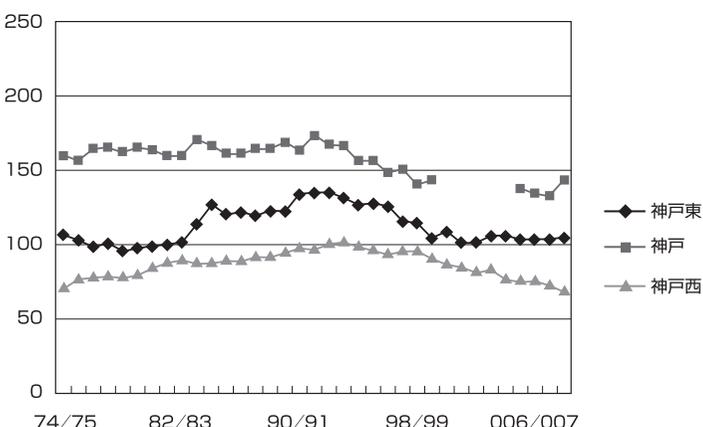


日本会員数の推移



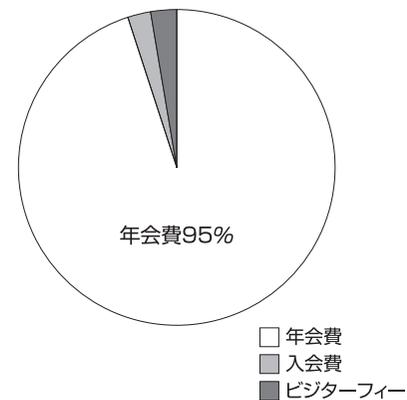
- 神戸東RCの適正会員数を考える。  
適正会員数の定義を“会員間の意思疎通を図りえて、なおかつ出来るだけ多い、実現可能な数”と定義すれば、100～110名位でしょうか。
- 会員減少のトレンドにある現状では、この適正会員数維持は容易でない。その場合確保したい最少の会員数を何名と想定するか。クラブの運営を危うくしない数を財務面から分析すると会員数×年会費収入÷0.95＝委員会費＋会員数に  
関係ない恒常支出(委員会外費＋事務費)＋会員数×食費＋RI、地区分担金×会員数となりますが、恒常支出を年間800～900万円と想定して少なく見積もっても80～90人は必要となります。この数をもっと少なくするためには、恒常支出の中で大きなウエイトを占める、事務室家賃と委員会費用の中の週報、会報の印刷費を節約する方策を考えなければなりません。(これは後日検討します)
- 会員減少の要因：社会的要因(経済事情、人口動態) 人的要因(個人の価値観の拝金主義重視、悪しき個人主義の台頭、人間の心の劣化) ロータリー自体の問題(ロータリー哲学の喪失、財団主義) クラブの要因(会員選考、推薦制度の形骸化、学ぶ意欲の乏しさ、ステータスのみ求め、他人の種で相撲を取る傾向、相互扶助、親睦への偏り) これらの中で私たちに出来ることはクラブの要因の改善でしょう。
- 退会防止策：同好会より活発化は歯止めになる。世代間ギャップを埋める努力(後述のクラブの会員の年齢構成参照)
- 女性会員に関すること：具体的に推薦者が出た時に検討する。2007年時点で、世界では14.7%、日本では3.68%、地区では1.9%の女性会員が在籍しておられます。
- 会員増強の方策：今期植村増強委員長が採用された、全会員からの2名以上の推薦カードの提出に期待したい。(一部の人任せではいけません)

クラブの会員数の推移

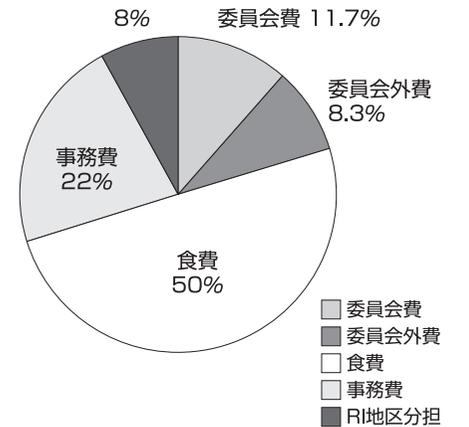


アンケート結果

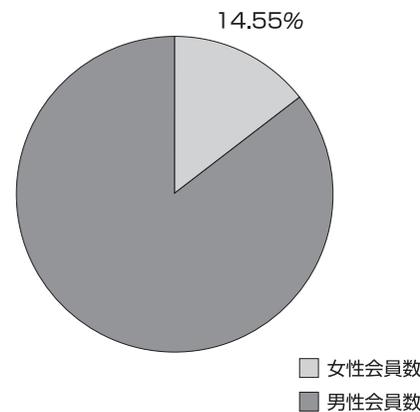
神戸東クラブの経営収入



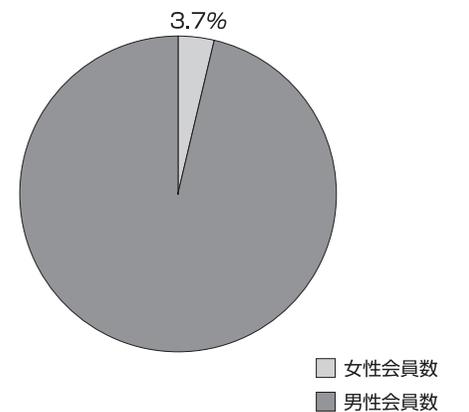
神戸東クラブの本会計からの支出内訳



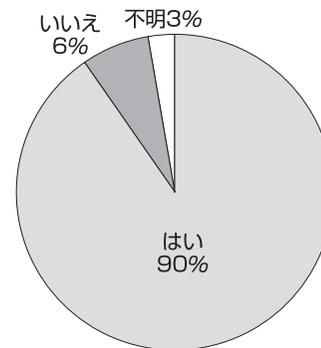
RIの女性会員数(2007)



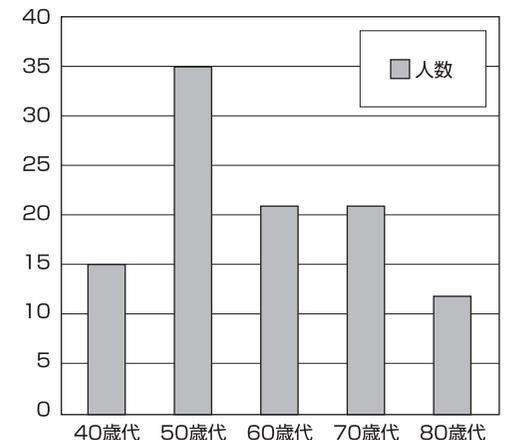
日本の女性会員数(2007)



Q8. 質を向上すべき?



クラブ会員の年齢構成(2008.7)



■ 会員の質に関すること：現状分析と過去との照合 (2008年10月8日、記)

ロータリーに関する会員の意識調査アンケート結果によりますと計77名のうち90%の方が会員の質の向上を図るべきとの結果をえしました。また会員の質とは人間の品格>奉仕の精神の高さ>社会的有名度>企業規模の大きさの順で判断するというお答えでした。

過去の我がクラブの会員の皆さんをひもときますと昭和29年4月12日RI承認をえて発足した神戸東RC33名の創立会員(チャーターメンバー)の選りすぐられた職業人の顔ぶれをみても、以後、少なくとも昭和の時代の会員の中には、いわゆる質の高い会員が綺羅星のごとく在籍されていたように思います。神戸を代表する老舗の実業家や、大学、高校の教授、学校長等々威圧感すら覚える紳士然とした品格のある方達だったようです。

また、ロタキチと揶揄されるほどに、ロータリーに詳しく、熱心な方々も少なくなかったようです。それに比し、現状ではそのような方はめっきり減っております。

そう考えて見ますと、少なくとも在籍20年以上の会員の方にとっては、現在の会員の質は低下したという印象はぬぐえない事でしょう。しかし、会員の質とは何ぞやという定義付けは容易ではありません。

多分に世人は社会的著明度、企業規模、金持ち、それにその人の職業によって格づけする傾向にあります。またそれらの人と同籍することで、自らのステータスを感じる人もあります。

なるほど“金の力は偉大だ。不正を正とする力を持っている”(シェークスピア)という言葉もあるくらいですから世の常の傾向でしょう。しかしこれらの人が良質のロータリアンでありうるかは全く別のものです。

ロータリーはこれらの肩書きを脱ぎ捨てることから始まります。それゆえに、ロータリーでは全ての会員が平等になることから親睦、友愛が育まれるのだと思います。

そこで、ロータリーで言う会員の質とは、一体何でしょう？

国際協議会では、“入りて学び、出でて奉仕せよ”という標語を眼にするといわれます。入りて何を学ぶのか。奉仕の心を学ぶことを意味します。ここで、ロータリーで言う奉仕とは特別の意味合いを持って使われます。ここでいう奉仕の心とは、相手の心を慮る、怒の心を学ぶわけです。よく“人間の間柄の美学”といわれます。私達ロータリアンも例会出席をとおして、この心を学ぶことが求められておりますし、逆に例会はこのことを可能にする例会でなくてはなりません。育まれたこの心を、自己の生業、社会、更には世界で実践することがロータリーの哲学だと思います。そこで、“良質のロータリアンとは、この心を真摯に学び実践出来る人”と定義できます。又、クラブはこの目的(人を育てる)を果たすものでなければなりません。松下幸之助氏は社員を前に、“あなた方が人に、あなたの会社は何を作っている会社ですか？”と問われたら、電化製品も作りますが、まず人を作る会社です”と答えなさいと言ったそうです。

我がクラブも“人作り”のできるクラブにならなければなりません。現籍している若い会員の中には、今は若いので、著名でもなければ、金もないかもしれませんが、前途洋々の未来をお持ちの方が沢山おられます。現状だけ見て、会員の質が低下したと嘆く必要はないかもしれません。そこで、クラブにとって大切なことは“Keep young and active”であり、それに役立つ人材の入会に努めるべきです。

《未来委員会からの提言》

神戸東RCが将来、良質の会員の集団になるためには、著明度、企業規模、富裕度、職業にとらわれず、できるだけ若く、人に優しく、人の気持ちの判る、向上心のある、活動力のある方を良質の会員候補として増強すること。

また、上記に図示した会員年齢構成になっておりますので、クラブにあっては、シニアな方との世代間ギャップを埋めるために積極的に対話する心がけが必要となってきます。間違っても話し相手がなくなったという理由で退会する人を出してはいけません。昔のような所謂ロタキチがいなくなった今、会長経験者が卒業生気分になることなく、指導力を発揮していただきたい。

このような努力の継続は、きっと将来、魅力的人間の集団たる神戸東RCが期待できると思います。

■ クラブ奉仕に関すること (2008年11月12日、記)

現状分析と過去との照合

クラブ奉仕の定義を神戸東RC定款で見ますと、“奉仕の第1部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動に関わるものである”原文で見ますと“Club service, the first avenue of service, involves action a member should take within this club to help it function successfully”となっております。

私なりにクラブ奉仕の役割を考えてみますと、会員が切磋琢磨して、自己啓発できるクラブ環境を創り上げるために役立つように、各会員が努力する事だと思います。更に具体化しますと、クラブ管理、運営、委員会活動、例会中でも卓話が奉仕の中心になります。アンケート結果を見ますと、我がクラブの未来は明るいとお考えの方は68%も占めますが、このままで良いという意見は43%で、45%の方は何らかの改善が必要とお考えです。何を、どのように改善すべきかを考えてみました。

クラブ退会を考えたことのある会員数は40%超あり、その理由として会員歴5~30年の方では仕事が多忙で、毎週の出席が苦痛という理由が多く、会員歴5年未満、30年以上の方の中に例会が楽しくないという理由がありました。もっと情報がほしいという意見は約半数を占め、内訳はロータリー哲学、地区情報、ロータリーの歴史等多岐にわたっております。こう見てきますと、クラブ奉仕が十分機能しているとは考えにくいようです。一方、クラブが何かの楽しみや情報を与えてくれるだろうという受身の姿勢がうかがわれます。求める心の大きさと、得るものの大きさは変わります。

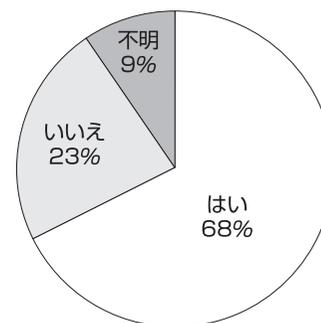
あなたは進んで親睦活動を実践していますか。“ロータリーの友”等から情報を得ようと努めていますか。

湯浅恭三RI元副会長は“To know is to love”、“知って出席するか、知らなくて出席するかには、大差がある”と語られていますし、RI元会長ウィリアム・スケルトン氏は“ロータリアンとしての最悪の罪は憎しみでもなんでもない、同じクラブのロータリアンのやることに、全く無関心であることである”と言われました。

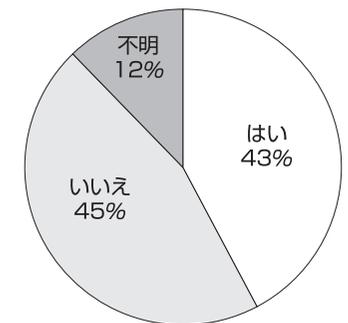
J.F.ケネディーの演説ではありませんが、クラブが何をしてくれるかを問う前に、あなたがクラブに何が出来るかを問う必要があります。会員の皆さんにこのような考え方をもっていただくために、クラブとしてなしうる改善対策を協議していただきました。以上の現状分析をふまえながら、過去との照合を重ねて各委員会毎に改善策を提案してみたいと思います。

アンケート結果

Q11. 神戸東未来明るい？



Q13. 神戸東これで良い？



## クラブ奉仕に関する委員会討議内容

### 1) 出席委員会:

かつての例会出席率は限りなく90%に近いものでした。地区平均は91%前後で、我がクラブのそれも近似しております。ポールハリスは出席率が良いクラブが、良いクラブだと語っています。当時のロータリーは相互扶助をモットーにしておりましたから当然の事です。然るに現状の最低の出席率の規定は60%から50%以上と緩和され、且つ出席率の計算方法も緩和されました。このことの意味するものはRIの目標が、相互扶助→職業奉仕→財団主義へと変節し会員増強目当ての規制緩和に過ぎません。我がクラブが職業奉仕を重視する姿勢を堅持する為には例会出席なくして成し遂げられません。この意味でかつてのように委員会は毎月のクラブの出席率を報告し例会出席の重要性を啓発していただきたい。

### 2) 親睦、家族委員会:

現在は受益者負担の原則で親睦家族会の会費が高騰し出席しにくい事情がある。かつてのようにクラブが一部負担できるように他の分野での経費削減(印刷、郵送費、事務局費等、このことは後日の討議に委ねる)の方策を考える。また、親睦家族会案内は予定が組み易いように、できるだけ早めに通知して欲しい。月1回でも夜の例会とし、卓話もない気楽な例会を開催することは会員相互の親睦を深め、通常例会での私語も少なくなるのではないか。(為には定款細則の変更が必要)これもオークラで開催すれば食費は昼の分で賄えるので、アルコール代のみ自己負担とすれば年会費で賄えるのではないか。

### 3) プログラム委員会:

会員の相互理解を深める意味でも、参加意識を深める意味でも会員教育の意味でも年の半分以上は会員自身の卓話にする慣習とすること。そうすれば、年1~2回は社会的影響力をもつ所謂大物を招待する経費も捻出できる。また、バズセッション、フォーラム等会員の参加意識を高める工夫が必要です。会員の中には卓話を含め、会員の前でお話をする事の意味を軽視し、これ位は簡単と逆にこれを売り物にする輩が存在しますがこれは大間違いです。重々心してください。熱意のない卓話は私語、中途退席の原因になります。

### 4) 週報、会報委員会:

印刷、郵送にかかる費用はクラブ奉仕部門の中でも大きいものがあります。経費削減のための対策としてオンライン化する事を考えてみたいと思います。また、情報を文字化するだけでなく、例会で言葉をもって会員に情報発信する工夫があっても良いのではないのでしょうか。一方、会報のデジタル化と称して現在の会報が写真集化していませんか。これでは教育的効果は期待できません。それこそ、昔の会報のように、文字化した読む会報に力点を置いたほうがよくありませんか。

### 5) 情報委員会:

ラウンドテーブルをメイクアップ対象にしたら参加意識高揚の動機づけになるのではないかとこの意見は確かにあります。しかし、この考え方は間違いです。自己教育の為の活動への参加はメイクアップの意味合いとはなじまないのです。また、ラウンドテーブルに参加する人が固定化した感があります。これらの方は常に自己教育を怠らない会員で、それ以外の会員こそ出席して欲しいのにと嘆きが昔からあります。ラウンドテーブルを夕方ではなく、例会終了後の昼間にすれば出席し易いのではと意見もあります。傾聴に値するのではないのでしょうか。テーマも難しいものばかりでなく、ロータリーに関する雑談会のような気楽なものも取り入れるべきの意見があります。

### 6) 会員増強、職業分類、会員選考委員会:

各委員会が、本来の役割を形骸化させず真摯に実行すべきです。このことがまさに会員の質の向

上に役立つと信じます。

### 7) 各委員会委員長選考に対する工夫:

各会員には、勿論、得意分野というものがあります。だからといって、同じ会員が毎年同じような委員会に配属される傾向が見受けられますが、できるだけ他分野の委員会活動も経験することが、クラブ奉仕の理解に役立つ。情報委員長は謂わば教育委員長の役割をになっているので、会長経験者が就くことが多いようですが、たまには思い切って若手の会員を委員長として抜擢することも考えてほしい。

### 8) 理事、役員会:

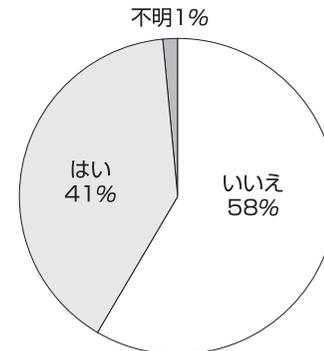
神戸東RCクラブ細則第11条、第3節によりますと、会員推薦に関して推薦状が理事会に提出に提出後30日以内にその承認或いは不承認を決定し、これを、クラブ幹事を通して推薦者に通知しなければならないとの規定があります。この規約が遵守されているかには少し疑問があります。

理事、役員選挙、クラブの予算、決算に関しての最終決定は、年次、臨時総会に委ねられております。たとえ理事会に提出、承認済みでも、総会前に、週報等で事前公表することは慎むべきです。

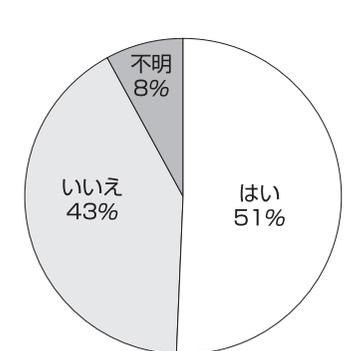
### 9) 委員会構成に広報委員会を再設置するか否か:

RIはCLP制度導入の是非に関して広報委員会の設置を希望し、これまでの陰徳から陽徳へと変節してきております。現在神戸東RCでは広報委員会は設置されていませんが、RIの意向をふまえて、わがクラブでも再度復活させるべきか否かの検討を要するところだと感じます。

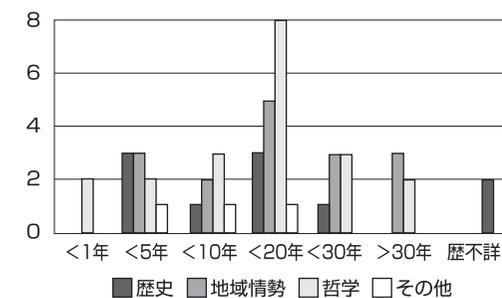
### Q4. 退会を考えた事?



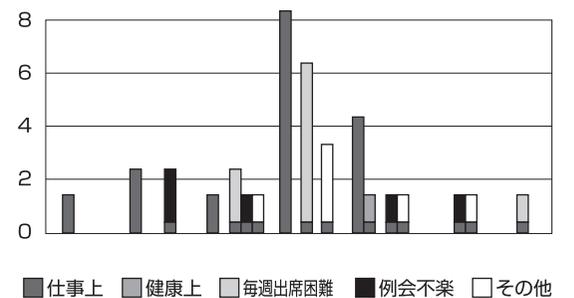
### Q15. 情報を希望する?



### Q16. 知りたい情報の内容



### Q5. 退会を考えた理由



■ <未来委員会からの提言>

創設来103年という歴史を持つロータリークラブの組織構造には美しいまでの完成度があります。この組織を生かすも殺すも、これを運営する会員一人ひとりの心にあります。

これまで、会員増強、質の向上という、100年来続いている難問に関して夢物語を語ってきましたが実は、現実には厳しいものがあります。経済不況、社会生物学的問題(少子化、人口減少等)、社会心理学的問題(若者のみならず、価値観の変化)。

これらの要因を考えると日本のロータリアン数の減少は避けようと思っても本当は避ける事は難しいと私は思います。この難局を克服するためには、これもあなたの心が鍵を握っております。このころを育てる役割をクラブ奉仕活動は一手に握っている事をまず認識していただきたいと思ひます。

<クラブ奉仕のあり方への提言>

- ①会員卓話を増やす
- ②月1回程度を細則変更をしても夕方開催、卓話なしの親睦重視の例会の開催。
- ③気楽な課題でのラウンドテーブルの開催こそがロータリーを考えるきっかけになる。
- ④親睦家族会の開催方法の改善、参加費は高すぎないか、他の経費節減でクラブからの援助が可能にならないか。
- ⑤委員会委員の構成メンバーの流動性(毎年同系の委員会配属より、幅広い委員会活動を経験することはクラブ奉仕の精神に沿ったものではありませんか)
- ⑥事務の仕事は事務局の方にまる投げしていませんか。  
かつては幹事、副幹事の仕事でした。外国では、よほどの大クラブ以外には必ずしも事務局は存在しません。このことは人件費の節約につながるではありませんか。
- ⑦会報、週報のネット化で印刷、郵送費の節減を図ってはどうか(後日具体化します)

■ ロータリーならでの対外的奉仕(社会奉仕、国際奉仕)に関すること(2008年12月10日、記)

現状分析と過去との照合

このことを語るにあたっては、決議23-34にふれないではすまないと私は考えます。決議23-34はセントルイス宣言ともよばれておりますが、1923年のセントルイス世界大会で決議されたものであります。この決議は以後今日に至るまでに数奇の運命を辿ってきているいわくつきのものであります。

そのいわくとは、

①世界情勢が1923年の頃とは彼我隔世の感のある現代ではそぐわないとの見解で、“手続要覧”から抹消され、おそらく日本のロータリーからの抗議があったからか、1987年から再度復活をみたものの、またぞろ、元RI副会長のビル・サージャントとエド・フタRI事務総長連名でのRI理事会への要望書にもとづいて、2010年の手続要覧から抹消される可能性が出てきております。

“決議23-34の第1条には当初RIのモットーとされた、“He profits most...”と“Service above self”の両者が記載されておりましたが2001年の手続要覧からは“He profits most..”のみが削除され、2007年度版から再度復活をみました。

②決議23-34に代わるものとして既に決議92-286が社会奉仕に関する声明として採択され、今日あること等です。決議23-34は“手続要覧”では社会奉仕部門に掲載されておりますが実はロータリーそのものの基本理念と奉仕の哲学を要約したもので、職業奉仕重視の基本をふまえてどのようにロータリーならでの対外的奉仕を実践したら良いかの指針を提唱したものとして、日本のロータリアンには大切にされているものなのです。

今一度じっくり決議23-34の内容を検討してみることは決して無駄なことではないと私は考え、あえて内容をここで吟味してみたいと思ひます。

決議23-34	注釈(久野)
<p>第1条 ロータリーは基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は「超我の奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という実践的な倫理原則に基づくものである。</p>	<p>この第1条は、社会奉仕に限らず国際奉仕、職業奉仕にも通じた、まさにロータリー哲学を表現した天下の名文と評価されている。</p>
<p>第2条 本来のロータリークラブは、事業および専門職務に携わる人の代表として、ロータリーの奉仕の哲学を受け入れ、次の四つのことを実行することを目指している人々の集まりである。まず第一に奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体に学ぶこと。第2に自分たちの間においても、また、地域社会に対しても、その実際例を団体に示すこと。第3に各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業および日常生活において実践に移すこと。そして、第4に個人として、また団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、ロータリアンだけでなくロータリアン以外の全ての人々が、理論的にも実践的にも、これを受け入れるように励ますことである。</p>	<p>第2条は、ロータリーは奉仕団体ではなく、奉仕する個人の集団。だから、奉仕活動は原則は個人単位。</p> <p>第4条はロータリーは単なる哲学ではなく、この哲学を実践することを要求している。</p>
<p>第3条 RIは次の目的のために存在する団体である。 a) ロータリーの奉仕の理想の擁護、育成及び全世界への普及。 b) ロータリークラブの設立、激励、援助及び運営の管理。 c) 一種の情報交換所として、各クラブの問題を研究し、また、強制でなく有益な助言を与えることによって各クラブの運営方法の標準化を図り、社会奉仕活動についても、既に広く多くのクラブによってその価値が実証されており、RI定款に掲げられているロータリーの綱領の趣旨にかなない、これを乱すような恐れのある社会奉仕活動によってのみ、その標準化を図ること。</p>	<p>個人をこえて団体に奉仕するときは、単年度制毎年度プロジェクトを変更して、多種の奉仕活動すること。</p> <p>第5条は社会奉仕活動は可能なかぎり社会のニーズに沿ったものであること。手近な事業に手を出す、安易な奉仕の為の奉仕は避けること。</p>
<p>第4条 奉仕する者は行動しなければならない。従って、ロータリーとは単なる心構えをいうのではなく、又、ロータリーの哲学も単に主観的なものであってはならず、それを客観的な行動に表わさなければならない。そしてロータリアン個人もロータリークラブも、奉仕の理念を実践に移さなければならない。そこで、ロータリークラブの団体的行動は次のような条件の下に行うように勧められている。いずれのロータリークラブも毎年度、何か一つの主だった社会奉仕活動を、それもなるべく毎年度異なっていて、できればその会計年度内に完了出来るようなものを、後援することが望ましい。この奉仕活動は、地域社会が本当に必要としているものに基づいたものであり、かつ、クラブ会員の一致した協力を必要とするものでなければならない。これは、クラブ会員の地域社会における個々の奉仕を奨励するためにクラブが継続的に実施しているプログラムとは別に行われるべきものとする。</p>	<p>第6条に具体的な、社会奉仕活動の実践基準が示されている。社会奉仕活動は奉仕の訓練を施すための、研究室での実験のようなものと理解すべき。</p> <p>なお、RI理事会は、奉仕は金品よりも汗を出すことを推奨している</p>
<p>第5条 各ロータリークラブは、クラブとして関心があり、又その地域社会に適した社会奉仕活動を自主的に選ぶことについて 絶対的な権利をもっている。しかし、いかなるクラブも、ロータリーの綱領を無視したり、ロータリークラブ結成の本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を</p>	<p>昔、当クラブの塚本会員が、いみじくも語りました。 “ロータリーの奉仕では、知恵のある人は知恵を、</p>

を行ってはならない。そして、RIは、一般的な奉仕活動を研究し、標準化し、推進し、これに関する有益な示唆を与えることはあっても、どんなクラブの、どんな社会奉仕活動にせよ、それを命じたり禁じたりすることは絶対にしてはならないものとする。

知恵のある人は知恵を、金のある人は金を、力のある人は、汗を出しなさい”ある意味、名言だと思います。

**第6条 個々のロータリークラブの社会奉仕活動の選択を律する規定は別に設けられていないがこれに関する指針として以下の準則が推奨されている。**

a) ロータリーの会員の数には限りがあるので、ロータリークラブは市民全体の積極的な支持なくしては成功し得ないような広範囲の社会奉仕活動は、他に地域社会全体のために発言し行動する適切な市民団体などの存在しない土地の場合に限り、これを行うこととすべきであり、商工会議所のある土地では、その仕事の邪魔をしたり、横取りをしたりすることのないようにしなければならない。しかし、ロータリアンとしては、奉仕を誓い、その理念の教えを受けた個人として、その土地の商工会議所の会員となって活動すべきであり、またその土地の市民として他の善良な市民と一緒に、広く全ての社会奉仕活動に関与し、その能力の許す限り、金銭や仕事の上でその分を果たすべきである。

b) 一般的に言って、ロータリークラブは、どんな立派な事業であっても、クラブがその遂行に対する責任の全部または一部を負う用意と意志のない限り、その後援をしてはならない。

c) ロータリークラブが奉仕活動を選ぶ場合に宣伝をその主たる目標としてはならないが、ロータリーの影響力を拡大する一つの方法として、クラブが立派に遂行した有益な事業については、正しい広報が行われるべきである。

d) ロータリークラブは、仕事の重複を避けるようにする必要があり、それによって既に立派に行われている事業に乗り出すようなことをしてはならない。

e) ロータリークラブの奉仕活動は、なるべく現存の機関に協力する形で行うことが望ましいが、現存機関の設備や能力が目的の遂行に不十分である場合には、必要に応じ、新たに機関を設けることにしても差し支えない。ロータリークラブとしては新たに重複した機関をつくるよりも現存の機関を活用することのほうが望ましい。

f) ロータリークラブはその全ての活動において、宣伝者として優れた働きをし、多大の成功を収めている。ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけ出すことはしても、それが地域社会全体の責任に関わるものである場合には、単独でそれに手を下すようなことはしないで、他の人々にその解決の必要を悟らせる努力をし、地域社会全体にその責任を自覚させてこの仕事はロータリーだけの責任にならないで、本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにしている。また、ロータリーは、事業を始めたり、指導したりするが、一方、当然それに関心を持っていると考えられる他の全ての団体の協力を得るように努めるべきであり、そして、当然ロータリークラブに帰すべき功績であっても、それに対する自分のほうの力を最小限度に評価して、その全てを協力者の手柄にするようにしなければならない。

g) クラブがひとかたまりになって行動するだけで足りるような事業よりも、広く全てのロータリアンの個々の力を動員するものの方が、ロータリーの精神にかなっていると言える。それはロータリークラブの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである。

クラブの対外奉仕のあり方に関する本委員会の討議内容を御紹介する前にいまひとつの参考資料を提供いたします。それは”ロータリーの友”誌上で展開された興味深い議論の交信であります。

主役は神戸東RCのかつての名誉会員である直木太一郎氏(明治32年生まれ、33歳で神戸RC入会、34歳で幹事、51歳でクラブ会長、58歳で地区のガバナー昭和62年88歳でお亡くなりになりました。日本ロータリーの重鎮で我がクラブの設立の礎をつくられた恩人のお一人であります。

佐藤千寿氏の言葉をかりれば、古きよき時代の古典派ロータリアンで、言々肺腑を衝くようなロータリーの現状批判をやってこられた後世歴史の審判に耐えられる人物だったと高く評価されている方(であります。)であります。

さて、そこで、現在の進化した(?変化した)ロータリアンの皆さんには以下に示す議論の交信をどのように評価されますか。ここに、私なりに理解した交信の要旨をご紹介します。

1967年(直木氏68歳)世界社会奉仕(WCS)とインターアクトに関して当時のRI理事であった松本兼二郎氏との交信であります。ここでは、インターアクトに関する議論には触れませんので悪しからず。

発信者 直木太一郎氏	返信者 松本兼二郎氏
<p><b>疑問1</b> ロータリーでいう社会奉仕とは、決議23-34の決議によって、本質は明らかにされ、それは他の機関や施設と重複、競合しないよういましめられている。国際奉仕も他国間の個人と個人の親善と理解、そして生まれる同志感によって達成せんとするものとする。核、人種、異国間の争いにはふれずにロータリーはあると考える。しかるに、WCSと称して、政治によらなければ解決しようもない貧困、文盲等の解決に乗り出さないといけないのか。自国でさえ解決すべき事が山積しているのに何故他国にまで手を伸ばす必要があるのか。近來、何でもかんでもロータリーでという、ロータリー万能の傾向には疑問を感じる。“ロータリーは人間一切の行動を律するものではなく、職業に関するものだけである”と厳しく戒められている。職業業務遂行上、賄賂、不正等解決すべき問題が山積の今やるべきことは山ほどあるのではないのか。</p>	<p><b>返信1</b> RI会長ルサー・ホッジスも“ロータリアンが国際的視野にたつて物事を考え、国際奉仕を心掛け、WCSに力を入れる事は結構なことではあるが、ロータリーの基本はあくまで地域社会単位の奉仕活動であるという根本理念を忘れてはならない”と書いておられます。しかし、WCSの導入は“地域単位”という根本理念と決して矛盾しないと確認したからです。一つの地域社会が独力でやれない事をその地域の呼びかけに他の地域のロータリークラブや地区が援助すること、或いは呼びかけがなくても、その事実を知ったときは、助力の手を差し伸べることはロータリーの理念には矛盾しない。政府で解決すべき大問題にロータリーは手をだすべきではないという意見には、実際にロータリーでやれている事は、対象国の政府に側面的な援助が来ているに過ぎません。しかし、自国であろうと他国であろうと区別する根拠はありません。“ロータリーが律するものは職業に関するものだけ”という御意見ですが、納得できません。個人生活、職業生活、社会生活の全ての面で発揮されるべきものであります。</p>
<p><b>疑問2</b> そもそもWCSなるものが規定審議会の議論を経たものなのか。RI理事会の決定だけで済まされたものではないのか。RI理事会の独断ではないのか疑問を感じる。</p>	<p><b>返信2</b> WCSは社会奉仕と国際奉仕の組み合わせに過ぎません。立法化を改めてすべき新しい理念ではありません。このような事をいちいち規定審議会を経なければならないとしたら</p>

**杞憂** こんな事を繰り返していたらやり方次第ではロータリーの今後に禍根を残すことになるか？

その頃にRIは堪えられなくなると思います。RI理事会にはこれ位の自由裁量権は与えられていると信じます。RI理事会は民主主義の理念に沿って、反対意見にも配慮して事に当たらないといけないと思っています。

**杞憂への返信**  
RI理事会の決定には規定審議会で廃棄ないし、制約可能の規約があると理解しています。運営の方法次第では、今後のロータリーに禍根を残す事態になりかねない御意見には賛成です。

直木氏からの松本兼二郎RI理事への返信(1967年の9月号ロータリーの友)

“ロータリーは人間一切の物を律するものではなく職業に関するものだけである”という井坂孝氏の言葉を引用しましたが言葉足らずで誤解をうみましたことお詫びします。井坂 孝氏の言葉は正確には“奉仕の生活は決してロータリーの専売ではない。ロータリーの無かった昔から奉仕の尊い生活は沢山あって、人のため国のため死んだ人々まで加えると無数と言っていいほどである。今日でもロータリー以外の広大な社会において、奉仕のために無私の立派な生活を送っている人は少なからずある。ただ、これにロータリーが付加え得たと思われるのは、職業に関するものだけである。職業を通じて社会に奉仕する、すなわち、職業というものはそれによって他の人々に奉仕するためにあるものであるという認識、これである。……”

つまり、ロータリーの存在意義は職業奉仕にあり、社会奉仕、世界奉仕はロータリーならずとも沢山の志のある人が、或いは、団体がやっている事なのです。

ただ、やはり、WCSプログラムは日本では程遠いプログラムではないでしょうか？今でも疑問です。(直木氏の言葉)

ここで、更に直木氏のWCSに関する疑問は佐藤千寿氏のロータリーの友の記事にぶつけられています。以下に要約を示します。

1976年 ロータリーの友6月号(直木太一郎氏 77歳)

発信者 佐藤千寿氏	返信者 直木太一郎氏
最初の“ロータリーの友”の原稿は、小生(久野)は読んでおりませんので、直木氏の質問で御推察いただきたいと思います。	<b>質問1</b> WCSに関しては未だに納得いきませんので御教授下さい。ロータリーの基本理念が個人重視で、WCSにもこの精神が貫かれているという意見には同感です。世界情勢が草創期のそれとは異なっているから活動のあり方が変化して当然のことだという意見にも賛成できます。ただ、WCSもその現れだという意見は納得できません。世界情勢が如何に変化しようともロータリーの基本理念は時代を超越して普遍であるべきです。維持すべきことか、時代にそくして変革すべきことかは規定審議会で決すべきではないでしょうか。WCS問題がRI理事会決議だけによるものだとすれば、RIの独断ではありませんか。あなたはWCSの主役はクラブであり、地区であり、相手のクラブの社会奉仕を援助するもので、その

クラブを立ち上がらせるものでなければならない、これはある意味、クラブの完全自治の一角を崩すものだとされます。また、決議23-34は時代遅れと言われる。しかし、私はこの決議は未だに生きてると信じているのです。WCSでは自助努力の精神で努力している外国のクラブを援助するものと言われるが個人と個人の心が結びつかないでどうして相手の状況、気持ちを見極められますか。国境を越えた人作りなんて、思い上がりではありませんか。飢餓、文盲などの問題をロータリーがでがけて、どれだけのことができますか。このような政治的課題にロータリーはてをだすべきではないと思います。こんなことをしなければロータリーの国際的存在価値ないと断じられますか。

重ねて御意見伺いたく存じます。

**質問2** WCSは1968-1969年度のRI理事会が国際奉仕の一環として決定されました。佐藤様の御返書によりますとロータリーの奉仕に対する考えが変わってきて、WCSを含めて主役はロータリアン個人でなくクラブと地区による団体奉仕であり、世界を地域とする社会奉仕で国際奉仕と結合したものとされております。

これは個人単位、クラブ自治と真向から反対していませんか？WCSが希望や期待であれば理解も出来ますが、規定審議会も通っていないのにWCSなくして国際奉仕なしの風潮が私には理解が出来ないのです。

**直木氏の再度の手紙による結び**

佐藤氏の直木氏質問2に対する最終の返書

個人による奉仕、クラブの実質的自治がロータリーの基本理念であることは今でも不変です。しかし、WCSがこの理念に真向から反するとは考えません。WCSにおいてクラブが援助の手を差し伸べるか否かはクラブの自治に委ねられています。

クラブの協同作業や援助要請にこれまで否定的であったRIが肯定的方向に転換してきたことは事実です。クラブは自分のテリトリーが第1で、外のことには無関心であっていいという安易な態度、また、個人奉仕が基本なのだから団体としてまとまってやる活動は問題にする必要がないとする態度、外国からのビジターとやあやあと手を握り合う、ニコボンの親善で国際奉仕が出来たと思っているような気休め、そんなこととどまっていたは国際組織としてのロータリーの存在意義はないと思います。

WCSなくしてロータリーの存在意義はないなどと言っているではありません。WCSだけがロータリーでなく、数あるロータリー活動の一部門に過ぎません。RI資料室だけを頼りに金のやりっぱなしは確かに悪い。だからWCSは価値がないというのは短絡的思考です。WCSの基本姿勢は、ただ金や物を送りつけるだけのWCSは無意味で、かならず誰かロータリアン自身が現地に行ってよく話し合う必要があります。

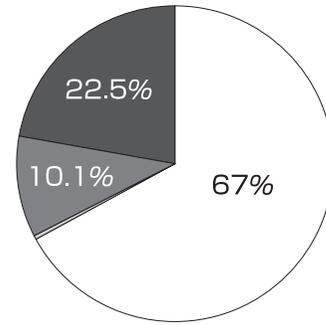
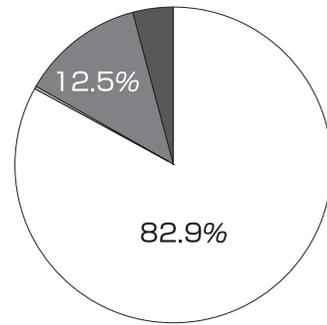
個人奉仕と団体奉仕は二者択一ではなく究極的には同一のものと考えます。

WCSの必要性を決して否定するものではありません。ただ、規定審議会が世界大会でWCS制度導入の決定を経るべきと考えます。

## ■ ロータリーならではの奉仕のあり方に関する委員会討議内容 (2008年12月10日、記) 四大奉仕部門支出内訳 (神戸東RC)

R財団、米山普通寄附金(ニコニコからは含まず)

R財団、米山普通寄附金(ニコニコからを含む)



□クラブ奉仕 ■職業奉仕 ■社会奉仕 ■国際奉仕

### ▶ 社会奉仕関係

ロータリーでいうところの奉仕の基本的理念としての決議23-34は未だに生きていますか。生きていたと考えた場合、これまで神戸東RCが実践してきた対外奉仕のありようは、これに合致するものか。決議23-34がもはや生きていないと考えた場合、これに代わる実践理念とはどんなことか。こんな切り口で討議をはじめていただきました。

①1959年神戸商船大学(当時)の学長であった大場真治会員が自分の大学を開放し、かつ大学の教官までも動員して、地域の中学生に対し海洋知識普及と心身鍛錬の機会を与えることを目的にはじめられた、海洋訓練は1988年まで、神戸市内の他クラブの協賛をえながら継続され、1966年ポールハリス賞を授与された事例

②1982年グランド六甲ボウリング場を、当時の当ボウリング場の社長であった小泉健二会員が開放して、友生、青陽養護学校生を招待して、ボウリング大会を開催した事例。この事業は“意義ある業績賞”を1990年に授与され、今日にいたるまで継続されている。

③2002年熊森協会支援開始。以後多くの協会会員をえて、自立できるまでに成長し、神戸東RCの手をはなれるまでになっております。これらの諸事例は、まさにロータリーならではの、社会事業と評価されている。これらはクラブ会員自身の発案で発足し他クラブの協賛、或いは、他クラブへの委譲、自立にまでいった、まさに理想的な社会事業と考えられます。

④最近の取り組みかたを見ていると、地域のニーズをくみ上げる努力なしに、社会奉仕のための社会奉仕事業になってしまっていないか。安易に手近にある事業を取り上げている印象がある。地域社会のニーズはその気になればいくらでもある。市役所の当該担当窓口等に聞いてみるのも一案。

⑤障害者の音楽会、展覧会等々彼らが社会的デビューを図る手助けをする事業も考えられる。

⑥2003年度から導入されたDDF(地区資金)の20%までを地区補助金として利用できるようになっていますが、積極的に利用しようとチャレンジした2005/6の動物愛護運動、今年度の少年野球大会

支援事業はそれなりの評価はできますが、地区補助金利用のための利用という、安直な事業選択の印象が私にはあります。今年度始まったばかりの少年野球大会支援を今後どのように継続するか、他の事業に切り替えるかは、未来委員会の考えもいれながら、当事者間で検討してみる必要があります。

⑦神戸3クラブの会長、副会長、幹事会というものがあつたから、複数のクラブの合同事業はできないものか考える必要性を感じます。

⑧ロータリーでいう対外奉仕は、基本的考えとして、地域社会のニーズは沢山あるのだから、できるだけ単年度で切り上げ、他種のニーズを幅広く取り上げるべきとの考えがあります。“ロータリーを殺すにゃ、刃物は要らない。前年度と同じことをすれば良い”とは、上手く言ったものです。

⑨決議23-34にも記載があるように、他の機関で、うまく運営されている事業(たとえば、中学生作文コンクール等)に要請もなく参入しないほうが望ましいのではないかと私は危惧します。

⑩薬物撲滅運動などの事業も現在の社会情勢では有意義な事業ではないか。

### ▶ 国際奉仕関係

①姉妹クラブに関しては、かつてはマッチドクラブの名前で当クラブはいくつかのクラブと提携を結んでいた歴史があります。例えばカーディフRC(英国)、PiquaRC(米国)、コロラドRC(米国)、ナンダRC(豪州、ブリスベン)、コナマウカRC(米国、ハワイ)、シンガポールRC(1980年)、マカティーウエストRC(フィリピン、1984)ホリスターRC(米国、サンフランシスコ)等です。なかには、交換学生計画も実施された例もあります。しかし、次第に相手RCからの人的交流が途絶え、1989年姉妹クラブの見直しで、シンガポールRCのみが継続している現状にあります。このたびブリスベンRC(豪州)と新たに姉妹クラブ提携が神戸東RCの55周年事業の一環として実現する予定にあります。過去の長続きしなかった実状をふまえ、如何に継続するかの方策を考える必要があります。互いのクラブ、とりわけ相手側のRCの中にキーマンを見つけだす必要がありますし、人的交流を密にする方策が大切です。姉妹クラブ特別委員会のようなものの新設が必要です。財団奨学生にはロータリアンの子弟は応募できない現状をふまえて、クラブ会員自身の子弟の交換学生制度のようなものが、実現出来たらよいのかもしれませんが、時代の流れで、互いの子弟を家庭で預かるには種々問題があります。たとえば、セクハラ問題、盗難そのたの社会的事件など国情の違いがトラブルの問題になるかも知れません。姉妹クラブ提携の目的は国際親善、相互理解です。WCS活動を一緒にやれる可能性もあるでしょう。

②WCS問題: この制度は1964年度に発足した同額補助金制度からの流れをくむもので、それ以前は特別補助金制度とよばれていました。現在の同額補助金制度はマッチンググラントとよばれ、DDFからの支出額と同額をWFから補助し、互いのクラブからの拠出額合計の半額を補助する制度です。あくまでも国の異なるRCあるいは地区同士の共同プロジェクトへの補助の原則があります。ここにWCSを利用するに当たっての困難さがあります。外国のRCあるいは地区に協力するに当たっては、相手国の実状、WCS運営の経過などを現地に出向いて確かめる作業が必要になります。したがって、第2680地区のWCS事業は距離的に近い東南アジア、せいぜい、インド、ネパールまでぐらいで実施されている、現状にあります。地区でもこれまで幾多の事業が実施されてきましたが、実効を挙げているかいないか疑問のあるところでしょう。2001年赤木ガバナーの時、地区ではカンボジアの地雷被害児童支援で義肢をおくりましたがこれを受けてカンボジアの小学校図書館建設支援をプノンベンRCと共同で実施しました。現在赤木ライブラリーとよばれております。現在の運営状況はプノ

ンペンRCのキーマンがいなくなって、うまくいっているのか赤木PGにお尋ねしなければなりません。WCSの実施はことほどさように簡単な事業ではありません。WCS事業は現在では相手国にRCがない国とも実施できるようにはなっております。こうなりますと、円滑な運営に支障を来さないか危惧します。

③この項の頭書に図示しましたとおり、神戸東RCの四大奉仕部門別の支出内訳は、クラブ奉仕部門に83%（ただしR財団、米山財団へのクラブのニコニコ箱奉仕金から支出される普通寄附金を含まず）残り17%が社会奉仕、国際奉仕の対外奉仕に拠出されております。この両者への普通寄附金を含めると、クラブ奉仕に67%、対外奉仕に33%となります。日本のロータリークラブの対外奉仕部門への支出平均は、15%、そのうちの7割が国際奉仕に、残り3割が社会奉仕に支出されているそうです。つまり、**クラブの全予算の10%が国際奉仕部門に、残り5%が社会奉仕部門に**支出されることになります。これでは地域社会に感謝されるような、インパクトのある事業は行えない。もっと多くの予算が配分されるべきという意見があります。これには一部の委員から猛反対がありました。対外奉仕には金よりも汗を出すべきだと言うわけです。RI理事会の意見も、奉仕は金より汗をと提唱している事は事実であります。もっともな意見であります。昔、当クラブの塚本会員が**ロータリアンたるもの知恵を出すか金を出すか、あるいは汗を出すか**ですと言われた事を思い出しました。

④そもそもロータリーが実践する対外奉仕には限界があり、成し遂げられる事業の結果はちっぽけなものなのです。しかし、それでよいのです。決議23-34にうたわれているように、”ロータリーの対外奉仕活動はロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられた研究室の実験”なので、大きな成果は鼻から求められていないと言う事になります。要は職業奉仕の哲学を学ぶ事にこそ目的があるのです。

《対外奉仕に関する委員会の提言》

- ①決議23-34は未だに生きております。活動の基本は今でも個人であります。しかし、この古典が永遠の生命を持っているとしても、この古典を硬直的に固執して、現代に適用すれば百害あって一利なしです。今日のロータリーは草創期のそれとは全く違ってしています。一国の社会問題は他国の社会問題でもあるほど地球は小さくなっております。地域の人々の幸福なしにはあなたの幸せも望めない時代にあることを自覚し、対外奉仕の成果がちっぽけなものであっても、もっと重要なことはこの実践によって、ロータリーで言う奉仕の理念を育て上げる事にあることを確認すべきです。
- ②ちっぽけなことしか出来ないのなら最初からしなくても良いと考える事はやめるべきです。
- ③神戸東RCが継続してきた友生、青陽養護学校とのボウリング大会は継続したい。
- ④対外奉仕プロジェクトは、可能な限り地域や他国のニーズにこたえるものを選択すべきです。
- ⑤ブリスベンRCとの姉妹提携に関しては、出来る限り継続できるような特別委員会をクラブ内に設置することが必要と考えます。

■ 例会卓話 (H.21.1.20) のためのスライドおよび原稿 (平成20年12月30日、記)

① **神戸東RCの目指すものは？**  
 ~ロータリー理解推進月間に因んで~  
 2009. 1. 20  
 神戸東RC未来委員会

S. 1 毎年1月は「ロータリー理解推進月間」に指定され対外的にはロータリー活動を広報し、対内的にはロータリーの理念、情報を学び合おうという趣旨にあります。又、来週は「ポールハリス追悼週間」に当たっております。彼は1947年1月27日、78歳でなくなっております。

② **「私たちは何故未来の夢を語るのか？」**  
 “おおいなる夢を見ることなかりせば  
 いかにかこの世はさびしからまし”  
 (晩翠)

③ **神戸東RCの目標**  
 ①わかりやすいクラブでありたい  
 ②ロータリーでいう親睦は、目的をもった親睦であることを理解したクラブでありたい  
 ③若さと活動性を維持したクラブでありたい

④ **委員会運営の基本方針**  
 ①会員の全員参加  
 ②最終的には、未来委員会からの提言として報告したい

⑤ “過去を正しく分析しなければ、未来を語ることは出来ない”  
 (W.チャーチル、ロンドンRC会員)  
**「現状分析→過去(初心)との照合→未来への展望【提言】」**

⑥ **組織はシンプルであるべきである**

⑦ **ロータリーという組織は決して複雑で難解なものであってはならないしそうなるものでもない。ロータリー創立の理念は、人が昔から大切にしてきた道徳、つまり寛恕の気持ちを忘れないという理念にあるから**

⑧ **それでもロータリーは変貌する**

⑨ **ロータリーのもつ閉鎖性と開放性**

⑩ **組織変貌の要因**  
 ①社会的要因(経済情勢、人口動態等)  
 ②人的要因(価値観の変化、心の劣化)  
 ③ロータリー自体の要因(哲学の喪失、財団主義の台頭)  
 ④クラブ内の要因(形骸化、マンネリ化、学ぶ意欲の喪失)

S. 2 この委員会設立の目的は神戸東RCの未来像を描くことにあります。見えないものを見、語ることは難事業であります。しかし、「おおいなる夢を見ることなかりせば、いかにかこの世は寂しからまし」の歌もありますし、「未来の夢を語れない組織は衰退する」とも言われます。また、ロータリーは今、曲がり角に来ているように思えますので、ここで夢を見てみようといった思いです。

S. 3 神戸東RCの目指すものは、スライドに示すとおり何の変哲もない、それでいて実現しがたい難事業であります。

S. 4 委員会運営の基本方針は会員の皆さんの全員参加です。バズセッション、ラウンドテーブル、アンケートなどの方法を取り入れます。結果は週報、会報等で広報いたします。

S. 5 討議方法は“過去を正しく分析しなければ、未来を語ることは出来ない”というチャーチルの言葉があるように、現状分析、過去との照合、未来への展望の段階をふんで考えます。組織には変るべきものと、変るべきではないものがあるはず。この検証無しには組織のもつ同一性は失われ、異質のロータリーに変質します。委員会メンバーは多士済々、侃侃諤諤、喧々囂々の議論の連続で、時には船は、山に登っていきます。討議進行中で「委員会からの提言」は本日は差し控えます。

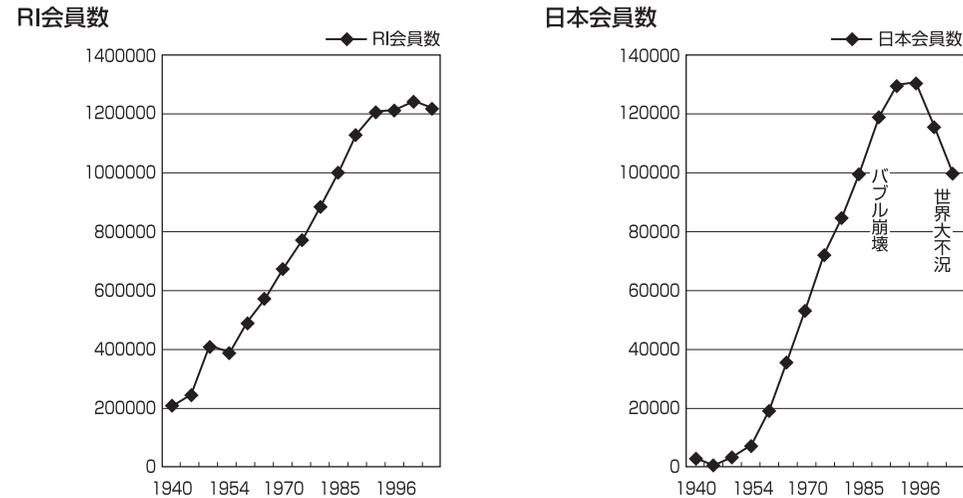
S. 6 元来組織というものとはシンプルでわかりやすいものであるべきで、複雑すぎると目的が曖昧になり、目的意識を喪失して、組織は沈滞します。それではロータリーはシンプルですか、わかりやすいですか。少なくとも私には複雑にみえます。逆に、この複雑、曖昧さが、多様性をうみ、100年以上も継続している一因をなしているようにさみえます。

S. 7 ロータリーという組織は本来はシンプルなものはず。なぜならば、創立の理念は「古くからある道徳、寛恕の心を養い、その心を個人生活、職業生活、社会、国際生活において実践しようとする一念にのみあるから」です。

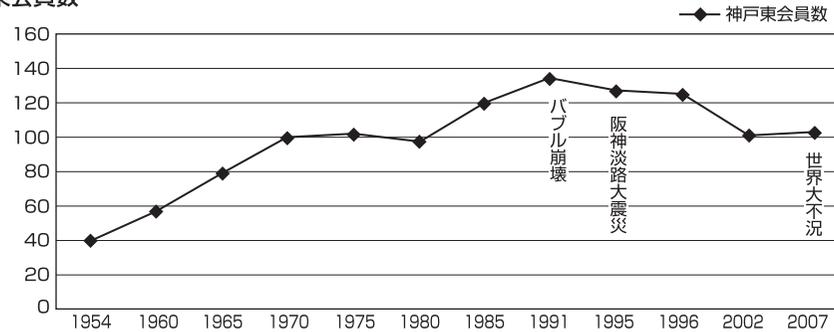
S. 8 それでもロータリーは変貌します。なぜならば、  
 S. 9 ロータリーは、社交クラブとして、閉鎖された部分と社会に大きく眼を見開いた、開放性を持つからです。

S.10 組織に変貌をもたらす要因には社会的要因、人的要因があります。また、ロータリー自体の要因もあります。クラブ内の要因もあります。私たちはクラブ内の要因に改善が必要なきときは、改善できますが、ロータリー自身の要因が大きく関わってきますと、織物で言う、変らない縦糸が変化し、ロータリーは異質の組織に変質してしまう危険をはらんでいきます。かくして、会員数は増加、減少します。ここ十年の会員数の減少傾向は、ロータリーが一種の曲がり角に来ていることの現われでしょう。

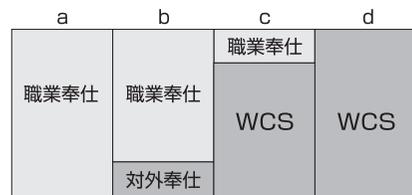
⑪ 会員数の変遷



⑫ 神戸東会員数



⑬ ロータリーを複雑にしている要因



S.13 ロータリーをわかりにくくしている要因の一つに財団主義の台頭をあげなければなりません。ロータリー観を私なりに分類しますと、スライド⑬のaタイプは極端な日本のロータリアン、「ロータリーとは職業奉仕と見つけたり」という考えです。bのタイプは古典的な日本のロータリアンで、職業奉仕中心、たとえ成果が小さくても社会、国際奉仕の重要性も認識している。cタイプは現代の進化したロータリアンのロータリー観で、職業奉仕はお題目で、WCS重視の姿勢です。タイプdは現在の世界のロータリー観で、「WCSこそ命」といった考えで、シェルドンの名前は遥か忘却の彼方にあるといったタイプです。このように考えますと、いったいロータリーって何なの？とは思われませんか。こんなことを考えながら、私たちは、神戸東RCの未来を探っている最中です。

⑭ 未来委員会からの提言  
(今年度末に卓話します)

■ クラブ会長選考方法に関する件 今後の討議課題につき委員長私見 (H.20.11.4.記)

《現状分析と過去との照合》

- 会長選考に関しては、手続要覧P.4 (ロータリー章典 10.020) の記載により、会長資格は
- 1) クラブ全体を指導する能力および会員の尊敬と信頼
  - 2) クラブ活動を先導し、遂行するのに必要な時間と労力をささげる心構えと十分な時間を持ち
  - 3) 自己のクラブの理事、もしくは一つまたは複数の主要委員会の委員、もしくはクラブ幹事を務めた経験
  - 4) 一回以上の地区大会と国際大会に出席した経験
  - 5) クラブの定款と細則に関する実務的な知識

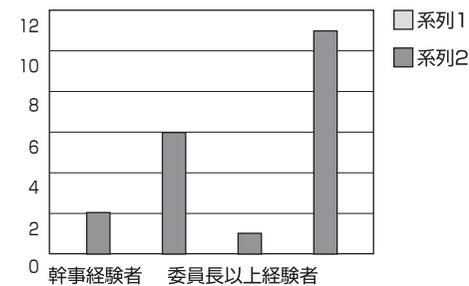
とあります。ロータリーのクラブには自治権がみとめられておりますから、これに拘束されるものではありません。したがって候補者の推薦方法は、各クラブによって必ずしも同一ではありません。

神戸東RCではクラブ細則に準拠して、会長ノミニーを選考するに当たっては、就任する年度の前年度12月初例会に開催される、定足数を満たした臨時総会で、出席会員の過半数の賛成でもって選挙されることになっております。一方会長ノミニー候補の推薦権は全会員に与えられておりますが、会員からの推薦がない場合は、別に設置する指名委員会が候補者を推薦します。然るにこの指名委員会構成は、クラブ細則第1条第2節の規定により、現会長、会長エレクト、および直前会長から順にさかのぼって3名の、計5名の会長経験者、会長エレクトによって占められていることになります。いわば、会長経験者のみによって指名委員会が構成されることの是非をあえてと問うてみたいと、あえて、議題にする予定でいます。その前に会長経験者の親睦会である春秋会の皆さん(現22名)に出したアンケート(H.20.10.28施行)の集計結果は、下記のとおりです。

問い①

会長ノミニーとして推薦される会員の条件として

1. 幹事経験者であるべき
2. 理事経験者であれば良い
3. 委員長経験者であれば良い
4. 役職歴にとらわれず、クラブの顔になりうる人であれば良い

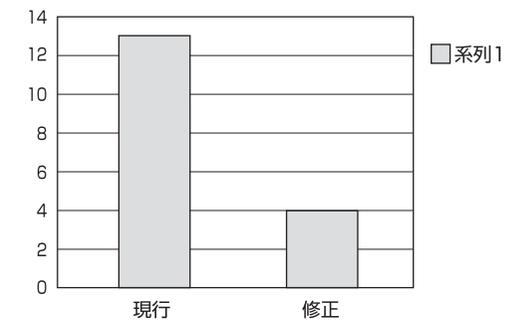


(尚、御回答いただきました会長経験者は22名中17名でした。)

問い②

会長ノミニー指名委員会構成は

1. 現行のままでよい
2. 指名委員会構成を変えたほうが良い



問い①に対しては、望ましい条件としてクラブの顔>理事経験以上>幹事経験者>委員長以上  
問い②に対しては指名委員会構成は現行のままで良いが圧倒的多数でした。

会長ノミニー選考方法に関する委員会提言(私見)

アンケート結果によりますと指名委員会構成は現行のままで良いとの御意見が圧倒的に多い結果となり、これ以上は深く掘り下げないことにし、現行を踏襲することにしました。したがって委員会では今後は、この問題は取り上げません。  
また、会長ノミニー選考においては、必ずしも幹事、理事、委員長などの役職歴はあまり重要ではなく、クラブの顔になりうるような人材であれば積極的に登用すればよいと考えます。

**■ 地区ガバナー輩出に関する件** 今後の討議課題につき委員長私見 (H.21.1.5. 記)

**≪現状分析と過去との照合≫**

第1回神戸東RC未来委員会(H.20.7.29)において、討議課題の一つに“クラブと地区との関わり”を提示しました。神戸東RCはクラブ自身の居心地の良さのあまり、地区など対外的結びつきが希薄になり易いところがあります。例えばガバナー輩出数はクラブの持つ長い歴史や会員数の多さを考えたときに少ないと思われまます。過去のガバナー輩出の歴史は、高山忠雄氏(1970)、安福武之助氏(1977)、金子太郎氏(1985)、赤木文生氏(2001)のわずか4名に留まります。また、2002年から導入されたDLP制度によって、これまで分区代理と呼ばれてきた職責は廃止され、新たにガバナー補佐という職責が設けられました。神戸東RCからはこれまで、分区代理として、安福氏(1971?)、小網氏(1973)、末正氏(1979)、近澤氏(1989)、執行氏(1994)、光葉氏(2001)、ガバナー補佐として高嶋氏(2005)の各会員が選任されております。また、地区委員会の委員、委員長にも最近積極的に送り出すべく努力はされておりますが、まだ、充分とはいえない状況です。皆さんの高い見識をクラブ内に埋もれさせる事なく地区、更にはRIにも発信させましよう提案させていただきました。そして、この課題は今後の討議課題として残されたまま、今日に至っておりますが、事態は一転し、例年通りガバナー月信を通じて2011/2012の地区ガバナーノミニ候補者推薦依頼が各クラブ宛に発信されたのを機に、野田クラブ会長が持ち前の、ロータリーへの情熱を爆発されました。しかし、時、既に遅く、各クラブからの推薦締め切りまで残りわずか2ヶ月でした。通常は各クラブからの候補者推薦はなく、地区のガバナー指名委員会から具体的依頼を受けてから、そのクラブ内での検討が始まるのが普通なのですが、野田会長の熱意は地区からの依頼前に、積極的に神戸東RCからガバナーノミニ候補者を推薦したらどうかという提案でした。ある意味、異例の事態ではありました。急遽、理事会、春秋会の意見徴集となりH.20.11.4.の理事会、春秋会の議論の結果を受けて、地区からの要請の前に、神戸東RCからの候補者推薦をすべしとなりました。確かに当クラブにはガバナーノミニにふさわしい方が何人もおられましたので野田会長の自信は強固なものであったと私も納得したものです。人選は二転三転、裏ではあったでしょうが、結局図らずも小生、久野に決定し、H.20.12.2.には地区指名委員会宛に候補者推薦状の送付にいたるといふ離れ業が完成したのです。勿論、地区指名委員会の最終結論に委ねられてはいますが、野田会長をはじめ会員の皆さんのバイタリティーを感じ、もし3年後の地区ガバナー輩出が実現した暁には、未来委員会の役割の半分は果たせたと、半ば安堵した心境にあります。

**≪地区との関わりに関する神戸東RC未来委員会の提言≫** (委員長私見)

- ①地区へも、奉仕の精神を発揮して、積極的にガバナー、ガバナー補佐、地区委員会委員を送り出そう。
- ②地区ガバナーは7～10年に一度は輩出すべく、日頃の人材育成に努力しましょう。
- ③仲良しクラブからはそれ以上のものは得られません。“井の中の蛙、大海を知らず”、“いたるところ青山あり”、外へ向かって冒険する気持ちを持ち続けましよう。

**■ 「理想的なロータリークラブとは」に関する件** 今後、クラブのラウンドテーブルで討議予定 (H.21.1.5. 記)

一般的な議論として、こんなロータリークラブだったらスバラシイ、タノシソウダナーと思うクラブにあって欲しい条件とは何でしょうか。考えてみましょう。勿論、神戸東RCにはそれ以外に特性がありますからあくまで一般論として、お聞き下さい。

- ①連帯感に満ちたクラブでありたい。
  - ②安らぎのあるクラブでありたい。
  - ③簡素なクラブでありたい。
  - ④新会員と高齢会員に優しいクラブでありたい。
  - ⑤全員参加のクラブでありたい。
  - ⑥常に前向きのクラブでありたい。
  - ⑦近隣クラブとも協調できるクラブでありたい。
- (東京世田谷南RC、藤井百太郎氏PP案)  
 などが参考になるのではないのでしょうか。

さて皆さん、神戸東RCの特性を考えたらうえて、どんな神戸東RCを築き上げたいと思っておられますか？

**≪理想的なクラブ作り≫に関する未来委員会の提言** (今後の討議課題につき委員長私見)

- ①若く、行動力のあるクラブでありたい。ために平均年齢60歳前後を実現したい。
- ②仲良し同士の小グループの寄せ集め、モザイクでなく、全体の一体感を持てるクラブでありたい。
- ③世代間ギャップを感じさせないために、老壮、青年間の交流が盛んなクラブでありたい。
- ④ロータリーという組織の原理、原則を学ぶ機会の多い、又、学ぶ意欲に溢れたクラブでありたい。
- ⑤クラブ入会が容易でないために、逆に入会したくなるような、誇り高いクラブでありたい。
- ⑥常に地域情勢に眼を開き、クラブのもつ職業分類が地域社会の職業分類の縮図でありたい。
- ⑦定期的に開催される神戸RC、神戸西RCとの三者会長、幹事会が単なる情報交換、親睦の域を越えて、三者が合同、協調した奉仕活動が出来たらいい。
- ⑧執行部任せのクラブ運営ではなく、全員参加意識をもつクラブでありたい。
- ⑨会員同士の親睦、友愛の精神が例会場内だけにとどまるような形式的なものであってはならない。
- ⑩前年度活動の踏襲に終始することなく、常に前向きなクラブでありたい。
- ⑪例会出席率90%を維持するクラブでありたい。  
 “出席率の良いクラブが、良いクラブである”(P. ハリス)

**■ <神戸東RC未来委員会からの提言>まとめ** (ただし、討議進行中につき提言(その①)とする)

神戸東RCの5年後をみすえて (H.21.1.13.記)

- ①地区との関わりに積極的に参加しよう。2011-2012年度のガバナーノミニ候補者を神戸東RCから積極的に推薦する。今後も7～10年毎にガバナー輩出できるように人材育成に努めよう。
- ②会員増強の逆風のなかでも、クラブ会員数100名以上を堅持しよう。
- ③会員の質の向上をはかるため、まず良質の新入会員選考に努めよう。良質の会員とは、人に優しく人の気持ちの判る、向上心のある、活動力のある会員と定義しよう。つまり、寛恕の気持ちを持つ人つまり、神戸東RCを寛恕の精神を持つ人の集団にしよう。
- ④会員の顔がわかるクラブ奉仕運営の為、会員自身の卓話を原則にしよう。クラブ運営の簡素化のために事務経費、印刷、郵送費節減のため、週報、会報等のオンライン化の実現、事務処理に会員がもっと関わろう。委員会活動は前年度の踏襲をやめマンネリ化、形骸化をストップさせよう。
- ⑤対外奉仕(社会活動、国際奉仕活動)は研究室での実験の場ととらえ、たとえ、得られた成果がちっぽけなものであっても、実践する事を続けよう。それがロータリーの意図する奉仕の精神と理解しよう。
- ⑥神戸東RCを理想像に近づけるために、高い出席率、社会の職業分類の縮図となるように、クラブの職業分類を近づける努力、執行部任せのクラブ運営をやめ積極的なクラブ運営への参加意識を高揚させよう。
- ⑦クラブが若さと、活動性を獲得するために、若い会員の入会に努め、会員の平均年齢を60歳前後にしよう。
- ⑧神戸東RCへの入会は容易ではないという認識を構築し、誇りあるクラブを再び獲得しよう。
- ⑨ロータリーの何たるかの原理、原則を充分理解し、その道にはずれた何でもありの、異質の組織に変貌しないように過去との照合に努めよう。
- ⑩プリスペンRCとの姉妹クラブ関係を出来るだけ長く継続するため、特別な委員会を新設しよう。

**■ おわりに**

私たち人間の身体的自己は、免疫というからだの中の仕組みを介して、その同一性は維持されております。このとき、侵入してきた異物が自己と同一性をもっているか、否かは常に、免疫組織がもっている自己と照合することによって判断されます。この仕組みの破綻が自己同一性の喪失、ひては病気の発生を引き起こすわけです。ロータリーという組織も、変貌する毎に、本来のロータリーの持つ自己と照合することで同一性が維持されます。この作業を怠りますと、ロータリーは、何でもあ

りの組織になり、本来の組織との同一性を失い、全く異質のロータリーに変質します。そこで、今回、神戸東RCの未来像を模索するに当たって、現状分析→過去(初心)との照合→未来への展望の手法をとりました。未来という見えないもの見、語ることのむづかしさをいやと言うほど、味わいました。幸い、多士済々の委員の方々の侃侃諤諤、喧々囂々の議論に助けられ、導かれて得た成果です。過去との照合を重視し、ロータリーが本来持つ自己との同一性維持の為に、過去との照合を重視し、ロータリーが本来持つ自己との同一性維持に努めましたので、楽しく、突飛もない夢物語ではありうべくもなく、ご覧のとおり、全く常識的なもので、当り前の結論になっております。模索した理想の神戸東RC像は、かつて昔の、ロータリー像を拠り所にしたために、それはもはや、退化したロータリーだという批判も一部にはあるでしょう、それを追い求めているロータリアンも、退化したロータリーこそ進化したロータリーだということになりますと、日本のロータリアンの数は会員増強どころか、急速に減少するであろう事を私は憂えます。5年後には、日本の会員数8万人、1クラブ平均会員数25人の時代が到来している可能性だってあります。ともあれ、神戸東RC創立55周年を迎えるに当たって、考える機会が与えられたことを感謝いたします。議論を通じて感じましたことは、私たちが提言事項としました神戸東RCの理想像は、既に数十年前から議論され、追い求められてきた、いわば常識の域を出ない、当り前の結論であります。当り前のことが、当り前に出来ていないことが問題だと思えます。

おそらく5年、10年後にも同じ議論が繰り返されていることでしょう。

.....

以上は“神戸東RC創立55周年記念誌”に、これまでの未来委員会活動内容を報告すべく、毎月の委員会議事録をもとに、委員長の私見を交えながら纏め上げた、レポートであります。しかしながら、本委員会が発足してわずか9ヶ月、各回の議論は白熱し、委員会の総意として発表することを憚りましたので、脱稿する前に、委員の皆さんにお集まりいただいて、このレポートの読後感、ご意見を伺い、出来る限り委員会の総意をくみとるべく委員会を開催しました。議論内容を、委員長の私見を、一切さしはさむことなく須藤さんに記録していただいた議事録をそのまま掲載させていただきました。半ば座談会形式に記載されておりますので読みやすく、会員の皆さんには委員会の意図し、目指している方向性のようなものをご理解いただくにはお役に立つものと信じます。(H.21.3.22 記)

H.21.3.18. 神戸東未来委員会討議内容(議事録から)

日時:2009年3月18日 水曜日 18:00~

参加者:戸山、小倉、高嶋、植村、野田、松下、横山、吉田、久野、須藤(敬称略)(赤木、樽本委員は当日御欠席)

議題:神戸東55周年記念誌へ投稿予定のレポートを読んだの読後感、御意見について

**神戸東RC未来委員会(H.21.3.18)まとめ(議事録)**

- 60周年に向けて、神戸東クラブを会員数100名以上の、誇りあるクラブとして成長させていくというコンセンサスが得られた。下記の議論で意見を集約すると以下のとおり。
- ・ガバナー支援を盛り上げる啓発をしていく必要がある。 ・未来委員会は継続する。
- ・今後内容を研ぎ澄まして絞り込んでいく。 ・職業奉仕に関する記載が抜けている。
- ・周年誌に載せるには読みやすいように校正を考える。
- ・10項目の提言は、今後の展開を見据えて1~3項目程度に絞り込む。
- ・提言の中から各年度の執行部がよしとするものを取り上げ、活動にくみこむ。
- ・提言内容を情報委員会が会員に啓発する。手段として、ラウンドテーブルを開催することを考える。

以下に、委員長挨拶、及び各委員の発言の要約を名前記載で話題別、時系列に示しました。

■ 委員長挨拶の要約

- 55周年記念誌に未来委員会の報告を載せる。
- 各月に開いた委員会のたびに、その議事録をもとに意見をまとめてきた。
- これらのまとめに、私見をつけて報告書をまとめた。
- 私見の部分も多いので、未来委員会としてではなく、委員長 久野薫の名前で出させてほしい。
- 3月末締め切りなので、できれば書き改めることは避けさせていただきたい。
- 報告書の最後に今日の皆様の意見を載せたい。これをもって会員の皆さんには委員会の総意を汲み取ってほしい。

■ 各委員の意見の要約

1. 報告書の内容、まとめ方及び周年誌への掲載方法について

高嶋:最後のページの10項目が提言となるのですか。

→久野:現段階ではそうです。議論がまだ、につまんでいないからの結果です

松下:報告書は20ページだが、記念誌全体は何ページくらいになりますか。

→小倉:会員全員が寄稿してくれれば100ページ、そのうちこのレポートがメインで25ページくらいになる予定です。

野田:内容は努力して書かれている。個々の議題の結論はすぐには出ないと思うし、無理に結論付けしなくてよい。1年間やったことをまとめ、それに委員長私見を付け加えて書かれているので、これでよいと思います。

高嶋:今の10項目は大事だが、項目はまだ増えていくかもしれない。職業奉仕に関する見解が抜けています。

小倉:しっかり書かれているが、当クラブ会員に読んでもらわねばならない。これをどのように周年誌に載せるか工夫がいるでしょうね。

松下:周年誌に載せる趣旨はわかりました。どのように載せるのか。提言が目立つようにしてはどうか。また、アンケートとか、皆の意見がどうだったかということがわかりやすいように、編集したほうがよいと思います。

→久野:アンケート結果は昨年の週報に報告済みとっていますが。

高嶋:これは中間報告ですか。

→久野:実情は中間報告とすべきですが、周年誌に掲載した時のインパクトを考え“提言”としました。確かに職業奉仕が抜けていますが、最も重要な課題ですから、次年度に繰り越しました。

野田:職業奉仕は次の課題でよいと思います。“提言”という言葉は重くとられます。“中間報告”としてはどうですか

久野:単年度で結論を出しにくいですが、周年誌掲載の為の一応のまとめとして、先のような考えで“提言”とさせていただきます。

小倉:“提言(その1)”ということにしたらどうですか。そうすれば中間報告の意味合いがでるのでは。

戸山:今後も継続していくのだから、“提言(その1)”でいいんじゃないですか。また、これらについて会員から反論が出ればよしと考えたいですね。

2. 報告書に書かれている提言の絞り込み、及びクラブ運営への生かし方について

野田:次年度委員長がまた異なる持ち味でまとめて行けばよいと考えます。

植村:委員長が代わっても続けるのですか。

野田:そうです、今年度で継続を決めて、次年度理事会で承認する形をとるつもりです

久野:植村委員から10項目は多すぎるとの意見をいただいたが、内容を研ぎ澄ましていけば自ずと提言の数は減ってくると考えております。

戸山:WCSに関しての直木氏の話は面白いと思いました。直木氏はわがクラブでも名誉会員でもあ

ったことだし大きな話であると思います。

高嶋:誇りあるクラブにするということが最終目標になりそうですね。

松下:神戸クラブは、法人会員が多く、地場という観点からすると神戸東クラブであり、そこにわがクラブの特徴や良さがあると思います。

野田:神戸東クラブを、魅力のあるクラブとして、成長させていかねばならない。そのために設置された未来委員会です。

久野:最終的には内容を研ぎ澄まして、現在の20ページ余りを1ページ位に収まるようなものになりたいと思っています。

植村:会員数は3桁を守るという目標を持ち続けたいというのが委員会のコンセンサスですね。

野田:他クラブの方に会員数を聞かれて105名という、一様に3桁を維持していることに驚かれます。会員数は大事なことだと思います。

戸山:ところで、どのくらいの数の会員がこれを読むのでしょうかね。

久野:読んでもらえるように、グラフや図を取り込んでビジュアル化したつもりですが、石橋会員のプロとしての構成に期待するところがあります。

植村:力を入れたところに印を入れて、校正で強調したほうがいいんじゃないでしょうか。

須藤:委員会で議論し結論を出した内容と、私見の部分をはっきり区別したほうがよいと思います。

→久野:一応は“私見”と記載したつもりです。

植村:具体的な活動内容は各年度の会長が決めていくことであり、あまり細部に書かないほうがよいのではないのでしょうか。

高嶋:この提言が55周年記念誌にですが、各年度はこれに束縛されることなく次年度松下内閣も、この中でできるものを取り上げればよいと思います。

松下:報告書に示している内容は、すべて正しいと思う。

久野:確かに、これら提言にクラブが縛られることを懸念する意見も聞いていおりますが、皆さんの御意見のとおり単なる参考にしていただければよろしいと思っております。

小倉:いままで、ロータリークラブで5年間という、長期の話をまとめて長期計画を作ったところはないでしょう。それをやったことが大事であって、その、やるという熱意が大事なことです。

戸山:これに色んな人が参加していけばよい。

植村:これでラウンドテーブルをしたらどうでしょうか。情報委員長も参考にされたらよいと思います。

横山:この報告書は、レベルで言うと、大学生向けである。全会員に読ませるのは無理があります。次に高校生、中学生向けにすべく努力すべきです。最後に、それこそ、1ページ位の長さの小中学生向けにすべきだと思います。

戸山:ロータリー情報委員会が教育をしていかねばいけませんね。

高嶋:クラブフォーラムやラウンドテーブルでやっていけばよいでしょう。ただし、ラウンドテーブルをメイクアップ対象にして、人を集めようとしていることには反対です。

高嶋:私は会長、幹事の経験の中で勉強しました。一般会員の教育は情報委員会がやるべきです。今度、周年誌に載る幹事経験者による座談会のテーマは、本報告書を元にやるつもりです。

### 3. ガバナー輩出及びその支援について

植村:アンケート結果によりますと、若い会員にガバナー輩出への反対が多いようです。こういう中でこの報告書を出していくことは大変だと思います。

戸山:一部の人で決めるのか、皆で決めるのが問題。皆で参画意識を持って選んだという意識が大事なことです。

野田:その点で言えば、今回のガバナー選出については、手順は踏んだつもりであります。

小倉:かって、ガバナーをまずクラブ全員の了解を取ってから出したことはありません。

横山:今後どのようにガバナーの何たるかを啓発していくかが大事になってきます。

松下:他クラブもガバナーをだんだん出しにくくなっているようです。だんだん間が開くのではな

いでしょうか。

野田:今後2年かけて啓発していきたいと思っています。各年度会長もそのつもりで協力してほしいと思います。

松下:在籍10年未満の会員が増えています。ガバナーが何をしている人かわかっていない人も少なくないでしょう。それこそこれから啓発していかねばなりません。

小倉:昔は会長と幹事しか働かなかった。誰も手伝わなかったような印象があります。

横山:今は経営陣が決めたことを従業員が聞くだけという雰囲気強く、他のひとが経営に参加していない印象を受けます。

植村:他クラブでの話しですが。ガバナーを出したらクラブで支援が大変だったという意見があり、これが輩出に後ろ向きな要因となっているのではないのでしょうか。

高嶋:久野選出手順は間違っていないと思います。

野田:これからは内部固めを松下、吉田年度でやってほしい。

高嶋:40名くらいのクラブの人で、ガバナーをやりたい人はいらしゃいます。しかし、理事会は通ったがクラブ総会で否決。他のクラブでもなりたい人はいるが、クラブが押すかどうか問題なのです。

松下:今後は、地区役員から選ばばどうでしょうかね。

高嶋:今回のようにクラブで推薦できたのはまれなケースです。今までは一本釣でした。候補者を見つけて説得するという手法です。

松下:ガバナーをやるとバストガバナーとして以後の10年くらいは地区アドバイザーをせねばなりません。クラブはその間もサポートせねばならない。

### 4. 全般、その他

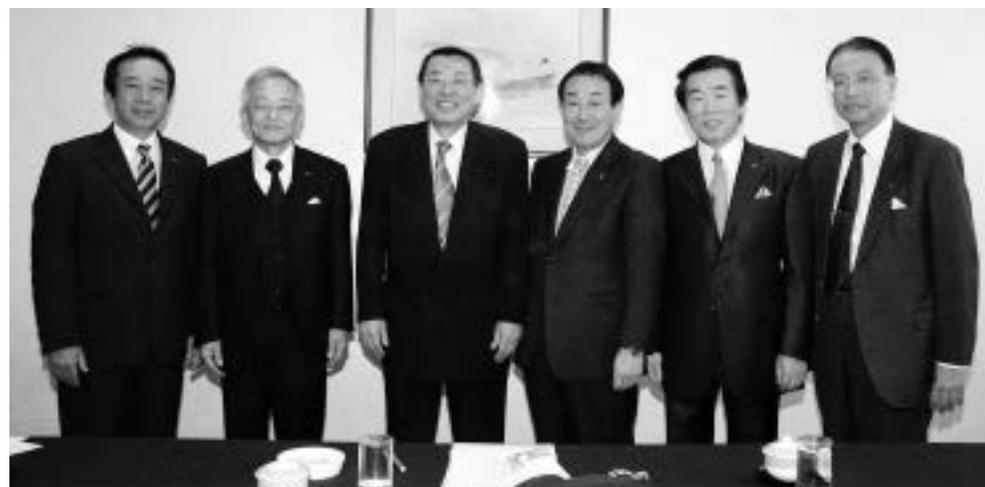
吉田:この報告書について、初見して未来委員会の目的、拘束力がかかれていないのでその役割がよくわかりませんでした。読んだ人がどう感じるだろうか不明です。総論を中心にして各論は抑えていってもよいのではないかという印象をもちました。

第二部 座談会「我がクラブの将来はどうかあるべきか？」



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY

# わがクラブの将来はいかにあるべきか？ 60周年をめざしてクラブ改革の灯を掲げよう！



- 出席者 野々村 禎之(平成16～17年幹事)  
 松下 衛(平成17～18年幹事)  
 土城 敏彦(平成18～19年幹事)  
 乙守 典厚(平成19～20年幹事)  
 中井 章詞(平成20～21年幹事)
- 司会 高嶋 良平(創立55周年記念事業実行委員会 副委員長)

## 楽しいクラブとは？

高嶋 55周年を迎えて、わがクラブの将来はどうあるべきか、未来委員会の提言がありました。提言を簡単にいうと、①クラブは若くて行動力のあるクラブになりたい、②仲良しグループの寄せ集めではなく一体感のあるクラブになりたい、③世代間のギャップをなくし老・壮・青の交流をもっと深めていきたい、④もっとロータリーの勉強をするクラブになりたいというものです。クラブの中心はクラブ奉仕であると思いますので、楽しいクラブはどん

なクラブか、まずお話いただきたい。  
 野々村 私が幹事をしたのは51周年目で、RI創立100周年の年でした。それを記念して会長が『ロータリーの魅力』という随想集を発行した。そのとき30数名の方が寄稿されていますが、内容を見てみますとたくさんの方が「楽しい」と書かれていました。結局ロータリーに対して費やしている時間ということではないでしょうか。幹事のときは前日から頭の中でロータリーという時間がありました。  
 松下 楽しい・楽しくないは、104名の方の思いがそれぞれ違い、104通りあると思う。クラ

ブとして、居心地がいいかよくないか、自分の思うとおりかそうじゃないか、いろいろ言い方はありますが、私は目安は退会率だと思います。こんなクラブにおいても仕方ないと思ってやめる方が多数おられたら、それは楽しいクラブではない。幸いそういう方がいらっしやらないので、全体的に東ロータリーは楽しいクラブとして存在しているのではないかと思います。

土城 確かにとらまえ方はいろいろあると思いますが、私は人と人とのふれあいだと思います。仲間がいるから、来たらしゃべれるからぐらいの単純なことやと思うんです。経営者は孤独ですから、愚痴を聞いてくれるとか、そういう仲間を作る。やめた人は「何のためにもならん」という。入会を求めても「何になるの」という。そういう面からいうと、人と人とのつながりの輪が104名。あいつがおるから行こうと、人と人のふれあいがいいんかなと思います。

乙守 スポーツとか趣味でつながっている人もいます。それから、執行部に入ると何か執務をしないといけない。今までやったことのないことをするので、いろいろ聞きながらせいやかん。忌憚なく意見を聞くのに飲みながらやろう。また、地区等に出たもの同士がコミュニケーションをとるようになる。初めてのことに對して不安やというので、新しい付き合いが始まっていく。そういうこともたくさん経験しました。

中井 最初入会するときは、毎週1回の会合は仕事上大変ではないかと思いました。けど毎週1回来ると、「よかったな」となりました。何も知らないときは食わず嫌いの状態で、何が楽しいのかわからない。ただ忙しいというのでヘジテイトしていた。実際にやってみる

と参加してよかった。そのひとつは委員長や委員をすることで、「みんなのために自分に何ができるか」とがんばってみる。それがだんだんと楽しみになってくる感じ。参加して何かやってみる、その中で喜び楽しみを見つけてくださいというのが今に至る気持ちです。

## 卓話と出席率は関係するか？

高嶋 「ロータリークラブは一生の付き合いをせないかんのやで」とよく言われますが、それが人と人とのつながりの原点やと思うんです。「楽しいクラブ」というのは抽象的かもわかりませんが、親睦会も例会も全部に引っかけてるんです。例会も楽しいということで出席率が上がると思うのですが、出席率と卓話についてご意見をお聞きたい。

中井 出席率を上げるには、卓話の内容も関係します。例会が46回あれば46通り違うわけですから、好みによると思います。歴史の好きな人もいれば、経済に関心の高い人もいます。今年はあまり有名な人、いわゆる客寄せパンダというような人を選ばずに地道に重ねていこうというのが目標でしたから、その点は達成できたかなと考えています。

乙守 あまり堅苦しくなると行きにくい。行くとみんなと話ができる。私はあまり卓話の内容やプログラムの内容に左右されたことはないんですが、「今日はこんな卓話やなあ」「こんなプログラムやな」とそれを楽しみにする人もおるし、食事を楽しみにされる方もおられます(笑)。私の場合は皆さんと会って、気楽に話できるということですね。



土城敏彦会員

**土城** 今出席率が落ちてるのは社会情勢もありますよね。私が幹事のときは出席率は良かった。やはり絶対行かなあかんと思うと長続きしない。幹事のとき悩みました。見とったら皆さんいつも同じ席で、居心地のいい席というのがあつた。あいつがいるから行くというのももちろんある。友達がいなければ自分で努力せんとあかん。でも、それができない人もいらっしゃる。法人会員も孤独なところがある。横の方が引っ張り込むことが大切になる。卓話については、ほくもプログラム委員のときに友達にお手伝いいただいて考えたんですが、ゴルフの坂田信弘さんと呼ぼうとしてよそのロータリーに取られました。年間70万円と決まっていますのでなんぼ出しても5万円。会員の中にもすばらしい卓話をする方がいます。会員の中で卓話を回すのもいいかなと思います。その辺もバランスを取りながら、考えていくことが大事。勉強になります(笑)。

**松下** 例会の出席率を上げるためというより、ロータリーはメンバーシップですから。例会がきちとなされなかったら成り立たない。そもそもロータリーのような会に入るということは、例会に出席するという心構えを最初に持ってもらわなかったらいけないのではな

いか。R I は実験的に例会数を減らすという試みをやっている、月に1回でもいいみたいですが、メンバーシップの集まりですから、メンバーが集まる会合が一番大切だという基本を、皆さんに自覚してもらわないとしょうがない。基本的には、おもしろいおもしろくないは関係ない。次の段階でおもしろいほうがいいとなるわけです。卓話はメンバーがするのが基本ではないか。高嶋さんが会長のときの議事録を読みましたが、メンバー全員に卓話が割り当てられて、自分がせずによその人を連れてくるとビジターフィーは自分で払いなさいとなっていた。今は会で持ってますよね。

**高嶋** ああ、それはルール違反やね(笑)。

**松下** 卓話は基本的にはメンバーがする。自分がしないときはどなたか呼んでくる。その経費は本人が負担するのが基本ではないかと思ひます。

**野々村** 最近、メンバーのバックグラウンドがわからなくなってる。卓話を会員がすることによって、自分の仕事はどうだとか、趣味がどうか出てくるんですが、それが最近抜けています。それも出席率に影響しているのかもしれないですね。今3週先まで卓話のテーマが載っていますが、「今日の卓話は興味が無いから、行かない」というわけじゃない。卓話がどうであれ、料理が洋食であれ和食であれ、出席するわけです。義務感というか、出席しなければという意識を持たせるのが、出席率を上げる第一の要素だと思います。

### もっとテーブルでのふれあいを

**高嶋** うちのクラブでは、全部自由席になっ

ているので、テーブルは仲間やと思うんです。仲間だけで楽しかったらいいのかということそうではない。先輩会員と後輩会員がもっと交流できるような雰囲気作りをせないかんじゃないかと思うんです。1部の先輩会員が固定席のような時があったが、ぼくらがそこへ入っていくべきなんです。われわれが率先して入っていくことによってほかのメンバーもみようみまねで入っていくのではないかと思うのですが……。

**土城** ご年配の方だけで固まっている場合、それをばらしたらどうなるか。そんなことは恐れ多いのでできない。ただ、基本的に自由席ですから、何かのときは離れてすわってもいいんじゃないかと思ひます。でないと横のつながりがありにも少人数になる。10人のテーブルがいつも顔見知りで、違う方が入ると異分子が入ったような気がする。一番いいのは、後ろの人が一番前に行かれる。そこでまた慣れてくる。それで結構混ざってきたかなという感じがします。

**乙守** どの席が特別な人が座るかわかりませんが、幹事経験者がいろんなところに座るのはひとつのアイデアやなと思ひます。幹事経験者は毎年増えていくわけですから、うまく行くんじゃないか。だけどこういう話を聞いてなかったら、われわれもすぐ親しい人の席へ行ってしまう。これからは心がけたいと思うけど、大切なのはそういうことを考えさせる「気づき」ですね。気づいたらロータリーの人はようわかった人ばかりですから。

**松下** 毎年SAAは「こういうテーブルを作りたい」と必ずいってますね。年によっては誕生日とか干支とかいろいろやりましたね。ひとつはSAAがその方針を繰り返しメンバ

ーに広報する事。それから例会の次に大切なのが委員会ですよね。基本は委員会に全員配属されているわけですから、まずは委員会ごとのテーブルで、委員長が積極的に若い人からお年寄りまでの委員のコミュニケーションをとってもらうことからスタートしたらどうでしょうか。

**中井** もし席を決めるのなら3ヶ月間ぐらいのうちに決めないと、いったん自由席にした後で指定席にするのは難しい。委員会別もひとつの方法です。今年は新入会員だけは各指定テーブルに着いていただいた。それも新入のときだからできるので、慣れてからもう1回戻れというのは無理ですね。それも3ヶ月ぐらいで自然に自由になりました。そういう方向で行くのなら、最初にSAAで決めていただいて、上半期でやっていただきたい。

**野々村** 誕生日で分けても、本来なら1つのテーブルからドッと立つのが当たり前なのに、あっちで立ち、こっちで立ちとなる。それ自体がばらばらになっている証拠だと思います。今SAA1人、副SAA2人という構成になっていますが、いっそのこともう少し人数を増やして交通整理をして「そこに座りなさい」という方式にすれば、もっとテーブルの顔ぶれが変わるのではないかという気がします。



野々村禎之会員

高嶋 昔は、各テーブルでテーブルマスターを決めていた。ビジターが1人でもいると、テーブルマスターが中心になってちゃんと接待しました。ほかのテーブルマスターは、卓話中に私語をする人にSAAの代わりにしていただきます。そういうことも必要なんです。いやごとはなかなかいいにくいけど、それをシステム化していかないと将来はない。もう少ししっかりそういう制度を作ってもらわなあかんと思います。テーブルが変わることによって会員の違う面が見れる、あるいは会員卓話をするによって、「あの人そういう人やったんか」「こんな趣味を持ってはったんか」という新しい発見があって、テーブルに座ったときにその話につながる。そういう好連鎖をしていくように思います。

### 心のふれあいは手作りにこそ

高嶋 次に親睦会のあり方についてご意見をお聞きしたい。今受益者負担になっているのが現実です。うちは100人以上のクラブで、古いメンバーと若いメンバーの年齢が大きく離れているので、親睦会もお年寄りメンバーは「もうかなわん」となり、「何や若いやつばかりがやっとならないか」となる。「将来の親睦会はこうあるべきや」というのを、幹事経験からいい知恵があったらお伺いしたい。

野々村 お酒の好きな方でも年齢的な問題で、「1人で出歩くのが大変や」という方が増えて、「夜の宴会はあまり出たくない」という方も多。どこかに出かけるのも、昼間で、乗り物に乗って歩かなくてすむような場所を選んで親睦するのがいいのかなと思います。

高嶋 家族旅行も合わせてご意見をお願いします。家族旅行も1泊で行く必要はないと思う。日帰りでも家族旅行は家族旅行ですよ。

野々村 京都に何年か前に行きましたね。都踊りを見ました。ああいうのは結構話題としていつまでも残っていますね。

松下 幹事のとき非常に悩みました。できるだけたくさん参加してほしいと。いろんなことを考え出すと、中途半端になります。お年寄りに中心を置くと若い人に不満が出る。若い人に中心を置くとお年寄りに不満。奥さんに中心をおくと旦那が何かいう。飲めない人中心か飲める人中心か、いろいろあります。基本的には、自分たちみんなの手作りで、簡素だけでもみんなで一生懸命やっているという会ができれば、ロータリークラブとしてはベターではないか。業者任せで、業者が全部段取りしてそれに乗っかるということではなく、自分たちでやる。昔は花見によく行きました。須磨浦公園に行って、桜の下で弁当広げて食べた。そういうのができないかと思。よしんば雨が降ってもみんな文句をいっただめです。それを恐れて、「雨降ったらみんなに文句言われるんちゃうか」叶わんと思うからできるだけ無難に無難にやりすぎて、結局既製品に乗っかってしまう。元に戻して、自分たちで全部計画してやるのがいいのではないか。家族旅行も一緒ですね。

土城 親睦会は今受益者負担ですね。昔は、結構いただいていました。コンパニオンもいました(笑)。今は足の悪い方が多いから、座るときは座椅子が必要です。椅子席も必要ですね。〇〇会員が「行かへん」というので、「どうしてですか?」「座るのがいやや」畳あげて全部椅子に変えたことがある(笑)。それぐらいの

気持ちがあってもいいかな。それと奇をてらう場所は好きじゃないですね。50人前後が、顔も見れる場所。ある程度決まってしまうかもしれない。家族旅行は奥さん、子ども中心にしたげなあかんし、費用的にも3万円に押さえないあかんとなると、委員会費を使って半額負担するとか、ロータリーらしい支出も考える必要があるのでは。こういう時代やからこそ逆に、もうちょっと予算あってもいいと思います。松下さんもおっしゃいましたが、花見が何でないやと。寒くて風邪を引くかもしれないへんけど、それはそれで楽しい思い出になるし、チーム一丸になる。確かに無難になって、時間が流れたらいい、行ったら早く帰りたい、先輩が多くてうっとおしい、先輩は若いもんばかりでおもしろくない。ちょっとひと工夫いるような気がします。

高嶋 委員会予算が削られたのは、緊縮財政になってからで、以前は潤沢に回っていたから、親睦会で100万円、家族旅行でも100万円取った時代もあった。

土城 このごろは親睦と家族で50万円ぐらいしかない。

高嶋 ただ今のシステムでは理事会で上程していけば、予備費から出る。

土城 必ずオーバーしますやん。それなら最初から付けてあげたら。後からは言いにくい。高嶋 ここんところの流れはそうなっている。親睦委員長が80万円ぐらい出しとけば、理事会では50万円に削らないと思います。

土城 親睦委員長が慣れてたらいいけど、初めての方ならあてがいがぶちでしょう。ちょっとかわいそうやなと思ってね。

乙守 旅行や親睦会はいつも予算で文句いわれるから、それがいやで無難なところに行つて

しまう。そうすると「あまりおもしろくない」となる。皆さん遊びだしたら結構金を使う人もおられるのに「これは何や」となる。安くておいしくていい雰囲気のところってなかなかないですよ。昔の先輩は「わしらのとき安うてできたのに」という。その予算がどこから来たのか(笑)。受益者負担をもう一度説明しないかん。幹事役の人は、「そんないわれるんやったら無難なところに行こうかな」となって、結局「あんなところやったら行きたくない」となる。



中井章詞会員

中井 親睦会の費用に関して「飲み食いにクラブの金を使うな」という不文律が出てきて十分なことができない。それに対抗して、親睦委員会と家族委員会を分けて、それぞれに予算をつけましょうというのが、今年のやり方です。自分が家族委員長をしたときに350万円ぐらい回って来たような記憶がある。100万円はお返ししましたが、今年は70万円から90万円にやっとな増えた。それでも「飲み食いに使うのはよくない」という不文律があるので非常にやりにくい。私は、ある程度の補助をクラブから出すのも楽しい会を作るために致し方ないと思います。家族旅行も1泊にこだわることはない。みんなで一緒に行くと結構楽しい会になるんです。それを知らない会員さんが

多いので、できるだけ「こんな楽しい会ですよ」とアピールするのが今後の方向ではないかと思えます。

**高嶋** 親睦会にしても家族旅行にしても、原点に戻ると人と人の接点です。一杯飲みながら親睦会の中でいろんな先輩と話ができる。今までぜんぜん話してなかったのが、親睦会のあとから距離が近くなったというケースもあります。これは必要なものやと思えます。やり方、企画、金額の問題になりますが、これがなかなか難しいものがありますね。

### 委員長の選任も改革のメスを

**高嶋** 皆さん幹事経験者ですから、会長が決まり、幹事を拝命し、委員長を選んでいきます。その年の会長・幹事の色がそこに出てくると思うんです。今までは、暗黙の了解で、委員長は比較的年季の入ったメンバーにお願いしようかと思っていましたが、これからは思い切って入会后2年ぐらいのメンバーでも委員長や副委員長やったらええやんという意見があります。もうひとつは去年の活動報告を丸写しして今年度の方針ですと(笑)。これもどっかで止めなあかんと思えます。委員会のあり方を含めて、ご意見を伺いたい

**中井** まず、法人会員を起用するのは重要だと思います。2年とか3年で転勤されますが、有能な方がいっぱいおられます。去年でしたか平岡さんを委員長に起用しました。今年退会されましたが、企業としてのやり方とか参考になりました。私はビジネスマンではないので、企業の立場を理解しにくいところがありますが、そういう方に委員長をしていただ

くのはいい方向です。それから、前年度の襲踏ではなく……。

**高嶋** 踏襲では？

**中井** 麻生さんになった(笑)。毎回「何か新しいことはありませんか？」と声はかけていますが、経験の少ない委員長さんは自分で考えて書いてくださいます。年齢を重ねてきますと、「例年通りでええやんか」となりますので、委員長の選び方と幹事が「何か新しいことは？」と声掛けしていくしかないかなと思えます。

**乙守** 委員長さんは「無難に行きたいな」が多い。大体日本人でそうでしょう。前例どおりにやるとしたら波風が立たない。ちょっと違うことやると「何でや」となる。そういうのが刷り込まれているのではないかな。それから、平岡さんの話が出ましたが、私もあまり知った方ではなかったんですが、「お願いします」「やりましょう」となった。今年の3月退会されたんですが、たくさんの知り合いができたんじゃないかと思えます。企業から来られた方でいつ入っていつやめたかわからん方もたくさんいます。そういう方からするといいので、これからそういう方にどんどんさせていってあげると仲間もできます。転勤されても手紙が来ます。これから幹事になる方にアドバイスしてあげたいと思えます。

**高嶋** 法人メンバーさんが委員長を拝命されて転勤された。そのときは副委員長を昇格させたらいんですよ。理事さんの場合は選任しないとイケませんが、副委員長は年度末まで委員長兼務でやっていけば支障はないと思えます。

**土城** 平岡さんが若くして、また企業の人として入ったので、びっくりしました。財務の人らしく鋭い意見が出て、若いしさすがやなと。

いままで僕は考えたことがなかったのですばらしいと思いました。入会が浅い会員でもやる気のある方、熱心な方がいらっしゃいますし、それをピックアップするのは全然問題がないと思えます。法人の人は転勤があるといいますが、委員長になるのは溶け込むには一番でしょうね。びっくりしたのは久野先生が会長経験者を起用されたこと。あれはあれですごい試みでした。ぼくが委員長するとき、15年間で誰がどれしたかと調べたら、あまりにもしんどい、かわいそうやなという方もいらっしゃいました。黙っている人でも一生懸命やっている人がいる。やればできる優秀な方ばかりですから、平等に公平にするべきやと思えます。



松下 衛会員

**松下** うちのクラブは人数が多いから、人選もできます。できないクラブは入会の浅い古い関係なしです。その年の会長・幹事の方針で、委員長・副委員長を選出されたらいいと思います。同じ方が何回もするというのは問題ですし、法人だろうとなかろうとクラブに入会された以上はみな平等にやっていただく。特に委員長をされてない方は、やっていただかないと困ります。やるにあたってはみんなが助ける、それでないとクラブではないと思

ます。こだわりなく選別したらいいんじゃないでしょうか。ただ、久野さんが会長のとき、会長を経験された方々にお願いをして皆さんに委員長をやっていただきましたけど、あれは実は……。

**高嶋** 実質は副委員長。

**松下** 副委員長さんを育てていただくということでやったもの見事に会長経験者の方も、本当にびっくりするぐらいに活動をしていただきました。改めて敬服しました。

**野々村** 委員長に関してはこだわりなく選んだほうがいいと思います。前年度の踏襲の問題は、委員会の運営や事業の内容を知らなさ過ぎるから前の事業を引きずってしまうのではないかという気がする。そういう意味では浅く広くいろんな委員会を経験できる、そういうプログラムを作ったほうがいいんじゃないかと思えます。ぼく自身も一度もやったことのない委員長を急にさせられて何をしたらいいのかとなったこともありますから。特に四大奉仕の委員長は、過去に委員会で経験をした人がやるべきではないかと思うんです。そうすると、何か新しいことをしようと思う。やったことがなければなかなか思いつかないのが、実情です。クラブ奉仕の各委員会の委員長は、入会年度の浅い人にしたらどうでしょう。

**高嶋** その年度の執行部が、過去のことは振り返らないと、ある程度の方針を出してあげないといけないと思えます。それに沿って、社会奉仕も小委員会も目標を立ててください。ただクラブ奉仕の小委員会はそんなに目標が大きく変わりません。全体でどうするか決まれば小委員会がどうなるかということです。職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委

員会、ここは会長のカラーが出ないといけない。そこは会長・幹事に将来なる人がよく考えて改革していかないと、いつまでたっても同じ繰り返しになるんじゃないでしょうか。

**松下** クラブ協議会というのがありますね。全部の委員会に対して、その年度のR Iの会長や地区ガバナー、クラブの会長が方針を出しますから、それに従って各委員会に何をやっていただくかということ、前もって諮問しないといけないと思うんです。前年のコピーを各委員長に渡してしまうから、みんな前年度と同じものを出すことになるんじゃないか。普通、企業で年度の予算や方針を決めるときは、前もって会社の方針やテーマがあって、それに基づいて作る。それと同じで、クラブもそういう形でやっていけばいいのではないか。だから第1回の協議会のときに会長がそれぞれの委員会に「こういうのを中心に考えてください」とメニューをいうべきだと思います。

**高嶋** そうですね。これからの会長は大変や(笑)。

**松下** 次年度はそうしようかと思っています。

**高嶋** ぜひその実績を作ってください。

**松下** もう社会奉仕委員会にはお願いをしていますよ。

**高嶋** ガバナーも地区の委員長に諮問事項を出してやっています。わがクラブも当然その形は理想的ですよ。

**松下** そんなに大きくは、各年度の方向と違いはありませんが、最初にやろうかなと。

**土城** そこさえ押さええたら後はね。

たとえば米山とかロータリー財団でも同じことで、目標と希望金額を聞かれる。ただけならやりがいがある。どうでもいいわと流されたらジリ貧になる。親睦ならおもしろいやりし、委員会によっても違うと思います。

## もっとロータリーの勉強を

**高嶋** ロータリー情報にはいろいろありますが、うちの場合は、ラウンドテーブル、クラブ協議会、あまりやっていませんがクラブフォーラム。ロータリーの勉強というところに絞ってご意見を伺いたい。うちのクラブはロータリーの勉強をあまりしていないと思う。昔はロタキチという先輩ロータリアンがたくさんおられて、若い幹事がよく叱られた。ほくらそれを横目で見ている。そのうるさいメンバーが亡くなったり退会されたりして、今はロタキチも口うるさい先輩もおられない。ロータリーの勉強がおろそかになると思うんです。どういう形でロータリー勉強を持ったらええんか、ご意見を。

**野々村** ロータリー情報だけでなく、委員会もそうだと思うんです。年に何回か例会のなかで委員会の時間があってもいいんじゃないか。テーブルも委員会ごとに固めるのもひとつの方法だと思うんです。年度の終わりに1回とか、「来年はこの委員会に所属するんや」という意識づけをすれば、その何ヶ月後には委員会の動きもわかってくると思うんです。それもひとつのロータリー情報になります。

**高嶋** 例会中に各テーブルで委員会をやるのですか？ 卓話なしで。

**野々村** そうです。

**高嶋** 委員会だけのテーブルで、委員会の打ち合わせをやるということやね。

**野々村** そういうのをやると、意識付けができるのじゃないか。自分が何の委員会に入るのか知らない方が結構おられますので(笑)。そういうところから入るのもひとつの方法ではないかと思います。

**松下** 野々村さんがいうように例会をもっと活用したほうがいいんじゃないかと思います。卓話は基本的にはメンバーがするのがいいとしましたが、ロータリーの情報に詳しい執行先生、高嶋さんとか久野先生の資産を活用？ しないともったいない(笑)。年に何回かはそういう卓話もしてもらおう。例会のなかでやるか、例会が終わって1時間半の範囲内でやる。例会もしくは例会の延長線上でやることをもっと考えてもいいと思います。

**土城** ほくは絶対例会の中ですね。毎年5人以上新しい方が入られますよね。昔聞いたけど今はよくわからない。ほんとに一から教えてもらうほうがいいと思います。ラウンドテーブルも改めてという感じになりますでしょ。3年未満の人はびびって聞かれへん。その辺も入りやすいように、最初は例会で月に1回でいいですから、月初の時間の少ないときにでも入れていただければ、ありがたい。聞きたい人はいっぱいおると思うんです。

**乙守** いい意見ですね。例会なら必ず出てきます。テーブルごとに1回やってみるのもいい。ほくもロータリーのことあまり知らなかった。どこが一番ロータリーのことをわかったかという、ロータリー情報委員会。新入会員のインフォメーションを作りました。

**高嶋** ああ、作ってくれた。

**乙守** あれで大分わかりました。インフォメーションをせいといわれて、会長経験者の本を読んだら、ある先輩からこれを作れといわれて、それは大変でしたが(笑)、ロータリーことはわかってきました。すると地区にいった話を聞いてもよくわかる。それにプラス、例会で委員会ごとに集まれば、自分の委員会に誰がいるのか知らん場合が時々ある(笑)。

**中井** 私も例会中にやるのがいいと思います。今年、野田会長がバズセッション年4回といわれた。テーマごとにテーブルを決めてディスカッションをする。それが一番わかりやすいのと違うかな。関西ロータリー研究会とかありますが、なかなか行けない。行ってみるとおもしろいこともあるんですが、現実には難しい。

**高嶋** 例会中にロータリー情報、あるいはロータリー勉強を挟んでいく。これもぜひ(笑)。  
**野々村** 委員会の開催を夜にやるとかいうと、年配の方が「もうそっちでやっついて」という話が結構あります。

**高嶋** 例会中に委員会をやるのもいいですね。卓話をやめて好きなように雑談してください。料理もゆっくり食べてください。そんな例会があってもええなという話があります。しかし実行した年度はない。

**松下** 次年度は検討したいですね。

**高嶋** もうひとつは、よそのクラブですが、月に1回だけモーニング例会をしてる。通常は12時半から。それは定款細則にうたっているらしい。今の話は移動例会やから、定番にする必要はないけど、いろんな人と会話ができる場面ができるんじゃないかと思います。

**松下** ロータリーの集まりの中で、朝飯の例会を1回もしたことはないので、1回ぐらいしようか、いうとみんなええ？ という(笑)。年寄



りが多いので朝はええんちゃうかと思ったんですが、意外と反応はよくなかった(笑)。

### 神戸東ロータリークラブの適正会員数は？

**高嶋** 神戸東クラブの会員数は、今日2名入られて105名になります。今まで未来委員会で適正会員は110名という目安が出ている。一番多かったのが135名です。やっぱり100名台はキープしとかなあかんと思います、そのあたり何かご意見を。

**土城** 100名をきるとなし崩しのようになってしまうような気がします。110名はほしい。

**乙守** このホテルに事務局を置いて例会をしていくとなれば、計算すると何やかやで110名が適正やかと、ぼく試算したことがあるんです。よそのクラブは70名でどうやってるか？

**高嶋** 大まかにわかるのは委員会予算をゴツゴツ削ってる。飯代は変わらない、事務経費などは子クラブと折半しているケースもある。うちは1クラブで部屋を借りてるけど……。

それとうちのクラブは以前から節約ミリオン。今年の予算でも一応予備費を取っとるけど、実際に理事会で請求が来なかったら単年度で約150万円の繰越金があるはず。ぼくの基本的な考え方は年会費で1年間をまかないきれたら、繰越金はいらん。今まで繰越金を食ってきたわけです。

**土城** 半額免除があったから。

**高嶋** それを元に戻した。それで財政が落ち着いてきた。

**松下** そのほうがいいですよ。会員は平等ですから、半額免除とか時代に合わないと思います。名誉会員制度があるわけですから。クラ

ブ細則は理事会、総会で諮り時代の変化とともにおかしくなったところは変えてゆけば良いと思います。

**高嶋** やっぱり110名はキープしないかん。過去の歴史からしてもね。

**土城** 繰越金を食ってきたのは、今大丈夫なんですか。

**高嶋** 大丈夫、残っていく。あまり繰越金が残ったら、「年会費を安くせんかいや」という話が出てくる。その辺が難しい。

**松下** 本当に余んなら会費を安くしたらいい。実質はニコニコ箱から補填している部分が大分ある。それが本来は本予算でいければいいわけでしょう。

**高嶋** ニコニコ箱はニコニコ箱で対外奉仕の役目がある。

**松下** もっと大きな事業をやりようと思ったらできるんだけどそれができないので、今の現状の事業でとどまっているということがあります。

**高嶋** 皆さんの共通認識で110名。

### 女性会員は是か非か

**高嶋** 次は問題の女性会員です。

**土城** ぼくははっきりいって個人的にはメンズクラブが良いと思います。

**松下** 私は適切な方がおられたらいいんじゃないか。女性だろうと男性だろうと、人物やと思います。

**野々村** ぼくも女性だからというこだわりはない。

**乙守** ぼくは90年代にアメリカに行きましたが、アメリカはものすごい。女性会員の多さにび



乙守典厚会員

っくりした。夫婦同伴かと思ったら、皆さん会員だった。日本でもあと何年かしたら必ず入ってくるやろなと思います。ぼくは嫌やけど(笑)。  
**中井** 個人的には、今の男性会員でいいと思います。なぜかという、うちのクラブの場合、むつみ会が非常にしっかりしている。女性会員が入ると男性がむつみ会に入ることになるのか(笑)、ややこしいことになる。いろんなことを考えると現段階においては、もうしばらくはこのまま先送りでもいいんじゃないかと思っています。

**野々村** ふさわしい女性が多いのは今かもわかりませんからね。

**高嶋** 今、女性推薦せえへんということは、推薦状を出してもケッチン食らうやろうとみな思うてるんかな。あえて火中の栗を拾いたくない、と。

**野々村** 京都に女性だけのクラブがあるんですよね。それもおかしな話でね。

**土城** きっかけとしては大手の支店長が女性のときでしょう。

**野々村** 可能性が一番高いですね。

**土城** それまで待たたらどうですか。

**乙守** たとえば法人会員で、平岡さんの次が女性支店長の場合どうしますか？

**高嶋** 理事会はOKしよるでしょう。

**中井** 断る理由がない。

**乙守** 何にもないところからいきなりいうたら無理やけど、そうなるんじゃあないとなる。

**高嶋** ある会員が「優秀な女性弁護士」と推薦状を出すよりも、企業の支店長が女性で継続推薦で出てきたら受けざるを得ないでしょう。

### 会長の選出にも改革を

**高嶋** 会長選出について未来委員会で議論が出た。うちのクラブでは会長選考委員会があって、そこで選ぶのですが、ひとつの基準が理事をやったとか、幹事をやったとか、暗黙の基準があって、そこから選考していく。神戸クラブはそういう申し合わせがなく、著名人のメンバーがおられたらその人に会長をお願いする。幹事は、うちの春秋会みたいのがあって、そこで選考する。うちの幹事は、会長が一本釣り「頼むわ」となる。それがいいのか悪いのか。今後は、著名な人がおられたら理事を経験していなくても、対外的には顔が売れている人を会長に選出すべきではという意見があるんです。今まで亡くなられた方も含めて退会された方の中で、会長に選ばれてもよかったなという方は何人かおられました。選考委員会から上がって来ないだけで。

**乙守** そういう人が会長になるとまた違った雰囲気になるでしょう。そのときは幹事にしっかり人をつけないといけな。

**高嶋** 会長さんはクラブの顔やから、実務は幹事が執ったら十分にいける。

**土城** 神戸の幹事は、幹事会からですか？

**高嶋** 神戸も若手をようけ取ってるからね。

幹事候補者多いですよ。今後の選考委員がそういう考え方をもってらわなあかんと違うかと。

**土城** 選考委員会は何年ですか？

**高嶋** 5年たったら卒業。将来の課題でもあります。

### もっと活発に社会奉仕と国際奉仕

**高嶋** わがクラブの社会奉仕は、定番となっているチャリティボウリング。もっとやらないといけない今回は55周年記念の冠をつけて少年野球や読書コンクールをやります。うち独自の、あるいは神戸市内のニーズを探って、ニーズにもとづいた社会奉仕活動が何かできないか。そういう動きが今まで少なかったと思うんです。それはぜひ次年度にお願いしたい。どっかで道を付けていただかないと新しい発想は生まれません。それと国際奉仕。よそのクラブは熱心に国際奉仕をやって、WCSで井戸の水堀りとかそのクラブの特色がある。うちはそこまでできていない。100人の大型クラブになると、もう少し活発な動きをする必要があるのではないかと。なぜこんな意見をいうかという、2年先にはうちからガバナーが出るので、「やっぱりガバナーを出したクラブやな」と60周年までにはクラブ改革をしていかないかんというのが根底にあるんです。社会奉仕についても、チャリティボウリングは継続事業ですから、それプラス何かが必要やなと思うんです。

**松下** 中長期(3年～5年位)で計画しないと、単年度ではPlan・Do・Check・Actionを全部するのは難しいわけです。1年目は情報だけは集めて、それを次の年度にバトンタッチして、

集まった情報をセレクトして、2年目に実行という形をローテーション化していけばうまく行くのではないかと。単年度が終わったらそれで終わり、引継ぎがなされていないと、現実にやっている事業を続けてやるしかなくなります。新しいことは何もできない。これがひとつです。ふたつめは、社会奉仕も国際奉仕も、ひとつやると続けてほしいという要望が先方から出てくるわけです。「援助や支援を続けてほしい」という要望が必ず出てきます。WCSをよくやっている地区の人に聞いたんです。そしたらその人は最初からここで打ち切るとはっきり目途をつけ、目標をきちんと作ってやるというんです。

**高嶋** 3年やったら3年。

**松下** そう絶対に3年。その次はどこかにバトンタッチする。うちでいうと、「熊森」。赤木先生のときやり始めて非常に大きくなりました。いろんなクラブが参加してやり始めたから、もう東ロータリークラブとしてはいいんではないか、たしか今は会費しか払っていない。補助金を出してません。そういうやり方を最初から決めてやる。社会奉仕、国際奉仕はそれをやらなかったら、前年度の理事役員会で決定されたことを今年度急に打ち切るのは難しい。相手がいる場合はなおさらです。そのふたつです。

**高嶋** 過去を振り返ると、うちの社会奉仕委員会で何をやってきたか、その年に台風・災害があると、家庭に余っている衣料品を持ち寄って災害地域に送った。一番大きな社会奉仕の事業は神戸商船大学の進徳丸の保存、海洋少年訓練をずっとやってきた。これはポール・ハリス賞を貰ってる。そのあと、東灘クラブにバトンタッチした。うちは初期の目的は達成

したから、東灘に譲ったんです。

**松下** すばらしいですよ。

**高嶋** それから国際会館で例会があった時はむつみ会が持ち寄りのバザーをやった。

**松下** よい品物ばかりで安い。むつみ会のみなさんは準備など大変だと思いましたが。

**高嶋** 売上を確保して、今年はここへ寄贈しましょう。むつみ会も奉仕活動をしていた。これからは、大麻、今学生にはやっています。これをひとつの材料に社会奉仕できないか。高校生を集めて講演会を開くとか。もうひとついうと、神戸に3クラブありますが、うちだけではしんどいから共同でやりましょう。大麻防止で高校生を集める場合、西クラブが入ったら滝川高校があるし村野高校がある。集めやすい。うち単独より3クラブ共同事業がええんちゃうかなと思うんです。

**野々村** 高校生という狙いがええんですかね。大学生では……。

**土城** 今は、高校生、中学生ですよ。

**高嶋** 『ロータリーの友』でも高校生を集めてやっていた。それから未来委員会の意見では、身体障害者のニーズを拾ってきて何かしてあげる。

**野々村** 特に雇用問題が増えてきますね。それとボウリングと抱き合わせで考える方法もあります。

**中井** いのちの電話は今どうなんですか？

**高嶋** なかなか財政難で厳しいです。

**中井** 最近どこの研究会でも医学系はうつ病の問題がものすごくいわれます。ぼくは専門分野外なのでよくわからないのですが……。

**高嶋** いのちの電話、神戸東で応援していたければ助かります。

**土城** どういう応援の仕方を？



高嶋良平会員

**高嶋** 資金援助です。

**松下** 兵庫県は青少年を育成支援するところできて、育成支援事業をまとめて集めている。冠をつけて「応援してくれませんか？」そこへ行けば無数に事業はあります。

**中井** ずっと継続じゃなく、ひとり立ちできるようにしてやることを考えとかないかん、何年間かでね。最初井戸を掘ったけど、それを地元の人に井戸の掘り方を教えて次からは自分たちでやる。義肢装具士でももともとは先進国の医者が来てやっていた。それではコストがかかるから、地元の人に技術を教えて継承していく。そんな感じですね。

**高嶋** 赤木先生のときのカンボジアの事業でしたね。

**乙守** ぼくは卒業式に行きました。3年間応援した人が卒業する。行ったときに卒業式で、赤木先生がすばらしいスピーチをされた。民族衣装を着た子どもたちが、歓迎してくれた。ぎこちないと思ったら、その子たちは全部義肢やったんです。すばらしかった。

**野々村** 地区資金にしても、事業企画の準備期間が少なすぎると思う。実施するのが次の年度になる。だからひとつは継続して2年か3年する。その間に次の準備にかかる。申請しておく。次年度から開始する。そういうサイクル

を組んでやらないと、自分たちの事業費だけではなく、地区からの、資金のシステム作りをしておかないといけないと思うんです。いい事業があるなと思って申請しても間に合わないというのが結構ありますから。

高嶋 年度が始まってすぐ計画立てて8月ぐらいに申請したら秋実施には間に合うよ。

松下 結局財団関係のお金はロータリアンが財団に寄付したり、RIに払ったりする金を取り戻すという頭で行かないと、クラブの金を使うばかりじゃダメ。われわれが払った金も帰ってきてわれわれが使える。財団奨学生もGSEもわれわれは推薦する。われわれは地区補助金で事業もできて、そのお金は全部地区やRIが持ったりしてる。われわれは出しっぱなしではなく取り戻せる。そういうことをあまり知らないからやらない。本当はもったいない話です。3年ぐらいのローテーションで新しい事業に取り組むこと。

高嶋 それシステム化できたら、委員長も楽になる(笑)

松下 それは前年度のコピーではない。継続事業です。

野々村 その中から良いものは継続していけばいい。

高嶋 今まで、わがクラブでは社会奉仕、国際奉仕は活動が少し弱い部分でした。今後活発に行くべきやと思います。

### 一番欠けている職業奉仕の勉強

高嶋 歴代の職業奉仕の活動を振り返ると職場訪問しかない。まじめに働いてはるところをわれわれが見に行つてそこで肌で感じて何か得るところをもって帰りましょう、というのが職場訪問の趣旨ですが、物見遊山的になりやすい。ロータリーの勉強はここなんです。次年度以降の職業奉仕の委員長は一番ロータリーを勉強してもらわないかんと思います。例会での職業奉仕のセミナーも、過去は大丸の食品部長と問屋さんを連れてきて、模擬商談をさせる。テーマは「まじめな商売」「値切る」とかですが、それを見ながら「職業奉仕とは」を伝えようとした。「いかにまじめに商売するか」が職業奉仕ですが、奉仕とつくと社会奉仕と同じように何かせないかんのと違うか。よくいわれるのは、お医者さんが無料で診察した。これは職業奉仕か社会奉仕か。弁護士さんが無料相談する、「これは社会奉仕でしょ」というと、「いや職業奉仕や」という人もおるんですけど、これは社会奉仕です。職業奉仕というのは、お医者さん自身が自分や患者さんに対して、まじめに診療に取り組むこと。これが職業奉仕の基本。われわれの商売でいうと3倍も吹っかけて、物を卸してぼろもうけするのは職業奉仕ではない。ロータリーの基本は職業奉仕やといわれるゆえんで、この勉強会が

うちが一番欠けてるとこやと思うんです。

乙守 職業倫理ですか。

高嶋 ロータリーでは職業訓がある。賄賂もろたらいかんとか細かく13項目あります。

松下 職業倫理ならお話いただける人は沢山出てきますね。

高嶋 よくいうのは、食品偽装のときある社長がロータリーのバッジつけてテレビに出た。あれこそ何事や。それ以外にも不祥事を起こしたロータリアンの社長が結構いた。その辺がこれから求められるロータリー勉強のひとつやと思うんです。

### わがクラブよ永遠なれ

高嶋 最後にわがクラブは将来こういうクラブであってほしいというのをお聞かせください。

中井 神戸クラブは有名大企業の支店長さんが多く、会長の選出もそういう方から順番に決まるという体質があります。それに対して神戸東クラブは地場の産業の経営者が集まっているところがひとつの特徴じゃないか。地場の産業を育成し支援していく。地場の産業の長が集まって作っている家庭的なクラブ。それがわれわれの特徴であり、将来像であると思います。

乙守 ロータリークラブは死ぬ間際まで入っている場合が多い(笑)。自分がここに入っていてよかったなあと思えるようなクラブで、子どもなど次の世代の人に伝えていけるような誇りの持てるクラブが望ましい。

野々村 親睦を中心とした横のネットワークの整ったクラブであってほしい。息子や孫が入りたいというクラブならいいですね(笑)。

松下 今みたいにバランスの取れたクラブでずっとありたいと思います。人数は110名前後を保ちながら、若い会員から年寄りまでなだらかな線を描いたクラブであり、親睦を図るとともに奉仕活動もやる。そういうバランスの取れたクラブでありたい。

土城 気がついたらロータリーの会場にいてたというように20年先になりたいと思います。神戸東ロータリーは、誰に聞いても評判がすごくいいんです。このクラブは押し付けがないから、ぼくなんかでもおらしてもらえる。40代から80代、90代の方もおられて、すごく風通しがいい。このままで、人間性にあふれる道義性にすぐれた方に入ってきてもらって仲良くやれたらいいなあという感じです。

高嶋 うちから久しぶりにガバナーが出られる。ガバナーを出すクラブはほかのクラブが目撃しています。今でもわがクラブは評判がいいと思うんです。それ以上に「おお、ようやくるな」という評価を受けたいと思うんです。多くの経験からいうと、ガバナー事務所がしっかりしているのがひとつの評価を受ける源です。われわれも陰ながら支えていかないかんと思うんです。

乙守 神戸東はやるときはやりよるなど。チームワークが本当に取れてる、人に見てもらうのは最後はそれしかない。全員が支えてね。

高嶋 先の話ですが、地区協議会やらないかん地区大会やらないかん。大事なのは、その成功度ですね。歴代の幹事経験者の皆さんにも、新しいガバナーを支える中心的な役割を担っていただけるようお願いして座談会を締めさせていただきました。本日はありがとうございました。



第三部 私のロータリーライフ



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY

## 私のロータリーライフ

### 私とロータリー

赤木文生

私は37才のとき神戸東ロータリークラブに入会させていただきました。ロータリーでの収穫は、よき友人ができたことと奉仕に関するロータリーの哲学を学んだことです。

最も印象が深いのは地区ガバナーに推薦されたことです。ガバナーノミニ、ガバナーエレクトの時期と合わせて約2年半、地区委員会及び地区内のクラブの奉仕活動の実情を知り、また同期のガバナーから各地区における世界社会奉仕(W.C.S)の状況を聞きました。当時はカンボジアにおける地雷被害が多発していたので、地区委員をプノンペンに派遣し支援の方法を検討した結果、義肢装具士を養成するNPO法人カンボジア・トラストが経営する専門学校のカンボジア人女性生徒を支援することとしました。この計画は2001年9月から5年間続き2名のカンボジア女性が優秀な成績で卒業することができました。

その間、地雷原に入る現地人には警告文の読めない人が多いことがわかり、神戸東ロータリークラブほか3クラブと地区との共同でプノンペン郊外セン・ソク小学校に図書館を建築し、寄贈しました。

また、地区大会では当時無名の日本熊森協会会長の講演が出席者の感動を呼びました。その後同協会は発展を続け、会員数2万人を超える会に成長しています。講演を決断された地区大会実行委員長樽本会員と副委員長角田会員及び私を支えていただいたクラブの皆さんに感謝しています。

### 皆さんの友情に感謝

鮑悦初

私の神戸東ロータリークラブ入会のきっかけは、角田嘉宏さんから“鮑ちゃんあんたも昼飯食べるやろ、RCは昼飯食べる会みたいなものから入り！週に1回一緒に食べよ！”と誘われたと言うより、角田さんに言われて断れなかったのが入会の真実です。

入会にあたって、阪口正浩さんに「面接」を受け、村田由夫さんに「RC」についてレクチャーを頂きました。正直“角田さん、話と違うやん！堅苦しそうな会やな”って思いました。

神戸東RCには既知の先輩会員も居られましたが、想像に反し気さくな方々ばかりで、好意を持って私を受け入れてくれました。以来、気が付けば神戸東ロータリークラブに入会して5年目になります。

毎回の例会での会長挨拶や他の会員との会話で、何時も元気や気付きを頂くだけでなく、多くの友人が出来ました。今では入会してよかったと思っています。

今年度は「家族委員会」の委員長を仰せつかり、橋本副委員長はじめ委員の皆さん、野田会長、横山副会長、中井幹事、会員の皆さんに支えられ、懇親一泊旅行、忘年家族例会などの事業も何とか格好が付きました。皆さんの友情に改めて感謝しています。

これからも神戸東RCのロータリーライフ、時には女房を誘って一緒に楽しみたいと考えております。

### 「皆出席」を続けたい

千葉 始

平成12年(2000年)東京のホテルオークラから当地神戸に出向してまいりました。同年9月に、樽本、小倉両会員のご推薦により神戸東RCに入会させて頂き早くも8年以上経過してしまいました。「しまいました」というのは恥ずかしながら未だにロータリーの何たるかがはっきりつかめておらず、ロータリー専門用語が出て来る度に頭を抱えております。そんな自分ですが、一つだけ実行・継続していることがあります。入会以来の「皆出席」です。無論メイクアップは何箇所かで経験しました。その度に我クラブの良さを認識しました。或るRCにメイクアップに出かけ、他のRCはRCではないというような肩身の狭い思いをさせられビックリした事もありました。当たり前のことですがVISITORは大切にしたいものです。出向の身ですから、当初3年位のつもりで神戸に参りましたが5年の監査役という任期が終わり、顧問という形で1年ずつ伸びての8年です。何れ東京に戻りますが、それまではロータリーライフを楽しみに、「皆出席」を続けたいと念じておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

### ちょっぴり成長できたのかな？

江口行生

横山先輩並びに尾山先輩のご推薦により平成19年6月に入会させて頂き、今年7月で早2年になります。

この2年間は、様々な活動に参加させて頂きまして、とても有意義な経験をさせて頂きました。1年目は親睦家族委員会に属し、数多くの諸先輩方の皆様とお話しする機会があり、お知り合いになることが出来ました。また2年目には米山奨学委員会に属することとなり、副委員長の大役までさせて頂きました。

先輩が多い中で、私の様な右も左も分からず、ともすれば『いい加減』と言う言葉がマッチしてしまう若輩な小生がロータリアン？と入会時には多少の心配がりましたが、優しい方ばかりで、お知り合いが増えるにつれ、例会や活動を楽しめるようになりました。その中で、ちょっぴりは成長出来たかな？と考える日々です。

だが、まだまだ人間として未熟で社会的にヒヨコな小生ですが、ロータリーの諸先輩の皆様にご指導ご鞭撻を賜り、少しは立派な大人になりたいと考えております。自力のない他力本願な小生ですので、先輩！！今後共宜しくお願い致します。

### バッジと四つのテスト

原田信也

創立55周年おめでとうございます。  
入会した日にいただいたロータリーのバッジ、四つのテストの額を見るたびにロータリアンの心構えを見詰め直す日々が続いています。この「バッジ」について元RI会長ロバート.R.バース氏は次のようなメッセージをバッジは発信していますよと述べておられます。

- (1) 私を信用することが出来ます。
- (2) 私を頼りにすることが出来ます。
- (3) 私は信用に値します。
- (4) 私は受けるよりも多くを与えます。
- (5) 私はいつでもお手伝いします。

「四つのテスト」については吉田建美先生が卓話の中で暗記されることを勧められました。四つの句の頭文字をとって「し・み・こ・み」と覚えていただくのが近道ようです。と、教わり例会でも時々ロータリーソング「四つのテスト」を歌う日があるのでお蔭様で暗記することが出来ました。そして「ロータリアンが、してはならないこと（2005.8.23.久野薫会長挨拶）を遵守し、“男の止まり木”に末永く通い続けたいものです。

## 今までの世界とは違うことを学ばせています

橋本豊捷

もう早いもので入会させていただいて6年目になります。それまではライオンズクラブもロータリークラブもさして変わらない慈善団体ぐらいの認識でした。又私自身には雲の上の存在でありました。私は人の前で話すのが苦手な上がり症で頭の中が真っ白になるのですが、たまたまある研修で訓練をした後でしたので入会のお誘いがあった時は即お受けする事ができました。それ以降は会員の皆様には色々御教えいただきお付き合いさせていただいています。今までの世界とは違う事を学ばせています。なにせ目新しいことに対しては好奇心のある私ですので、新しい体験を次々させていただいて未知なる世界を垣間見させていただいて世の中の広さ、世界の広さを実感しているところです。これからもロータリークラブを通じていろいろな方との出会いを楽しみ、親交を深めていきたいと願っています。

## わが心の道しるべ

畑崎廣敏

神戸で会社を興してより五十年が経つ。「人生五十年」と言われたのは今は昔のことで、七十を超えた今も、私には求道の日々が続いている。

思えばただがむしゃらに走り続けてきた人生だった。社会へ出てから心許せる友がどれほど居たかと問われると甚だ心もとない。ところがこの歳になって、心置けない仲間達の集う掛け替えない場をいただけた。それがロータリーだ。

人間いくつになっても、自らを高めたいという気持ちが色あせることはない。ロータリーには、私が知らない異文化の魅力をお持ちの方が沢山お集りになる。今日はどんな話をお聞きできるのか、そう思うと得も言えぬ楽しみと緊張感が沸いてくる。こうした刺激が私にはどれ程貴重なことか。人生、財産は人なりと、今改めてそう思う。今後もさらに素晴らしいゲストをお迎えいただきたいと願っている。

私は「恕<sup>じょ</sup>」という言葉が好きだ。人の気持ちを分かり、思いやる気持ちというのは人としての基

本だろう。ロータリーはまさにそんな、高い思いやりの心を持った人達の集まりであり、心安らく場であって欲しい。そして私自身も、そんな役割を担える一人でありたいと切に願っている。

## ロータリーライフを楽しみたい

東 浩哉

毎週火曜日12時30分～13時30分ロータリーの例会時間、最近になって、時間を意識するようになりました。週一回の例会を楽しませていただいています。その中で、私は30分の卓話の時間をとても楽しみにしています。と言いますのは、私の身近では聞けないような内容を聞いて非常に勉強になりますし、私の仕事、生活、その他の中で、役に立っているように思います。又、いろいろな委員会を担当させていただき、それも仕事の中で、生きていると思います。私が、今までに感銘した事は、年2回のボウリング大会で、子供達がいっしょけんめいボウリングをする姿、笑っている顔を見て感銘しました。又それを支える先生方、スタッフ、応援する人、ご両親他たいへんだと感じました。このような機会には、なかなか遭遇できないと思います。このような時、ロータリーの活動は「いいなあ」と思いました。今後も又皆様と共に、ロータリーライフを楽しみたいと思っている今日この頃です。

## もっと人間力をつけたい

池西正広

私は今年で入会して10年になります。この原稿を書くにあたり、ロータリーライフについてふり返ってみました。

毎週火曜日例会でオークラに足を運ぶことが今では私の生活の一部、生活のリズムになっていることに、あらためて気がつきました。毎回卓話で多彩な講師の話聞かせていただき、納得したり、感心したり、いろいろ勉強になります。

同好会はゴルフ、マージャン、俳句、料理に参加しています。俳句と料理はもっと積極的にトライしたいと思っています。

これからの私の目標はもっと人間力をつけたいということです。そして後輩からも声をかけていただける明るく元気な先輩会員になりたいと思っています。

## 癒しの時間と空間

井元憲生

平成14年5月に植村先輩・畑崎先輩のご推薦により神戸東ロータリークラブに入会させて頂きまして、早いもので今年5月で丸7年になります。その間のロータリー活動においては、今までに無かった経験を数多くさせて頂きました。

その中心が毎週開催されるホテルオークラでの例会への参加です。入会当初は、知人も少なく、

話しづらいところもありましたが、多くの先輩方のご配慮とご指導を頂き、徐々にリラックスできるようになりました。その後、時間が経過し、今では、「私のロータリーライフ」のキーワードは、「癒しの時間と空間」となっております。つまり、毎週開催される例会への参加は、私の癒しになっており、仕事（現場）から離れ、利害に左右されない人達との会話、時間と空間の共有は、私を心からリラックスさせてくれます。

これからも神戸東ロータリーライフをよりいっそう楽しんでいきたいと思っております。

## 公私共に健康であることに感謝

石橋恒生

毎週火曜日はウイークデーの中では、少し襟を正した気持ちで出勤するようになって、何年になるだろう。入会以来唯一の自慢の記録も今年で連続皆出席18年になる。公私共に健康であることに感謝である。今年還暦を迎えているいろいろと過去を振り返ることが多くなって気がついたことが、わがクラブの先輩は皆さん生きざまが実にかっこが良い、また人生を楽しむ方が大変多い。自然と60歳代にはこの人、70歳代にはこの人、80歳台にはこの人と目標ができていた。目標を見失いがちの昨今「私のロータリーライフ」には神戸東ロータリークラブは欠くことのできないステージである。

## 多くの人との出会いを大切に

岩野 了

入会させて頂いて9年が経過する中で一番の財産はクラブ内のいろんな職種の方、いろんな年齢の方々と出会い、それぞれの職業観だけではなく趣味や生き方を通じての人生観を人の数だけ多く学べる事です。

さらに有り難いのはロータリーバッジを付けていけば全国どこへ行っても例会に訪問が出来て親しく言葉を交わせる事です。海外例会へもチャレンジをしたいのですがそれは60歳以降の楽しみとして残しておきます。

インターネットをきっかけに参加した「全国ロータリアンインターネット協議会（JRIC）」との出会いもその一つです。普段は主にML（メーリングリスト）を活用したオンライン上だけのつながりなのですが、年に数回オフラインでメンバーと集まる機会があります。その際はFace to Faceにてそれぞれのロータリー観やいろんな事を自由に話し合うなかで、より親密度も深まっています。

神戸東RCは家内にとっても「むつみ会」を通じて多くの方との出会いを頂き夫婦共々たいへん楽しませて頂いております。

これからも多くの人との出会いを大切にしながらロータリーライフを通じて学んだ事を会社に、家庭に、そして社会に活かせるようにつとめてまいります。

## 「職業奉仕」が復活する日

鎌田哲夫

私がロータリークラブに入会してから15年になります。

入会直後に参加したラウンドテーブル会のテーマが「私にとって職業奉仕とは」だったと思います。私は「奉仕」という言葉に戸惑いながら弁護士倫理について話しました。しかし、その時参加されていた先輩会員から、「ロータリーの職業奉仕とはそれとは違う」と言われてしまいました。

それ以来、「職業奉仕」とは何かと頭を悩ませるようになりました。

先立って、久野先生からロータリーの目的が変わったというお話がありました。職業奉仕から、社会奉仕・国際奉仕へ、そして今は世界社会奉仕である、と。たしかに、ロータリーの目的に、このような変化があるのは事実です。しかし、世界社会奉仕がいかに大きく取り上げられて来ても、決して職業奉仕が否定された訳ではないと思っております。

ロータリーの目的が職業奉仕であった時代、ロータリーの主体はロータリアン個人にありました。社会奉仕・国際奉仕が叫ばれ、ロータリーの主体が主としてロータリークラブに移って行っても、ロータリアン個人がロータリーの主体であることは否定されませんでした。両者の関係は共存関係にあるとされたのです。ロータリーの目的が世界社会奉仕であるとされた時、その主体は主としてR Iにあります。では、このR Iとロータリアン個人はロータリーの主体として、どう共存するのでしょうか。

私は、再び職業奉仕が重要視される時代がやってくると考えています。そして、ロータリアン個人とロータリークラブとR Iの三者がうるわしい共存関係を作り上げる時代が来るだろうと思っています。

アメリカは大きく変わりつつあります。「ネオコン」に主導されたアメリカの「金融市場主義」「新自由主義」は昨年一挙に崩壊し、現在世界全体が未曾有の経済危機に面しています。その経済的理念を作ったノーベル経済学賞者であるミルトン・フリードマンは数年前に亡くなりました。アメリカでは民主党のオバマが当選し、「グリーン・ニューディール」政策を掲げています。また、「反ブッシュ」「反ネオコン」を叫んでいたケインズ派の経済学者ポール・クルーグマンは昨年ノーベル経済学賞を受賞しました。クルーグマンは「良き道徳は良き経営である。」と言っています。

このようなアメリカの変化は、R Iをも変えていくのではないのでしょうか。R Iが職業奉仕に目を向けた時、職業奉仕が再び復活し、それが世界社会奉仕と並んでロータリーの新しい時代を作っていくのではないのでしょうか。そして、ロータリアン個人も生き活きたロータリーライフを過ごすようになり、また、ロータリークラブも活性化して行くのではないのでしょうか。

## 40年の「私のロータリーライフ」を振り返る

嘉納忠夫

創立55周年に際して「私のロータリーライフ」のテーマで何か一筆との御依頼により、改めて私のロータリーライフを振り返る切っ掛けを頂戴しました。

15代金子会長の年に入会を許され、本年55周年を迎えると云うことは、既に40年も当クラブに御世話になっている訳です。入会当時は最年少会員であった私が今や平均年令をはるかに越えた古顔になっているわけですから、その間に実に様々な出来事があり、又思い出に残る多くの先輩方

を送り、又新しい会員を迎えて当クラブも随分変わって来たのも当然だと感慨深く思う今日この頃です。

私の入会に際し推薦を頂いた小野正夫氏は自他共に認めるロタキチで実に熱心にロータリーを研究しておられ、我々新人には実に懇切丁寧に、時には深夜に及んでの電話での御指導まで頂き、少々恐れをなしていたような有様でした。もうお一人の推薦者である八馬進武氏も常にロータリー活動には熱意を持ち、後に当クラブコーラス同好会発足を推進される等親睦にも随分努められました。このお二人のチャーターメンバーの十分すぎるインフォメーションのお蔭で私の皆出席は続いていると思います。

又私が幹事を勤めた23代小原豊雲会長は「親睦和の血を濃くする」を目標に掲げられ、あれほどの大組織の総帥として大多忙の中、ロータリーの会長として熱心に御奉仕頂いたことは頭が下る思いがしております。其の後私が31代有澤武会長の副会長を仰せつかった時、又私が42代の会長を仰せつかった時には大震災後の混乱のなかにもかわらぬ会員の皆様にはご自分の復旧復興に努力されながらロータリー活動やクラブ運営に絶大な御協力御援助を頂いたことが忘れられません。

以上のように私の40年もその折々に於て会員皆様の多大なお助けを得て大過なく過ごせたものと幸せに感じて居ります。今後も是非全会員の協力のもと益々発展するクラブであることを祈っています。

関して一度も苦情はなかった。しばらくして次第に馴れ、親しみが湧きだした頃から、活動の世話役の声が掛かるようになった。副委員長、委員長、理事等それぞれ幾度か経験をした。気の進まぬこともあったが、出来るだけお受けするようになった。案ずるよりも生むが安しでその都度補佐をしてくれる会員に恵まれなんとかこなしてこれた。しかし会長の指名を受けたのには参った。ご勘弁と抵抗したが駄目でした。会長には幹事と副会長が最も大事と教えられ、早速私の思う逸材にお願いしたところ幸運にも快諾を得た。ご両人は親身になって努めてくれ未だに頭の下がる思いである。お蔭で曲りなりにも責を果たすことが出来感謝に絶えない。大役を済ませた後は勝手なものでやって良かったナァと思っている。その後10年強になるがロータリーの元会長と云う立場でボンヤリと眺めながら、ぬるま湯に浸かっている。こんな東ロータリクラブがすっかり好きになっている。一方今の会長を見ると、55周年記念を掲げ会員と共にその先頭を突っ走っている。ガソリンを補給しながらアクセルを踏み続け指示を出す凄いいエネギーだ。確かな未来を求めて走っているそれを見ていて私のロータリーライフの末期を感じた。

神戸二中、神戸JC、神戸東ロータリーへと私を導いて下さった、敬愛する偉大な二人の先輩は、これからどうされるのでしょうか。

## 私のコーラス同好会

加藤昇治

昭和58年、八馬進武（故人）君の推薦で当クラブに入会を許されたが、入会と同時に八馬君からコーラス同好会に入会する様にと指示？があった。

私は「楽譜がよめないから」と断ったが、「当クラブでは楽譜のよめる人の方が少ないんだ。実は俺もよめないんだ、だから心配せずに入れ！」

これでは断りようがないと観念して入会した。当初は例会後の練習が楽しみどころか苦痛でさえあった。唯まわりに迷惑を掛けない様にと唱っているうちに楽しくなって来たのです。西村先生が辛抱強く指導して下さいお蔭だと感謝しております。

平成6年に明石ロータリークラブが主催して「全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」が行なわれ、以後毎年（地震の年を除く）開催される合唱祭に参加発表するためにお稽古の目標が出来て充実したものになってきました。

「むつみ会」と組んで混声四部合唱を披露し好評を博する様になったのも、西村先生が我々の実力の範囲内で出来る程度にうまく指導して頂いたお蔭だと感謝しております。

音楽を楽しみ人間関係のハーモニーも素晴らしいわがコーラス同好会に入会されませんか？

## いやが好きになりました

木下 健

先輩の導きでロータリーに入会したのは38才でした。当時私は神戸JCにジャブ漬かりで当分の間ロータリーに馴染めず好きにもなれなかった。例会には足重く終ればとんで帰った。又例会をよく休んだ。その反面他クラブへのメーキャップや出席扱いの会合等で要領よく点数を稼ぎ、出席に

## 自他共に認める不良会員です

工藤恭孝

入会からまもなく19年目を向えようとしておりますが出席率も奉仕歴も自他共に認める不良会員です。今ではそんな会員ですが、それでも入会当初、青少年委員長を1回、親睦委員長代行（熊野委員長入院の為）を1回させて頂き、僅かでも奉仕の大変さは知りました。副委員長でも週報では休めない、間違えられないなどのプレッシャーも大変でした。にも係らず、今は仕事が忙しいのを口実に奉仕を受けるばかりのロータリー生活を送っていて心苦しく申し訳なく思っている今日この頃です。またそれを除けば気楽で楽しい会と、皆様に感謝しております。

そんないい身分にさせて頂いたのはあの阪神大震災からです。亡くなられた金子先生ご夫妻も参加された香港家族ツアーから帰神したての明け方の大震災です。とってロータリーどころではと、退会をとも考えたのですが、会員皆様の元気や励ましを頂戴し、思い止まりました。今では辞めずに良かったと思うようになりましたが、なかなかお世話させて頂く立場になれません。ずっとこのままでも虫の良い思いもなくはないのですが、なんとか頑張っまいますので、今暫くのご猶予をと懇願するばかりです。

## 思い出

日下 譲

私は昭和44年の入会であるから、今年で丁度40年目になる。ロータリーライフとしては正に馬齢を重ねたが、その間に多くの良き友との出会いがあり、それぞれより貴重な知見を戴いた。

太原さんの話。絵画の秘訣は、頭で色々難しいことを考えないで、パレットにある色を、無心に、天真爛漫に、そして楽しくキャンバスに移せばよいだけのことである。いとも簡単に言われるが、

それが私には至難の業である。

林さんの話。ゴルフのシングルプレーヤーの秘訣は、パッティングを長目に打つこと。ショートでは百万回打ってもボールはカップには入らない。全く異議なしである。

畑崎さんの話。アパレルの業とは、原宿か六本木あたりで、風変わりな服装で歩く若者たちのファッションをできるだけ多くカメラに写し、社内で一ないし二年間の分析検討を重ねて、実用化していくのだそうである。企業の成否はこのような蔭の地道な努力の積み重ねにかかっていることを教わった。

終わりに今は逝き柏井さん。彼とは赤提灯をくぐって杯を交わして人生を語り、垂水の野原でゴルフの技を競った親しき友であった。残した俳句には秀句が多かった。掃き寄せし 落葉の中の寒椿。格子戸に 三味の漏れくる 路地の春。などが忘れられない。

## 「転勤族」のロータリーライフ

松居 隆

昨年8月伝統ある神戸東ロータリークラブに入会させていただいて、瞬く間に半年が過ぎようとしています。当初はクラブの雰囲気慣れるのに精一杯で、親睦委員会における役割を果すのに四苦八苦していました。しかしながら先輩ロータリアンからの心温まる「励まし」「アドバイス」もありようやく雰囲気にも慣れてまいりました。

私のような「転勤族」は、3年から4年周期で日本全国を渡り歩いていますので、なかなか仕事以外で地元の見識豊かな方々とふれあう機会は少なくなりがちです。その意味で私にとって神戸東ロータリークラブは、神戸の地で様々な分野で活躍されておられる方々と、仕事抜きで触れ合い、交流させていただける貴重な「場」ということになります。

特に家内共々参加させていただいた12月の忘年家族例会では、ロータリアンの皆様と家族ぐるみで楽しいひと時をすごさせていただきました。最初は雰囲気慣れず戸惑っていた家内も、高校生による「龍舞」の迫力と家族例会のフランクな雰囲気にとっても感激しておりました。

今後も積極的に活動に参加させていただき、神戸東ロータリークラブに相応しいロータリアンになるべく精進いたす所存ですので、皆様には引き続き暖かいご指導・アドバイスをお願いする次第です。

## ロータリーは人生哲学

松下 衛

ロータリーは人生哲学……とクラブの先輩がおっしゃた事がようやく最近少しわかりかけて来た。どこまで行っても答えが見つからない。ポールハリスがロータリークラブを創立してから100年以上経つのに、色あせることなく何となく魅力を持ち続けている。宗教でもないのに、ロータリーの事について語る人の言葉が、全て正しく思える魔力がある。よく理解できない時は、自分の勉強が足りないとしきりに自己反省をしてしまう。

と書くと〇〇キチと間違われそうだが、例会日に歯車のバッジを着けたとたんその気になるか

ら不思議である。バッジを外せばたちまち平凡な一市民に戻る。これもまた不思議である。修行が足りないと思われそうだが。しかし何はともあれ入会から今日まで(中抜きしたが)、神戸東ロータリークラブで、大いにクラブライフを楽しませていただいている事は女房も認めるところであります。感謝!! 感謝!!

## 歯車の話

宮崎勢四郎

ロータリークラブの行事に出る時は必ず、歯車の形をしたバッジを胸につけて行く。「奉仕の理想」をうたうと必ず出て来る「めぐる歯車いや輝きて…」と、我々会員は常に歯車と共に世の中に生きているのである。

歯車について思い浮かぶことを一つだけ記して、お互いのロータリー生活の励みになればと考える。いささか恥しいが以下に述べる。

私の元の職場の一つは日立製作所亀有工場で、人生の中で最も長く居た職場である。(約28年間)そこで私は学位論文を書き、工学博士となった。その題材が大型歯車の材料に関する研究開発であった。

終戦後の日本産業の復興を支えた石炭の増産に必要な大型の捲上げ機械の心臓部は直径3mもある歯車であった。苛酷な条件に耐え得て、適正な価格で他社との競争に打ち勝つことができたのはこの歯車用の鋳鋼品の開発の成果に負うところ大であったのである。

技術上の専門的な説明は省略するが、製鋼、鑄造、熱処理、歯車の切削加工に至る一連の工程で工場挙げての一致協力がこの研究及び作業改善の成功につながった。研究の主担当者としてこの成功は私の生涯忘れることのない大きな喜びとなった。炭鉱が次々に閉鎖され、大型捲上機も残骸をさらすか、姿を消したと思うと、いささか淋しいし、今や歯車の無い時計さえある時代このような歯車の話は古くさいかも知れぬが、私の心の中には生きていることなのである。

## 神戸東RCの寄生虫になっていた

森本一裕

早いもので入会して8年半、ふと気が付くと自分は神戸東ロータリークラブの寄生虫になっていた。

これと言って自発的な活動は何もしていない。それでも次から次へと興味深い体験、楽しい体験、美味しい料理や酒、そして何より魅力的なメンバーとの出会いを享受することが出来たからだ。かろうじて胸を張って言える事と言ったらチャリティーボウリングに皆出席を続けている事位だ。

思えば入会時の自己紹介で自分の仕事を、女房の「ひも」と言ってしまった位だから、寄生虫体質は年期が入っている。入会後しばらくしてロータリーの理想は職業奉仕だと教えられて冷汗をかいた事を今も思い出す。

健康にはすこぶる自信のある自分だが、春先の花粉症には毎年悩まされている。

花粉症の原因はいろいろあるとの事だが、一説によると現代人の生活が清潔に成り過ぎ回虫の様な寄生虫が無くなったのが原因とも言われる。もしこの説が正しいのなら、クラブ内で寄生虫生活を続ける自分を今まで通り刺激せずそっとしておいて欲しいと思う。これが、花粉症のつらさを知っている自分の切実な願いである。

## ロータリアンの友は永遠

向井菊美

創立55周年を迎えた神戸東は最良のクラブで、私の生活サイクルで貴重なものです。顧みれば待望の神戸東クラブ入会は、対欧米亜輸出の販売促進と商談に海外出張が続いていましたが後輩の育成も進み、1985年に果しました。

ロータリーの事業と奉仕活動を理解して出席の重要性を享受、入会后直ちにポールハリスフェローとなりました。入会以来24年間皆出席が続いております。以前はメイクアップ期限が前後1週間で皆出席に苦労したこともありました。

大阪出身の私には当時在神30年を越えても取引先が大阪と関東方面の為に地元には友人が少なく、ロータリークラブの入会で世代や異なる職業人と社会的地位がある方々と笑顔で語り合い友情が芽生えて視野と知識が広がりました。

先輩からロータリーについて習得することが多く、例会卓話には有意義なものを楽しみ出席を続けました。何よりも時間厳守の精神が気に入りロータリアン全員が自然と時間を守る良い習慣が付いています。

メイクアップでは他のクラブ会員を知る機会を得ました。海外でのメイクアップはロータリアンとして何処のクラブ例会へも訪問が自由に出来て歓迎を受け気楽に語り合え、出張計画にはその都市のクラブ訪問を予定に入れて出席を楽しみ、これはロータリアンの特権だと思います。

米山のカウンセラーを引受けてから地区の米山委員会に赤木先生の後追いで同委員となり、委員長を拝命するに至り素晴らしい奨学生との出会いと育成に大きな喜びを感じて、米山事業や運営など多く知る事が出来て今後も引続き米山の仕事をするつもりです。地区の委員になって多くの会員と交流が出来、他のクラブの活動や地区のクラブの色々な情報を知る機会を得られました。これには良き会員を多数有して健全な運営をしている我が神戸東クラブの背景によるものと信じております。歳を重ねてもロータリアンの友は永遠と思い、ロータリーライフを楽しみながら友情を保ちたいと思います。

## 神戸東ロータリークラブと私

中井章詞

1951年(昭和26)9月8日にサンフランシスコ講和条約が調印され、翌年4月28日に発効。1954年(昭和29)7月1日に自衛隊設立。独立国としての体裁が整い始めた頃に、当クラブは、神戸クラブを親クラブとして1954年3月9日創立例会、同年4月12日RI承認を受け発足。9月25日には、有馬月光園でチャーターナイトが開催されています。ちょうど私の生まれたのはこの年の7月3

日でした。要するに、クラブと同年であります。さらに、1956年の経済白書で「もはや戦後ではない」という言葉が使用され、経済もクラブもそして私も成長の時期を迎えます。そして55年を経て、腹部に贅肉が付き、頭髪も薄くなり、思考もマンネリ化になってきました。これは、私個人に限らず同級生である当クラブにも言えるでしょう。さらに、100年に1度の経済不況の真ただ中に入ります。この時期にあたり野田会長の提唱された未来委員会こそクラブの未来を考えるよい機会を与えられたと思いますし、私の仕事上でも同様だと考えています。創立55周年を期にクラブと私の将来を見つめ直したいと思います。

## 創立55周年おめでとうございます

中尾 優

私は、2008年7月に入会しました。入会後日も浅く、“ロータリーライフ”という生活様式を持ち合わせるには至っておりません。言い訳めいたことを申し上げても快くないので、来るべきロータリーライフを楽しむ日々を心待ちにしているとさせて頂きたく思います。

強いて私の一時の楽しみとすれば、例会への行き帰りに通る水上警察の裏手の波止場でしょうか。道すがら、歩を緩めつつ、チャブチャブと小さな波音を立てる巡視艇、水面の揺らぎ、時折、棹を垂れる工員さん、遠くに浮かぶ帆船(海王丸?)を見、平和な一時に浸っています。例会後の卓話も楽しみの一つでしょうか。いろいろな方のいろいろな活動を耳目にするにつけ、ちょっとした新鮮な驚きを味わっております。新鮮な驚きという点では、今では慣れましたが入会直後は、例会冒頭の歌も新鮮な驚きでした。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 私とロータリー

西村太一

明るく輝くシャンデリア、真白なテーブルクロス、清潔に磨かれてきらめくナイフやフォークその他の食器、食欲をそそる香りと彩り豊かなおいしい食事、親しい人達との楽しい会話、西村先生が弾いてくださる心のこもったピアノの演奏、楽しく耳を傾ける有意義な卓話、律動感のある例会の進行、そして私には例会後の本当に楽しいコーラス同好会の練習。ロータリーは誰かが言ったように仕事に追われる日常の中のかげがえのない「生活の句読点」です。例会に出席していれば本当にホッとした安らぎを感じます。

そして現在の社会や経済情勢を見ますと余りにも変化が大きく急速で心の安らぐ閑もありません。'07年の夏頃から世界中で問題となっていたサブプライムローン、'08年2月のベアスターズ救済で一安心したのも東の間、'08年9月にはリーマンブラザーズ破綻、それにつれて世界中を金融収縮の大波が襲い、実体経済も収縮、今や不況の嵐が世界中を覆い尽くしています。日本もその影響を受けて昨年、'08年10月から大変な不況となっています。そのうえ更に政情不安が拍車をかけていますが、私達は落ち着いて変化に対応しなければなりません。

こうした情勢の中でロータリーは心の憩いの場であると共に再生への糸口を与えてくれます。

私は会長室の机の前に、いつも「四つのテスト」を置いています。1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか。これからいろんなことがあると思いますが、この「四つのテスト」に照らして考え行動し、仕事に万全を期すると共に奉仕の心を養い、ロータリーライフを心から楽しみたいと思っています。

## 河の流れに身を委ねて

小倉宗夫

入会して今年一杯でまる40年になります。何と永い間居たものだと自分で感心する一方、それが何と速く過ぎ去ったものと驚いております。

「往くものは河のごとし」の言葉はロータリーにも云えるのではないのでしょうか。入会当時、会員数は90余名。そのうち、今残っておられるのは僅か7名です。それ以外の方々はいずこへか去られ、代わりに100名、の方々がこの流れに加わっておられます。

幾多の出会いと別れ、それを繰り返しつつ、このクラブは変容し、成長し、今は名実共に素晴らしいクラブになりました。

当然その間に、私自身も変わったと思います。初めは堅苦しくて馴染めなかった例会にも、段々抵抗がなくなり、気が付けば楽しくなっており、今となっては、それを乗り越えてその流れの中に溶け込んでしまったようです。殊更、好きだとか嫌いだとか思わないのに、一週脱けると、何となく心許なく、侘しくなってくる。例会に出るのが、まるで自分の古巣へ帰って行く気分になっております。

関係の無い話ですが、ふと思いついて亡妻と過した年月を数えてみました。42年でした。そして何となく自分の今迄のロータリーライフに納得しました。出来得れば、あと2年以上、5年くらいは、この「流れ」の中でみんなと一緒に流されて往きたいものです。

## 元気の秘訣はロータリー

太原震也

早いもので私が神戸東ロータリークラブに入会してから数十年が経ちました。

今日まで様々な業界の皆様と出会い、新しく交流させて頂くことが出来たことにとっても感謝しております。例会では卓話を通して、色々なテーマで見聞を広め学べることが私の楽しみのひとつです。

若い頃は国内旅行をはじめ、海外(ヨーロッパ、アメリカ、北欧)にも参加させて頂きました。おかげで色々な国の人々と接し、国々の空気を感じ風景を目に—その感動がたくさんの絵にもなりました。今でも楽しい思い出のひとつです。

私の元気の秘訣はロータリーと共にあります。

## 私流ロータリー国際交流

乙守典厚

ロータリーに入会し、来年で20年…… その間、数え切れないほど海外へ出掛けて参りました。多い年には1年で23ヶ国を訪れた事もあります。

どの国でも、ロータリーは毎週例会があるので、時間があれば海外メイキャップをして参りました。例会もお国柄、場所柄、様々……

米国の例会進行は、ほとんど日本と変わりはありませんが、ラスベガスのロータリーでは、女性会員の多さに驚かされました。

又、ハワイのロータリークラブでは、“ビキニコンテストへの招待と審査員役”……という思い掛けない楽しい経験をさせて頂きました。

ミラノで出席した際には、皆がワイングラスを手にし、いつ始まったのかもわからないまま、隣同士が勝手に会話をし、笑い……と ワインを浴びるように飲みながらの数時間でした。

モナコのロータリークラブは、アルベール2世(故グレース王妃の長男)が名誉S A Aということで、格式高い雰囲気を経験致しました。

その他、パリ、シドニー、プノンペンなど多くの場所において海外のロータリー経験を参りました。語学に自信のない私が、これほどの場所で楽しい時間が過ごせましたのは、“ロータリーの仲間”という意識のお蔭とっております。

我クラブも、本年度は創立55周年を迎えます。

これからも、どんな場所でもどんな経験が出来るのかを楽しみに、ロータリーライフを楽しんで参りたいと思います。

創立55周年おめでとうございます。

## 出席してこそロータリー

大辻正明

「そこの新入会員さん、カラオケのセットを待っている間に、一曲歌ってよ」

「君は、ロータリアンか、ロータリークラブの会員か」

「この店の人が、ビールの栓をいくつ開けたか、数えたか」

「メイクアップをしたやろうな」

「リーン、クラブの会計をやってくれへんか、できる、できる、君ならできる、公認会計士やないか」

「オレらは、ロータリークラブの大使や。例会など、ロータリーで教わったことを、会社で、社会で、家庭で実践するんや」

「ロータリーの会計は、企業会計とは違うんや」

「タクシーの運転手が道に迷っている老人を見つけたときに、車に乗せて連れて行ってあげるのが、職業奉仕や」

「何にもむずかしいことはない。ロータリーの友の後の方のページに載っている『ロータリーの綱領』と『四つのテスト』を实践することや」

「忘年家族例会の司会をやってほしいんやけど、シナリオを書いて、出してくれへんか」

「チェンジ・オア・ダイ」

「ケイエイとは、経済を営むという意味の経営ではなくして、雑ないで栄える雑栄や」

「君は、KYや」

「オレは、ロータリーのことはラウンドテーブル会より学んだ」

「職業奉仕における利潤とは、極大利潤ではなくて、適正利潤や」

「この会の記録係をしてくれへんか」

「ロータリーのこの本を読んだら、ええわ」

「すべては楽しい例会から」

「小指の思い出は、君にあげるよ」

「もっと、おとなになりや」

多くの方から、多くのことを教えていただいた。もっと多くの方から、もっと多くのことを教わることだろう。

印象に残っている金言の数々を、思い出すがままにならべてみました。今の私の気持は、ただひとつ、**“出席してこそ、ロータリー”**

すがすがしい気持です。

## 少しでもロータリアンらしく

宗野正吾

昨年の六月に神戸東ロータリーへ入会させて頂きました。

神戸東ロータリーに於かれましては、55周年をお迎えになりまして、誠に御目出度く心よりお祝い申し上げます。

会員の皆様方が、日夜大変なご努力を積み重ねて来られた結果、“今日の輝かしい歴史があるのだなあ”と感心しております。

私も、今後、この伝統ある神戸東ロータリーで、素晴らしい方々と親睦を深めていきたいと思っています。

- ① ロータリーの例会には必ず出席する
- ② ロータリーの奉仕とは何かを考える
- ③ 思いやりを持った行動を心掛ける

を念頭に置き、少しでもロータリアンらしくなるように心掛けたいと考えています。会員の皆様方には、ご指導を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

## 「メイクアップ」にまつわるはなし

執行英毅

平成15年のクラブ創立記念日に、会員でPGの金子太郎さんは45年間皆出席の表彰をうけられた。45年というのは、現行の皆出席年度の積算をしたものだが、金子さんの在籍実年数にもあたり、このあいだ一度も欠席がなかったという事だ。これは並大抵のものではない。表彰の席上苦労話として、あるときメイクアップ先に困り、ついに彦根RCを「発見」し遙々出席した思い出を述べられた。

いまは神戸近辺もRCが多くなった上、メイクアップの期間も倍増しているのもあまり困難を感じないが、このお話は金子さんのロータリーに対する並々ならぬ関心の深さを示すもので、当時のロータリアンはいかに出席を大切に思い、みな努力していたかを物語るものである。このような記録はなかなか出来るものではないが、誰にとっても目標にすることは出来る。

以前に新入会員にたいし1年間200%の出席を勧めていた猛烈クラブもあったことを聞いた。つまり自分のクラブを含めて週2回の例会出席という事になる。あまり現実的なことではないが、積極的に他クラブを訪れることは、他にも功德もあるがロータリーに慣れるひとつの方法かとも思う。

先日わがクラブで会員歴数年の方が一度もメイクアップをしたことがないという事を聞いて驚いたことがあった。どうも気が進まないということであったらしいが、メイクアップというものは地区役員に出向するのと同じように、ロータリークラブを自分のクラブのそとで「立体的」に体験することにもなり、必要の有無にかかわらずぜひお勧めしたい。ロータリアンの特権でもあるからだ。そういえば主に外国のことであろうがその「特権」にあこがれて会員でない者が、ロータリーバッジをどこかで手に入れてメイクアップを装い例会に顔を出すということがあったらしい。今は削除されたが、古い手続要覧に「にせロータリアン (Imposters)」という項目があった。新年度に配布される幹事署名入りの会員証はそのようなことのためにも必要なのだ。

例会での会員出席率を高めることは、職業奉仕やクラブの親睦促進に必要不可欠だが、100%にこだわることの賛否はやはりある。創立以来連続して毎年、毎例会全員出席をつづけたあるクラブが、ついにある硬直状態に陥り、その結果ある一人の会員が犠牲となり、意図的に欠席を執行し状況を打開したという実例がある。

よい出席率というものは決して強制的につくるべきものではなく、おのずから出席を促すクラブの雰囲気と、本来会員自身の意欲によらねばならないものだ。そして必要に応じメイクアップを気楽にこなし、他のクラブの例会を味わってみることも自分のロータリーライフの豊かさをも増すものと思う。人間到る処に青山ありというべきか。

## ロータリーの魅力

白羽 誠

私は平成6年11月に執行、風間両先生のご推薦で当クラブに入会させて頂きました。翌年早々に、例会場のあった神戸国際会館が地震のために崩壊してしまうなど予想だにできなかった。当時の先輩諸兄の復興へのご尽力に改めて敬意を表す。当クラブが創立55周年を迎える今日まで、また世界中のロータリーが存続して来たその魅力とは何なのだろう。

それは、親睦と奉仕とがどちらにも片寄らないで、“調和”が維持されて来たからだろう。ここで言う親睦とは、友を得ることで奉仕の契機とすることを意味する。原則、一業一種のロータリアンが自分の業務を通じて社会に奉仕するため、その業務を品位あらしめることと規定されている。ロータリー発祥の地アメリカでは、三大企業の社長が全米サラリーマンの4分の1の報酬を取りつつ会社に破綻させてしまったということは、職業奉仕の理念をないがしろにしていることに他ならない。ロータリークラブへの毎週の出席が極自然にお互いの心と心を磨き合わせる礎になっているのだろう。私にとって、ロータリー活動の中で、絵を画いたり、料理を作ったり(食べるだけ?)することもロータリー・ライフを一層魅力あるものになっている。

## 古いと云われるかも知れませんが

角田嘉宏

昭和46年入会以来、日本のロータリーの精神的支柱と云われた直木太一郎PG、千種会を主宰された小堀憲助先生やその信奉者であった我がクラブの安福武之助PGなどから、ロータリーの根本は職業奉仕にあるとたまたまこまれたロータリアンとしては、社会奉仕特に国際社会奉仕に力点を置く現在のRIの方針にはなじめないというのが、私の心境です。

この様なロータリーの変化は、すべてが成果主義に走っている現今の社会的風潮に迎合し、より多くの寄付をロータリー財団に行い、積み上がった財団基金を基に規模の大きな慈善事業を展開しようとする団体になっている様に思えてなりません。

ロータリー独特の一業一人の原則、地域コミュニティに対応するテリトリー制に基づく、高い倫理性を持った職業奉仕の理念は忘却の彼方に消え去ろうとしています。

しかしこの様なアメカン・スタンダードのRIの変化に対して、我が神戸東はクラブ自治の原則により職業奉仕理念に基づくロータリークラブであり続けても差支えないのではないかと考えています。

## 日頃ロータリーで感じること

須藤雄二

人はその人生の中で、会社の仲間、学校時代の友人、同業者の仲間、近所の友人等、いくつかの集団に属し日々の生活を送っている。その中で居心地のよいのは、自分と似た考え方や趣味を持って、似た環境で生活している仲間との集まりである。ロータリークラブは、その中でも、格別居心地の良い集まりである。皆なにがしらの経営者や役職者であること以外は、年齢が違い、業種が違い、国籍も違う等、同質性が欠けるのにもかかわらず、日本中、世界中に会員が居り、どこで会ってもお互いが、やあ、と言えるような組織はあまり見あたらない。

ロータリークラブ創世記に、世界に広がっていくこの仕組みを理論的に作り上げた先人の偉業には、心から頭の下がる思いである。分りやすく、誰もが納得しやすいような仕組みを作り上げたことが、ロータリーが世界に広まった成功のもとであったと考えられる。

しかし、この盤石の仕組みをもった組織も、出来てから100年の間の色々な修正を経て、多くの価値観の違う人々の手が入り、このままで良いのかとふと思うことがある。発祥地の大統領が変化を訴えて当選したように、もっと変化すべき時なのかも知れない。或いは、中途半端な変化はやめて原理原則に戻るべきなのかもしれない。

どちらにせよ、変えるにしても、戻すにしても、これだけ大きなはずみ車で動いている仕組みを変化させていくことは、並大抵の努力ではできず、また、その間の混乱は想像するに難くない。ただ、諸外国のことはわからないが、特に身の回りを見ると、このまま変化が出来ないなら、ロータリーとしての将来的な魅力がなくなっていくように思えて仕方がない。昨年度と同じようにマンネリでしていることと、決まったルールでしていることの境目が、曖昧なのかもしれない。

## 10周年

多田善計

「ROSTER」を見てみますと私の入会日は平成11年6月29日(悉皆番号492)とあります。なんと今年の6月で入会后、丸10年経ったこととなります。10周年なんて本当にびっくりです。入会ときは確かに娘が小学生でしたが、今年成人式を迎えました。自分ではまだまだ新入会員に近いと思っておりました。10年もたてば一般的な組織では「中堅」と呼ばれる位置づけなのでしょうが、ことロータリーに関しては全くその自覚と責任感の無いまま、時があっという間に流れてしまったという感じです。

神戸東ロータリークラブに入会后、いろいろな方と出会え、またいろいろなことを教えていただき、自分にとって楽しいことはできるだけ参加するという、わがままロータリーライフを送らせていただいております。10年ひと昔といいますが、経済環境、社会環境は10年前と激変しております。またプライベートでも入院、引越し等いろいろなことがありました。自分にとっての10周年記念の今年、これを機に少しの反省をしながら、しかしまた今後の変化無き相変わらずのわがままロータリーライフを送らせていただけますよう皆様をお願いする次第です。今後ともよろしくお願います。

## ストレス・マネジメントから見たロータリーライフ

高石 昇

まだ一年余りにしかならない私のロータリー生活は後期高齢者生活の理想像であったと言っても過言ではなからう。やや強引に誘われる儘に参加した同好会はコーラス、俳句、絵画など未経験のものばかり。しかし、これが予想以上に私の生活を活気づけてくれている。クラブ全般の雰囲気も快適で、総じて暖かく、かつて他のクラブで体験した軋轢などは今のところお眼にかからない。

ところで、敬老精神により私には免ぜられているが、壮熟年会員には課せられる会務負担はかなり重いものがあり、これが会員にとって果たしてどのような意義があるのか傍目に見てまづ気になる事柄であった。やがて、これは、ストレス対処の視点から私なりに納得出来、先日のラウンドテーブルでご披露した。折角なので、ここにその主旨を述べておこう。ストレスとは我々に変化を迫る刺激の総称であるが、欲求の満たされないこともストレス、言わば見えないストレスである。人には欲求の階層があり、もっとも基本には生理的欲求や安全への欲求がある。これが満たされると次々に対人交流や所属への欲求、愛、他からの高い評価、自尊心へと進み、自己表現へと向かう。ところが、実社会ではかならずしもこれらをすべて充足できるとは限らない。しかし、ロータリーのよような別の組織社会では自己実現に向かう成長への歩みをすすめることが比較的容易に出来る。そして、そこでの学習と達成感を実社会への足がかりともなるのである。時に聞く、会務義務に関する会員の悩みも私にはこのように理解できた。

## ロータリーと親父

高嶋良平

昭和59年8月7日に当クラブに入会させて頂きました時は、クラブ初の親子メンバーでありました。その後 村田由夫会員が2番手の親子メンバーとなり赤木会員と道上会員、有沢会員と親子メンバーが誕生しました。

外部から見ると 親子はお互いやりにくいのではないかと良く言われましたが、それは親子のコミュニケーションの問題で、私の場合には、親父が安福さんのように「ロタキチ」でなかった為、幾分は救われた気がしています。

又 チャーターメンバーであったので、古い話や、古いメンバーの事など聞かされた事は、私にとって後々のクラブライフに大変参考になりました。

阪神淡路大震災の年(平成7年～8年度)には、嘉納会長の下、幹事を仰せつかりましたが、震災の後始末年度でもありこのときには「しっかり嘉納会長を支えるのだ」と叱咤激励を受けました。「ちょっと心配していたのではと今から思い返します」その後 少しづつ「ボケ」が進んできましたが、「古い話は鮮明に覚えていて」昨日今日の事はさっぱり解らなくなっていました。平成12年度に会長を仰せつかったときには、「ニッケグリス」からのロータリー話に花が咲き、1週間後に「今クラブの会長は誰や?」と聞きますので「僕や」と答えると「お前が会長か?.....」少しさびしい気持ちになったのを思い出します。

その後 平成13年度には、赤木ガバナーの下、地区代表幹事を仰せつかり、このときに代表幹事の件を話すと、安福ガバナーのときに、親父は地区会計をしていた事を思い出して、色々昔話となりました。この時には まだ親父は大丈夫だと安心しました。思い返しますと平成6年4月に執り行われた創立40周年祝賀会が親父の最後の例会のようなもので、その後 震災以降弱っていきましたが、国際会館での例会場でのバーカウンターで飲んでいる姿が思い出されます。

心からロータリーを愛していたのだなあと、いまさらながら思うところです。

そのDNAを私も少しだけ引き継いでいるのでしょうか?

## あっという間の楽しかった20年

田中健三

私が神戸東ロータリークラブに入会させて頂きましたのは昭和63年12月6日で翌年の1月には年号が平成に変わりました。その意味では昭和最後の入会者です。

以来早いもので当クラブ55周年の今年ちょうど満20年を経過いたしました。

いわば、平成とともにロータリーライフを歩んだと云えます。

平成2年のバブル経済崩壊から始まった平成は今日の世界金融危機まで歴史上稀に見る激変の時でもあったと云えます。

その間幸いにも皆出席を続けることが出来ました。

出席に関しましては入会の時からそれを目標にしていたわけでもありません。

たまたま健康や仕事や家庭状況に恵まれ結果的にそうなっただけだと思います。

しかし皆出席は別にしても20年間続けて来るにはロータリーに何か「魅力的なもの」があったからに違いありません。

私には未だにそれは明確ではありません。

最近今年度ロータリー情報委員長として皆様に「貴方にとって神戸東ロータリークラブって何?」というテーマでアンケートを行い、又「ラウンド・テーブル会」を開催致しました。

それは私自身がRCの魅力について明確な認識を持っていなかったのが皆様の考えを知りたかったからです。

お陰さまでアンケートやラウンド・テーブルでの貴重なご意見を聞きぼんやりしていたロータリーに対する認識がなんとなく見えてきたように感じます。

現在その内容を私なりに分析中です。5月ごろには第二回のラウンド・テーブル会も予定しています。それにより常に自問自答してきた「RCの魅力」について何らかの報告が出来るものと考えていますのでより一層のご協力よろしくお願い致します。

あっという間の楽しかった20年、これは会員皆様のお陰と感謝しています。

ほんとうに有難うございました。

## 生き方を学ぶいい機会

田中義明

神戸東ロータリークラブに2001年4月に入会させていただいてからはや、8年目を 迎えようとしています。入会当初は、右も左も何も分からず、ずいぶん当惑した記憶があります。この先もロータリーの会員としてやっていけるものかと自問自答した時期もありましたが、やはり時間というものはすごいもので、毎週の例会で皆さんにお会いする都度に多くのメンバーの方とも懇意にいただけるように、自分でも例会に出席するのが楽しみにもなっていました。私はメンバーとしてはまだ年齢は低い方ですが(顔はふけてますが)先輩のあらゆる年代層のかたのいろいろな経験談、また仕事、プライベートのお話をできる機会が持てるのが入会してよかったと思っています。

さまざまな職種、仕事、立場のメンバーの皆さんと交流によってさまざまな思考、生き方を学ぶいい機会になっています。今後とも自分自身の向上を含め、少しながらもお役にたてるように頑張りたいと思っています。

## たかがロータリー、されどロータリー

樽本 久

神戸東RCに入会して39年になる。よく続いたと思う。今では週に一度、例会に出るのが楽しみである。心のなごむ方々と言葉を交わし、オークラの食事を味わい、選ばれた人の卓話を聞くのも勉強になる。

(しかし、入会当時は職業分類やテリトリーが厳しく、選考された人のエリート集団であったのか、例会の雰囲気は固く、たまらなかった。どなたかは「ロータリーの例会は人生の道場である」と語

られたようだが、明るさがなくてはならない。その点、ここ数年、当クラブの例会は明るく爽やかに運営されている。元会長の一人は「例会は楽しくなければならぬ」と言われた。まさにその通りである。）

一方、神戸東RCは同好会活動が活発である。ゴルフには殆んど参加しているが、これからは「歩こう会」にも入れて頂きたいと考えている。

ときに年齢と共に「たかがロータリー、されどロータリー」の心境になってきた。ところが、今年の1月に久野会員がガバナーノミニーに指名された。久野元会長は頭脳明晰、人格・識見ともに抜群である。名ガバナーになられるであろう。当クラブは総力を挙げて支援しなければならない。来たるべき地区大会では、年寄りだが受付の手伝いをさせて頂きたいと思っている。

## 週報委員長を拝命いたしました

寺井啓勝

平成15年に入会させていただいてから、6年が経ちました。その間に新世代、会報の副委員長を3回、そして、今期週報委員長を拝命いたしまして、今日に至っております。

副委員長の時までは、あまり深くロータリーに関わることもなく、なんとか役目をこなしてきましたが、委員長になってからは、勉強させていただくことが多くなり、自然とロータリーに対する理解を深めていくことになりました。

週報委員会は、これまで配属されたことがなく、いきなりの委員長就任でしたので、当初とまどいました。基本的に例会の議事録、種々の告知等がその役務であります。その記事を構成するには、会長、副会長、幹事、プログラム委員長、会報委員長、事務局との連携が必要で、さらに、当日出席された週報委員、印刷会社の協力も不可欠となります。

幸い、愛情のある三役の方々、各委員長、事務局等に恵まれ、いろいろと助けてもらいながら、なんとか遅配することなく、週報を発行させていただくことができております。

結構労力の多い委員会かも知れませんが、その分得られるものも多いと感じております。これから週報委員会に配属される方々も、恐れることなく、チャレンジしていただきたいと思っております。

## ロータリアンの先輩から学ぶこと

戸山晶夫

甲南学園、甲南病院の設立、川崎造船所の再建、ブラジル経済使節団長として移民の待遇改善等東京海上専務として在任中また退任後も奉仕活動に尽くした平生夙三郎（ひらおはちさぶろう）（1866年～1945年）は、大阪ロータリークラブのチャーターメンバーであり、第4代会長、第3代スペシャルコミッショナー（現ガバナー）でもあった。

平生は齒に衣着せぬ所から、ロータリークラブでは「ラッパ」というニックネームで呼ばれていた。平生は大阪ロータリークラブ10年史で「ロータリークラブは自分のような率直で無遠慮なものに恰好のクラブである。何事も考えずにそのまま言っても誰も腹を立てない。これは日本ばかりではなく、太平洋会議に出席した時に、世界の不景気の責任はアメリカにあると断言した所、聞き手の

9割がアメリカ人であったが、君の言うことは条理があると手を握るものさえあった。」と讃える反面「ロータリークラブの会員は外に出てその陰に隠れ、あたかも四畳半裡（しじょうはんり）にて浅酌低唱（せんしゃくていしょう）の観あるは、いささか物足らん心地がする。」と苦言も呈している。（平生伝記）

今も奉仕活動については、様々な議論がなされているが、75年以上前の平生の言動を神戸東ロータリークラブの皆さんはどのようにお考えになるだろうか。

## 人生とロータリーライフを楽しみたい

壺井 醇

私はあまりロータリーには興味はありませんでした。平成7年阪神淡路大震災の年に入会を勧められ、今考えてもなぜ入会したのか分かりません。我が社もご多聞に漏れずかなりのダメージを受けていましたし、到底ロータリーに入会する余裕などなかったはず。にもかかわらず入会したのは多分熱心に勧誘して戴いたことと、震災で私の心にぽっかりと穴が空いていたからだと思えます。私はあまり派手なことは好きではありません。ですから今でもロータリーに向いていないのではないかと思うことがあります。しかし入会以来14年もの間退会もせずに出席を続けているところを見ると、神戸東ロータリークラブが余程居心地が良かったに違いありません。今は俳句と麻雀の同好会に所属し、良き先輩のご指導を仰ぎながらロータリーライフを楽しんでおります。

これまで充実した人生を送って来れたのは皆様のお陰です。これからは人生とロータリーライフの両方を楽しみながら社会への恩返しをしていきたいと思っております。先輩諸氏のご指導をよろしくお願い申し上げます。

## かけがえのないパワーの源泉

土田剛司

私がRCに入会して、早2年が過ぎた。この間私は変わった。客観的にもこの2年で我社の売り上げが1.5倍となった。ロータリアンから仕事の依頼があったわけではない。もちろんスタッフの頑張りのお陰が充分あったと思う。しかしRCのお陰も多分にある。毎週火曜日の日中に、彼のホテルオークラに通う。ホテルを使い慣れていない私は大変緊張する。そこでロータリアンと話をする。皆様洗練された方ばかりで、恥をかかぬよう、馬鹿と思われまいよう、内容のない奴と思われまいよう等々、私は一生懸命努力する。これが私の脳細胞に活力を与え、上向きスパイラルの人生の流れをつくってくれるのだろう。次に、豊かなロータリアンの中にいるとなんだか自分も豊かな気持ちになれる。これがセレブリティの疑似体験となる。またいろいろな業種の方と話をしているうちに自然と、適応力が育ち、教養の蓄積ができると共に、徐々に自信も生まれてきた。そして何よりも、自分の居場所がある、仲間がいる、という安心感が心に芽生えてきた。仕事上様々なストレスを抱えても、ロータリアンに話すとは何となくすっきりするし、思わぬ示唆が与えられることもある。仕事に再びと立ち向かう闘志が生まれる。RCは私にとって、かけがえのないパワーの源泉になりつつある。

## 潤いのある人生

塚本 哲夫

ロータリークラブは経済団体でも文化団体でも又、志を同じくする者が相集う市民運動でもありません。奉仕団体の一面はありますが助け合い運動やユニセフ、奉仕のNGOとは比べられません。私にとってロータリークラブとは何なのでしょう。あえて言うなら社交クラブ。そこで奉仕活動もやっている、と言うことでしょうか。

ロータリークラブ在籍20年。それは私の仕事人生での男盛りの期間と重なっています。何かを捨ててRC活動をするのではなく、欲ばって全てを取り込んできた20年でした。私には家族や会社の仲間達以外に学校時代やご近所、スポーツや勉強会の仲間達、社会奉仕や趣味の会等いろんな所で東西南北縦横斜さまざまな人間集団とのおつき合いがあります。そして毎日あくせくと忙しく時間に追われております。だからと言って私の生活からRC活動がなくなれば随分淋しくつまらなくなるでしょう。そこには貴重な仲間がいっぱいおります。それは私にとって一番の財産です。これから更に年老いれば時間のゆとりは出来るでしょうが、仕事の仲間は離れていきます。だからもっとRCの中に気の合う仲間を増やしたい。楽しみながら小さくても世の中に役立つことを続けたい。高まいた論理のRC活動よりも健康で明るく楽しい仲間が相集い、出来る範囲で奉仕活動をし、潤いのある人生を願っています。

## すこしはロータリアンらしくなれたでしょうか

植村 孝一

神戸の若大将と粋がっていた私もいつの間にか62才。ロータリーに入会して22年もたちました。すこしはロータリアンらしくなれたでしょうか。40才の時いろいろな人間関係により神戸東ロータリークラブに入会。仕事が忙しく、出席もままならず、クラブになじめない日々を送りました。入会して5年目、どういう訳か青少年委員会の委員長を拝命。

数年間ローターアクトの件で苦勞しました。15年目、目立たぬようにおとなしくしていたはずなのに、会長エレクトの高嶋さんから幹事の要請。いろいろありましたが一年間幹事をやったことにより、ロータリーに対する考え方が変わったような気がします。

ロータリアンに求められる人間像とは・・・。

これからは、良き仲間とともに自分を磨き、周りの人や地域社会に良い影響を与えられるよう努力し、ロータリアンとして恥ずかしくない人間性を持った人になりたいと思っています。

日々これ新たなり、死ぬまで少しづつ成長しているような人生を送りたいと思うようになった今日この頃です。

## ロータリー精神を奮い起こせ Renew the spirit of Rotary

山野 真

タイトルは1974-75度RI会長ウィリアムR.ロビンズ会長のターゲットです。今、全世界はアメリカ発の経済恐慌に喘ぎ、ロータリアンを取り巻く環境もかつてない試練の時代になりました。先人の言葉に「道に迷った時には原点に還れ」とありますが、今こそ一丸となって贅肉を落としてロ

ータリー精神を奮い起こす時ではないでしょうか。

諸先輩は「昔のロータリーは良かった。入会することに誇りがあり、入会すると地域社会からも尊敬の念を持って迎えられた」と言われます。ロータリーは一業種五人制を採択しましたが、ロータリーの根幹が揺らいだように感じるのは私だけでしょうか。ロータリーは何を求めてどこに行くのでしょうか。未来には「昔が良かった」と言わせないロータリーであって欲しいものです。

私は1981年に入会、在籍約28年になります。その間、安福PG、金子PG、諸先輩のご薫陶を頂きながら、1986年地区大会RI会長代理の補佐として通訳と奉仕活動を通して良き時代のロータリーを学んだと感謝致しております。

私のロータリーライフは時間が経過するほどに輝きを増しています。これからも「自己研鑽」を忘れずロータリーを楽しみたいと思っています。

## ロータリー雑感

山崎 仁嗣

神戸東ロータリークラブに入会させていただいてから、3年が過ぎました。それまでの生活との変化といえば、

1. 毎週、火曜日の昼の例会に出席するため、1週間のリズムが出てきたように思います。ここ20年ほど続けている月曜夜のテニス、火曜、金曜の水泳と共に、火曜の昼に例会が加わりました。ちょっと困るのは、火曜の夜の水泳が休みがちになったことでしょうか。
2. いろいろ、楽しいお付き合いもさせていただくようになりました。コーラス同好会で、年に1度の全国コーラス祭では行き帰りのバスや2次会で楽しませていただきますし、親睦旅行、非公式ですが、jazz同好会も楽しませていただいております。
3. 毎週の卓話も楽しみです。普段、なじみのない分野のお話など、思わずうなってしまうような機会も多々ありますが、特に、メンバーの皆さんの卓話には啓発されることばかりです。など、皆さんのおかげで、たくさんのことを教わっております。これからも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 最近ではロータリーが習慣になりました

横山 公一

入会させていただき2年足らずですが、例会に出席しているだけで何もお役に立てずしております。ロータリーのことなど何も理解していない私が今回のテーマで原稿を書き印刷されること自体資源の無駄かなと思いつながら書いております。

入会させていただいた当初は毎週1回の例会をすごく負担に感じており、手帳の火曜日全てにロータリーと書いておかないとつい仕事の予定を入れ、ご迷惑をかけたかと思っておりましたが、最近では例会を手帳に書き込まなくても習慣になってまいりました。

私がロータリーに入らせていただき良かったなと思うことは、毎週皆さんとお会いして年配の先輩諸氏に始まりいつも明るくお元気な姿を拝見して、活力をいただけることです。

まだまだ何も分かっておりませんので、少なくとも皆様のエネルギッシュなパワーをいただく事で私のロータリーライフを楽しくエンジョイしていきたいと思っております。今後ともよろしく願いいたします。

## ロータリーライフに感謝して

横山 幹夫

平成元年ちょうど40才の時、木下健会員から「神戸東ロータリークラブ」への入会を誘われました。それまで12年間神戸青年会議所に所属し、仕事と並行してやってきていましたので何の疑問もなくロータリーに関して何の知識もないまま入会しました。須藤会員らと共に故末正会員のインフォメーションを受けたのが懐かしく思い出されます。

緊張しまくった自己紹介、一年も経たないうちに回ってきた卓話等、まわりがよく見えていない2～3年間は出席するのが本当に億劫でした。三年目に青少年奉仕委員会の委員長になりロータリークラブと関わったときは本当に手を焼き嫌気がさしてその後しばらくはただ参加するだけの会員になっていたと思います。

そういう私にクラブの面白さが分かってきたのは故榎橋会員のもと週報委員会の、故三好会員のもと家族委員会の副委員長を経験してからのように思います。両委員会とも結構忙しく大変な思いもしましたが委員会活動そのものが面白く、会員の皆様に喜んでいただくことが自分の喜びになることをはっきり認識することが出来ました。その後、拙いながらも木下会長のもと幹事を経験させていただき、クラブ運営に参加から参画することが多くなり充実したクラブライフを送ることが出来ました。

その後、四年間ほど自身の都合で退会し、仕事に専念しておりましたが、何か物足りない日々であったところ大勢の友人から再入会の誘いを受けクラブに戻ることが出来、大変ありがたく思っております。

最後に入会時におられた約120名、その後現在までに入会された約170名、合計約290名の会員の皆様と席を同じうする機会を与えてくれたロータリークラブに感謝の意を表したいと思っております。

## 例会を楽しもう

横山 滋

私はロータリークラブなんて無縁の生活でした。仕事に毎日追われ、私のライフワークである動物の歯科学を探究するのが精一杯でした。が、患者でもある三原さんがある日ロータリークラブに入らないかとお誘いをうけました。毎週一回例会に出る事は苦痛にも覚えるのでした。しかし三原さんの言葉に「例会を楽しもう」があり、その言葉を今も忘れてはいません。ということで入会させていただきました。光葉さんには入会3年は出席100%をするようにいわれました。8年目に入りますが1度だけ家内の怪我で欠席しました。誠に残念です。でも今年は100%出席です。今は本当に例会を楽しんでいます。

お酒に弱い私ですので夜のお付き合いは控えさせていただいておりますのであしからず。ゴル

フも入会早々で絶対出席しなくてはと思い参加させていただきましたが腰を悪くしていますので、ご遠慮させていただいております。でも話なんかは好きですので、寄せてください。

最近うれしいことがありました。4年前まで私の病院で勤務していた先生が淡路で開業してなかつ先日結婚しました。その結婚式でロータリークラブのメンバーが6名も出席されておりました。不思議に思いましたと言うのも当日は地区大会の日です。なんとその勤務だった先生がロータリークラブに1年前から入会している由を聞き納得しました。やはりロータリーだなあとおもいました。ロータリーに入ってよかったと思う今日この頃です。

これからも楽しくやって生きていきたいと思います。諸先輩を見習いながらゆっくりとロータリーを楽しむことにしたいです。

## 日々是勉強

吉田 茂

私はロータリークラブが何をしている団体かも知らずに入会させていただき、あっという間に10年が過ぎてしまいました。この10年間の間にいろいろな事を経験させていただきました。地区大会では行事の準備の仕方、そしてなによりびっくりしたのが学生時代の同級生に30年ぶりに出会った事。ロータリークラブの世界大会では、各国のロータリアンや世界の国はこんなに数多くあるんだという事を再認識させていただきました。得難い経験が出来たと大変満足しております。

さて常日頃のロータリーライフですが、いろいろな仲間と親交を深め異業種の方々との話して自分では知り得ない貴重な体験談が聞け、自分の中で日々是勉強だなと思われ楽しく有意義なロータリーライフを送っています。

## ロータリーと私

吉田建美

「楽しくなければロータリーじゃない・・・、『ノー』と言えないロータリー！」と呪文のように唱えながら、入会以来、早くも十数年が経った。入会させて頂いたからには、どれもこれも修行と思いつつ、毎年いろいろな役割を経験をさせて頂いた。全会員の平均年齢を少し超えたところに私はいるが、それぞれ異なる世界でご活躍中の錚々たる先輩諸氏より頂いたご薫陶、ご指導はもとより、同年代、そして若い皆さん方との親密なお付き合いの中で実に得られるものが多かったことに対し感謝の念で一杯である。

ロータリーの基本理念でやはり大切なのは「職業奉仕」であろう。この部分が強調されなくなればロータリーの存在価値そのものが希薄になってしまうものと常々、考えている。近年、特に「企業倫理」について注目されているが、世の中、まやかしや偽善で溢れかえっているように見受けられる。自分の世界でもこの部分を常に意識していきたいのだと心がけている。

クラブ創立55周年という長い歴史の流れの中であって、クラブの更なる発展を望むには今後如何にあるべきか、及ばず乍ら自分なりに考えてみたいと思う。

## 平生鈇三郎のことば

吉井正幸

何年か前に先輩より「平生鈇三郎のことば」(1975年発行)を頂きました。1919年に甲南学園を創設した平生鈇三郎は数々の組織のトップに就き世に貢献したのはご存知の通りです。この本の『人間はおもしろいか、ありがたいかのいずれかでなければ、寄ってくるものじゃないよ』の寸言は、平生先生がRCについて大阪RC会報誌(1932年発行)に掲載したものです。私は尊敬する平生先生が大いにRC精神を愛したロータリアンであったという事を「平生鈇三郎伝・暗雲に蒼空を見る」(1999年発行)で知りRCに入会させて頂きました。平生先生は武士道を軸とする独自の正義感を持ち理想主義者でありリベラリストであったといわれています。RCのあるべき姿をこの寸言で言い表したように思います。理想が高くても「おもしろい=興味・共感」か「ありがたい=金銭上損得だけでなく感謝の念が沸く」が無ければ人が集まらないし物事が動かないと考えた、RCのモットーをこよなく実践した平生鈇三郎先生だからこそその寸言の重みを感じロータリーライフを楽しむように努めますのでよろしくお願い致します。



KOBE-EAST RC  
55th ANNIVERSARY

## 4大奉仕委員会報告

### クラブ奉仕委員会

#### 横山幹夫

副会長  
 クラブ奉仕委員長・理事

ロータリークラブを名乗るためには必ず置かなければならない委員会があります。申し上げるまでもなくクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四つの委員会です。クラブ奉仕以外の三委員会はそれぞれ自らの職業を通じて、あるいは直接社会に対して行動を起こし、貢献しているという性格のものです。外部の人から見ればそういう活動が評価の対象になります。

私は本年度の事業計画でロータリークラブを一本の木に例え、「根」の部分がクラブ奉仕、「幹」の部分が職業奉仕、「枝」や「花」の部分が社会奉仕・国際奉仕だという宮本ガバナーのお話しを紹介しました。「根」の役割は「幹」を太くし、良い「枝」を育て、きれいな「花」を咲かせるために地中から水分・栄養を吸収し上の方へ送っていくことにあります。「根」が十分に機能しなければその木は貧弱なものになっていきます。ロータリークラブにおいてもクラブ奉仕委員会がうまく機能しなければ他の三委員会の活動も中身が薄く形式的なものになっていくかもしれません。

今回この記事を書くにあたってそういった観点から過去5年間の資料を検証してみました。クラブ奉仕には「出席」、「親睦家族」、「プログラム」、「週報」、「雑誌会報」、「ロータリー情報」、「会員選考」、「会員増強・職業分類」の八つの委員会（本年度は「親睦」と「家族」を分けたため九委員会）がありますが、どの年度のどの委員会もほとんど同じような活動をやってきております。詳しくは別表を参照してほしいのですが、例会出席率、会員数、平均年齢、親睦会・家族会、ラウンドテーブル会、会誌・週報、例会卓話のどれをとっても回数も内容もそう大きな違いはないように思います。しかしながら、毎年ただ漫然と惰性的にやってきたかといえば決してそういうことではないと思います。組織というものはいい加減にやっていると時間が経つにつれだんだん疲弊してきます。そういうことなく現在においてもそれぞれに高い水準を保っているということは、各委員会の尽力と会員の皆様の協力の賜物だと思います。

今後も弛まぬ努力を積み重ねることで皆様の家庭と同じように参加すれば心が和み、仲間との連帯感が生まれ、様々な知識を吸収し、外への活力を生んでくれるクラブ運営を維持することがクラブ奉仕委員会の永遠のテーマであると思います。創立60周年に向け、「いつまでも変わらない」という進化を続けてくれることを神戸東ロータリークラブに期待したいと思います。

副会長	2004~2005	2005~2006	2006~2007	2007~2008	2008~2009
	須藤雄二	野田晴清	吉田建美	松下 衛	横山幹夫
出席率(%)	88.74	88.83	88.48	87.84	89.14
ホームクラブ出席率(%)	80.68	81.38	81.50	79.82	83.20
会員数	105	105	104	99	104
入会者数	4	7	7	3	8
退会者数	4	7	8	8	3
最年長	92歳1ヶ月	88歳11ヶ月	89歳11ヶ月	90歳11ヶ月	91歳9ヶ月
最年少	43歳10ヶ月	41歳7ヶ月	42歳5ヶ月	42歳5ヶ月	43歳3ヶ月
平均年齢	63歳1ヵ月	63歳8ヶ月	62歳7ヶ月	63歳6ヶ月	63歳10ヶ月
親睦会	2	0	2	1	2
家族会	3	4	2	4	2
家族旅行	0	1	1	1	1
会報	3	4	2	2	2
ラウンドテーブル	3	4	3	1	1

2009.4現在

## 4大奉仕委員会報告

### 職業奉仕委員会

三原孝公

職業奉仕委員長・理事

創立50周年以降の職業奉仕委員会の活動の記録をまとめるに当たり、歴代委員長をご紹介します。

2004年7月～2005年6月 中井章詞

2005年7月～2006年6月 吉田建美

2006年7月～2007年6月 村田由夫

2007年7月～2008年6月 平岡秀樹

2008年7月～2009年6月 三原孝公

◆基本方針につきましては、過去5年間の各委員長のご意見は殆んど一致をしており、職業奉仕の難しさを述べ、如何にして会員の皆様に理解して頂けるか、啓蒙運動に腐心されている様子が汲み取れます。

◆例会における卓話は次の通りです。

①2004年<平成17年>10月5日(火) 職業奉仕委員会会員の卓話。

②2005年<平成18年>10月18日(火)「企業倫理について」横瀬恭平会員による卓話がありました。

③2006年<平成18年>10月24日(火)「法テラスの業務内容、及び利用方法」と題し、道上 明会員による卓話があった。

④2007年<平成19年>10月30日(火)「日立製作所創業者 小平浪平に学ぶ」と題する卓話を、平岡秀樹委員長が行った。

⑤2008年<平成20年>10月28日(火)「あなたにとって職業奉仕とは」と題し、バストガバナー安平和彦氏(RI職業奉仕委員会研修リーダー)に、ロータリーの職業倫理論について解りやすく講話をして頂いた。近年は有名一流企業や老舗の企業に不祥事が多く発生し、企業倫理の欠落、荒廃は目に余るものがあります。このような時期、に内容のある講話を拝聴した。

その他の啓蒙活動として、会員各位が自己研鑽し、ロータリーの職業奉仕論を理解し、職業人の経営哲学を高めるためにラウンドテーブル会なども実施された。また、職業奉仕活動を立派に実践し、当会員が従事されている企業やその地域で、優秀な有名企業を訪問し会員の企業や自己の経営倫理を高められるような情報を提供する努力をした。

◆職場訪問は次の通りです。

①2004年<平成16年>9月21日、キメックセンタービルから神戸医療産業都市の立地状況を見学し、神戸医療産業都市の進捗状況の説明を受ける。また、先端医療センターの見学も行い、痴呆診断に対する技術、癌早期発見への挑戦などについて説明を受ける。参加者は44名です。

②2006年<平成18年>1月31日(土)「開港迫る神戸空港—その概要と展望—」と題して、神戸空港ターミナル(株)代表取締役社長、森井章二氏(神戸RC)による卓話を拝聴し、その後、神戸空港の見学を行った。バスの車中にて空港周辺環境の具体的な説明や職業奉仕に関連するコメントを頂いた。参加者は50数名です。

③2007年<平成19年>6月19日(火)、「(株)三原歯研」を訪問、歯科技工の仕事や「入れ歯」の製作方法や入れ歯の種類また、その使用方法についての説明を受けた。その後、作業場の見学を行った。参加者は24名です。

④2008年<平成20年>6月10日(火)、(株)神戸製作所 神戸製鉄所へ職場訪問を実施、7線材工場、サイエンススクエアを見学した。参加者は25名です。

⑤2008年<平成20年>11月18日(火)、「朝日放送」社屋を訪問、テレビ放送の生番組や最新設備などの見学を行う。参加者は24名です。

⑥2009年<平成21年>3月24日(火)川崎重工・兵庫工場へ最新型新幹線や海外輸出用車両、その他の車両の製造現場を見学。参加者22名です。

## 4大奉仕委員会報告

### 社会奉仕委員会

上村伸幸

社会奉仕委員長・理事

ロータリーの社会奉仕とは、ロータリアンひとりひとりの個人生活、事業生活、社会生活に奉仕の理想を適用することである。

神戸東ロータリークラブの社会奉仕委員会の活動は、決して他団体のその様に目立つものはありません。しかし、地味でありながら、事業の継続性こそが大切である事を認識しております。

まずは、昭和56年の2月から続いている青陽東・友生の両養護学校の招待ボウリング。神戸六甲ボウルの多大なるご協力のもと、我々参加させて頂く度に、子供達から沢山の感謝と勇気を貰います。震災での4年間の空白はありましたが、尚一層、その大切さを感じています。平成13年7月19日に設立された、神戸東プロバスクラブへの支援。例会スピーチの感謝から広がり、赤木ガバナーでの地区大会で大きく飛躍した「日本熊森協会」への支援などの継続事業に加え、新世代委員会を中心に「読書感想文コンクール」を神戸市教育委員会と共に実施し、優秀作品の表彰を行ってきました。また、平成18年の地区大会では、地区申請事業として、「アムールトラ保護活動事業」のパネル展示を行いました。今後は、地域の青少年の健全育成に寄与出来る活動、社会に我々が可能な範囲で貢献出来る事は何か？模索してゆきたいと思えます。

#### 平成15年～平成16年

1. 篠山での地区セミナー参加
2. 神戸東プロバスクラブへ表敬訪問し、活動援助金20万円贈呈
3. 青陽東・友生養護学校チャリティーボウリング大会の開催
4. 日本熊森協会活動に参加し、50周年記念事業に関連し20万円の寄付を行った

#### 平成16年～平成17年

1. 神戸東プロバスクラブへ表敬訪問し、創立50周年記念誌および援助金10万円贈呈
2. 「全国難病センター研究会兵庫県大会」に助成金3万円贈呈
3. 青陽東・友生養護学校チャリティーボウリング大会の開催

4. 日本熊森協会の森山まり子会長と岡真理子国際部長より協会の活動内容を報告いただく
5. 日本熊森協会主催の「千種町植樹会」に参加し、苗木を植林すると共に助成金3万円贈呈

#### 平成17年～平成18年

1. 神戸東プロバスクラブへ表敬訪問し、援助金贈呈
2. 青陽東・友生養護学校チャリティーボウリング大会の開催。青陽東養護学校の松本校長より養護学校の現状について、友生養護学校の品川校長より重度身障児の教育の難しさや学習障害・注意欠陥他動性障害についての話を伺った。
3. 第二回神戸東RC読書感想文コンクール会長賞選考
4. 地区申請事業「アムールトラ保護活動事業」地区大会にてパネル展示
5. 日本熊森協会総会出席、および寄付金贈呈

#### 平成18年～平成19年

1. 日本熊森協会主催「若杉天然林ツアー」参加
2. 神戸東プロバスクラブへ表敬訪問し、援助金贈呈
3. 地区社会奉仕合同セミナー出席
4. 青陽東・友生養護学校チャリティーボウリング大会の開催
5. 第三回神戸東RC読書感想文コンクール選考会に参加
6. 社会奉仕・新世代合同委員会の開催
7. 地区社会奉仕委員会教育問題小委員長 竹田契一先生をお招きし、例会活動として学習障害児の問題について卓話をしていただく
8. 日本熊森協会フィールド部長の中島英雄氏をお招きし、日本の林業の現状や日本熊森協会の活動について卓話をしていただく
9. 日本熊森協会年次総会参加
10. 日本熊森協会の協力を得て広葉樹植樹会を開催。ちくさ高原「佐古井の森」にて植樹。クラフトマンビレッジにて、玩具博物館を見学。

#### 平成19年～平成20年

1. 神戸東プロバスクラブ総会に出席し、特別援助金50万円贈呈
2. 神戸東プロバスクラブ主管の合同例会に参列
3. 青陽東・友生養護学校チャリティーボウリング大会の開催
4. 日本熊森協会へ支援金3万円を贈呈

## 4大奉仕委員会報告

### 国際奉仕委員会

角田嘉宏

国際奉仕委員長・理事

当委員会の2004～2005年度から2008～2009年度の主要な委員会活動は下記の通りである。

#### 2004～2005年度

##### 1) 2004年9月11日(土)

2680地区世界社会奉仕ワークショップに参加(赤木パストガバナー・今井)、大島地区国際奉仕委員長・東世界社会奉仕小委員長と地区WCS事業のカンボジア訪問の打合せを行う。

##### 2) 2004年10月3日(日)～10月8日(金)

カンボジア訪問(赤木パストガバナー・須藤副会長・東地区世界社会奉仕小委員長・今井国際奉仕委員長)

- ① プノンペン国立小児病院訪問
- ② カンボジアトラストが運営している義肢製作学校を訪問、卒業式に出席、当クラブがスポンサーをしている女子学生とも面談
- ③ 義肢を装着した患者の社会復帰支援事業の拠点を見学。今後の活動は復帰支援が重要になると思われる。
- ④ プノンペン郊外のソンサク小学校の図書館(赤木ライブラリー)を訪問、この図書館は2680地区のWCS事業として建設されたもので、生徒の利用状況を校長よりうかがい先方の要望をお聞きする。
- ⑤ プノンペンロータリークラブの例会訪問。会員数13名の小クラブで、当日の参加者は4名、大変貴重な経験をすることができた。今後のカンボジアに対するWCS事業のパートナーとするには、先方のクラブの事情で様々な困難もあるが、長期的な視野で連携を保っていくことがよいのではと思った。

##### 3) 2005年6月1日～6月9日

当クラブ、ワイン同好会主宰のフランスワイナリーツアーに協力。リヨンロータリークラブの例会を訪問を行い親睦と国際理解を深め、ボヌ慈善病院・ブルゴーニュワインの騎士団、著名なワイナリー訪問等を行い、国際親善に努める。(参加者 13名)

#### 2005～2006年度

##### 1) 2005年9月27日～9月30日「WCS世界社会奉仕事業—カンボジア訪問」

WCS世界社会奉仕事業の活動として、カンボジアを訪問。PDG赤木パストガバナー(神戸東)

を代表として、地区国際奉仕委員会の東昭二(上郡)委員長、神戸東RCから久野薫会長と乙守典厚国際奉仕委員長が訪問。

##### ① 9月28日(水)

- ・カンボジア国立小児病棟視察
- ・プノンペンロータリークラブ例会訪問及び赤木ライブラリー運営の依頼
- ・カンボジアトラストCSPO卒業式参列
- ・卒業祝晩餐会開催(インターコンチネンタルホテル)

##### ② 9月29日(木)

- ・赤木ライブラリー(センソク小学校)視察
- ・プノンペンロータリークラブ会員に同行して頂き、学校側担当者との今後の運営について協議

#### 2006～2007年度

- 1) 加藤ガバナーの要望によりドイツとGSE交換プロジェクトを実施することになり、当クラブはドイツからのGSE派遣団員の受け入れを行うとともに、熊森協会の小山さんをドイツへのGSE派遣団員として推薦。
- 2) 熊森協会との植樹事業に米山奨学生の王念家さんも参加し、環境問題について話し合ったことは、ロータリーの活動のあり方への一つの示唆だと思われる。

#### 2007～2008年度

- 1) WCS世界社会奉仕事業 カンボジア教育プログラムに協力した。
- 2) 日豪交流語学研修生の支援事業に参加。
- 3) シンガポールロータリークラブ タン会長を含む会員・家族の方々の歓迎晩餐会を開催し交流を深めた。

#### 2008～2009年度

- 1) 創立55周年記念事業の一環として、シンガポールロータリークラブの他にブリスベンロータリークラブと姉妹クラブ関係を構築することを計画し、同クラブと交信を重ねた結果、内諾を得たので野田会長他23名の会員・家族による訪問団を組織し、2009年1月31日～2月4日ブリスベン地域を訪問。2月2日ブリスベンロータリークラブ例会に於いて、日根居ブリスベン総領事の立会いの下、姉妹提携基本合意書に調印した。更に、同日夕刻には、ブリスベン市役所に於いて、同市主催の歓迎レセプションに出席し、神戸市の姉妹都市である同市当局者及び市民と交流した。

## 歴代役員・理事・委員長 (5年間)

	平成16~17	平成17~18
地区ガバナー	橋本 一豊	石井 良昌
会長	白羽 誠	久野 薫
副会長	須藤 雄二	野田 晴清
幹事	野々村禎之	松下 衛
副幹事	松下 衛	土城 敏彦
S. A. A.	西原興一郎	白羽 誠
副S. A. A.	月岡 清市	嘉納 忠夫
//	吉田 建美	上村 伸幸
会計	阪口 正浩	三原 孝公
副会計	多田 善計	多田 善計
理事	中井 章詞	吉田 建美
//	横瀬 恭平	新宮 千早
//	今井 拓雄	乙守 典厚
//	高嶋 良平	有澤 武
//	野田 晴清	野々村禎之
会長エレクト(理事)	久野 薫	高橋 惠俊
クラブ奉仕	須藤 雄二	野田 晴清
出席	池西 正光	木下 健
親睦・家族	上村 伸幸	角田 嘉宏
プログラム	鎌田 哲夫	光葉 貞男
週報	坂野 伯夫	西村 太一
雑誌会報	津波古充朝	小倉 宗夫
ロータリー情報	植村 孝一	阪口 正浩
会員選考	増田 光夫	樽本 久
会員増強・職業分類	石橋 恒生	西原興一郎
職業奉仕	中井 章詞	吉田 建美
社会奉仕	横瀬 恭平	新宮 千早
新世代	壺井 醇	吉井 正幸
国際奉仕	今井 拓雄	乙守 典厚
ロータリー財団	金栄 昭彦	小泉 進吉
米山奨学	吉田 茂	三輪 吉郎
会計監事	小泉 進吉	増田 光夫
	榊原 志朗	大辻 正明
相談役		赤木 文生・高嶋 良平

平成18~19	平成19~20	平成20~21
加藤 隆久	三木 明	宮本 一
高橋 惠俊	今井 拓雄	野田 晴清
吉田 建美	松下 衛	横山 幹夫
土城 敏彦	乙守 典厚	中井 章詞
乙守 典厚	中井 章詞	岡 栄治
久野 薫	高橋 惠俊	今井 拓雄
執行 英毅	塚本 哲夫	有澤 忠雄
須藤 雄二	壺井 醇	道上 明
高嶋 良平	角田 嘉宏	戸山 晶夫
大辻 正明	山本康一郎	多田 善計
村田 由夫	平岡 秀樹	三原 孝公
壺井 醇	横山 幹夫	上村 伸幸
植村 孝一	野々村禎之	角田 嘉宏
樽本 久	小倉 宗夫	木下 健
松下 衛	土城 敏彦	乙守 典厚
今井 拓雄	野田 晴清	松下 衛
吉田 建美	松下 衛	横山 幹夫
尾山 宜道	戸山 晶夫	鎌田 哲夫
井元 憲生	田中 健三	吉田建美(親睦)・鮑悦初(家族)
横山 幹夫	吉田 建美	岩野 了
岡 栄治	松井 照男	寺井 啓勝
吉田 正人	吉井 正幸	石橋 恒生
白羽 誠	須藤 雄二	田中 健三
三原 孝公	光葉 貞男	高橋 惠俊
金栄 昭彦	三原 孝公	植村 孝一
村田 由夫	平岡 秀樹	三原 孝公
壺井 醇	横山 幹夫	上村 伸幸
池西 正光	橋本 豊捷	山崎 仁嗣
植村 孝一	野々村禎之	角田 嘉宏
中井 章詞	鎌田 哲夫	西原興一郎
則岡 弘士	尾山 宜道	土城 敏彦
小倉 宗夫	木下 章夫	光葉 貞男
向井 菊美	高見 育男	榊原 志朗
	高嶋 良平	樽本 久

## 歴代地区委員 (5年間)

2004～2005年度	
赤木 文生	バストガバナー ガバナー諮問委員会委員 ガバナー指名委員 地区研修リーダー 新世代委員会アドバイザー
野々村 禎之	クラブ奉仕委員会 ロータリー家族小委員会委員
小泉 進吉	社会奉仕委員会 プロバス委員
松下 衛	ロータリー財団委員会 財団学友委員長
向井 菊美	米山奨学委員会 米山記念奨学会評議委員
壺井 醇	米山奨学生選考委員会委員
高嶋 良平	情報委員会 副委員長 100周年記念・企画委員長 地区史編纂委員
2005～2006年度	
赤木 文生	バストガバナー ガバナー諮問委員会委員 ガバナー指名委員 米山記念奨学会理事 米山奨学委員会アドバイザー
高嶋 良平	神戸第一グループガバナー補佐 意義ある業績賞選考委員会委員 増強・拡大委員会拡大小委員会 委員長 情報企画委員会 地区史編纂小委員会委員
松下 衛	ロータリー財団委員会副委員長 財団学友小委員会委員長
向井 菊美	米山奨学委員会委員長
森本 一裕	社会奉仕委員会 社会奉仕小委員会委員
吉井 正幸	社会奉仕委員会 教育問題委員会委員
2006～2007年度	
赤木 文生	バストガバナー ガバナー諮問委員会委員 米山奨学委員会アドバイザー
向井 菊美	米山奨学生選考小委員会委員長
高嶋 良平	特別企画小委員会委員長

森本 一裕	社会奉仕委員会 社会奉仕小委員会委員
吉井 正幸	社会奉仕委員会 教育問題小委員会委員
松下 衛	国際親善奨学金・ロータリー財団 学友小委員会委員
乙守 典厚	国際奉仕委員会・親睦活動・交流小 委員会委員
2007～2008年度	
赤木 文生	バストガバナー ガバナー諮問委員会委員 米山奨学委員会アドバイザー
向井 菊美	米山奨学生選考小委員会委員長
高嶋 良平	増強・拡大委員会委員長
森本 一裕	社会奉仕委員会 社会奉仕小委員会委員
吉井 正幸	社会奉仕委員会 教育問題小委員会委員
松下 衛	国際親善奨学金・ロータリー財団 学友小委員会委員
乙守 典厚	国際奉仕委員会 親睦活動小委員会委員
2008～2009年度	
赤木 文生	バストガバナー ガバナー諮問委員会委員 米山奨学委員会アドバイザー
高嶋 良平	増強・拡大委員会委員長
松下 衛	ロータリー財団委員会副委員長
向井 菊美	米山奨学委員会副委員長
森本 一裕	社会奉仕委員会 社会奉仕小委員会委員
吉井 正幸	社会奉仕委員会 教育問題小委員会委員
乙守 典厚	国際奉仕委員会 親睦活動小委員会委員
山本康一郎	増強・拡大委員会 拡大小委員会委員
壺井 醇	ロータリー財団委員会 ロータリー学友小委員会委員
江口 行生	米山カウンセラー

## 同好会報告

### ゴルフ同好会

世話人代表 野田晴清

平成13年に入会して以来、大好きなゴルフの同好会にも参加させていただき早や8年がたちました。当初は参加のみでしたが、50周年後、世話人の一人として会員のお手伝いをさせていただくようになりました。

神戸東RCには、樽本会員を筆頭にゴルフに長けた方々が多数在籍されており、現在の会員数も全会員数の半分に値する52名となっております。

ゴルフは、年齢、性別、技量をハンディキャップという物を介して、同じ土俵の上で出来る唯一のスポーツとも言えます。50周年記念誌にも書かれていたように、親睦ゴルフ会から始められ、同好会となってからも、その趣旨を受け継ぎ、現在も、色々な方とラウンドしていただける様に、お世話しております。

最近の5年間は年3回の例会を実施しており、1回目は、8月下旬～9月上旬に、六甲山上、日本で最初に開場された神戸ゴルフ倶楽部にて開催、ゴルフの原点に戻って、また、避暑を楽しみながら、プレー終了後には、旬を先取りした、松茸山盛りのすき焼きを食べながら、懇親を深めております。又、第2回は、11月下旬～12月上旬に、忘年会を兼ね、小野ゴルフ倶楽部にて開催、かも鍋を囲みながら、1年間の労を癒し、新年に向けての英気を養っています。第3回は、3月下旬～4月上旬に、お花見を兼ね、広野ゴルフ倶楽部にて開催しております。特に16番グリーン奥の桜は素晴らしく、スコアのよし悪しを忘れさせてもらえる一時であります。又、参加人数も3回の中では一番多く、日本を代表するゴルフ場で、毎年コンペを開催させていただき、優越感と満足感を味わえるのは、広野ゴルフ倶楽部のメンバーのお蔭であり、そのメンバーを有する神戸東RCに在籍するからだ、と常々感謝している次第です。

又、昨年度より、神戸RCと神戸西RCとの3RC懇親(対抗)ゴルフ会が発足し、ゴルフ同好会が受け皿となって、参加し、東広野ゴルフ倶楽部を会場として、3RCが持ち回りで開催しております。

ゴルフ同好会は、ゴルフを通じて、自己研鑽し、懇親、親睦をモットーとして、ロータリー活動に、益々のめり込める様努力してまいります。今後共、御協力宜しくお願い申し上げます。

(文責、世話人 尾山宜道)



#### ■過去の世話人

	代表世話人	世話人
2003～2004	野田晴清	土城会員
2004～2005	//	金栄・尾山会員
2005～2006	//	金栄・尾山会員
2006～2007	//	金栄・尾山・宮会員
2007～2008	//	尾山・宮・江口会員
2008～2009	//	尾山・宮・江口会員

## 俳句同好会『余韻会』

世話人代表 執行英毅

わがクラブの俳句同好会は昭和43年山本錬造（竹兜）会員の提唱により始められました。平成7年山本会員が亡くなられたあと、小泉会員のご尽力がありホトトギス稲畑汀子主宰のご推挙により、平成16年度より同人の本郷桂子先生を迎えご指導を戴いています。それまでの経緯は平成19年発行の合同句集「余韻、四」に詳しく述べました。メンバーはクラブ会員、家族、およびクラブに縁りのある方々です。

例会としては当初よりの形を受け継ぎ、月1回夕会食の後、予め示された二つの兼題（主題とされる季語）のもとに句を提出し一同の選句をうけます。更に先生より個々に懇切な指導があり、初心者には大変わかりやすく、非常に楽しく貴重な時間です。

さらに春秋には「吟行」と称して、日帰り小旅行に出かけます。このときには一般会員の参加も多くあり、お蔭でいつも大変楽しい思い出を重ねています。

初心者を含め、同好の方々のご参加を歓迎いたします。

常連の会員諸氏の最近の句を記録よりひろって紹介します。

灯を一つ残し夜なべのなほ続く	本郷先生
帰省して母に愚痴言う四十路の子	池西
座蒲団をはずして交わす年賀哉	加藤
大伽羅香煙の舞ふ去年今年	小泉
炎昼とガラス隔てて籠りけり	執行
台風過ぎて沖行く船のあり	高石
秋気澄む李朝の壺の青さかな	橘
寒風に耐へ鎮魂の人の群れ	壺井
そよ風に银杏落葉の光り降る	則岡
蝸牛見つけて子ら呼び戻す	吉井

## コーラス同好会

世話人代表 西村太一

第14回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭が昨年（'08年）6月7日土曜日に島根県の松江市で開催されましたが、その時のDVDの発表会を兼ねて、9月2日火曜日午後6時から北野クラブでコーラス同好会の総会と神戸東ロータリークラブ合唱団の懇親会が盛大に開催されました。

私はその同好会総会で塚本会員から「世話人」のバトンタッチを受けました。塚本会員にはそれまで10年の長きに亘り世話人をつとめて頂き、本当にご苦労様でした。私の方はこれからですが、皆様と共に今迄通りの楽しいコーラスを続けてゆきたいと思っています。

最近5年間の活動報告は次の通りになります。

平成16年2004.6.5（土）神戸ポートピアホテル・ホール  
「マイ・ウェイ」「線路は続くよどこまでも」

平成17年2005.5.28（土）長崎市 ブリックホール  
「サウンド オブ ミュージック」「エーデルワイズ」  
「ドレミの歌」

平成18年2006.6.3（土）京都 先斗町 歌舞練場  
「廃墟の鳩」「愛をこめて」

平成19年2007.6.2（土）札幌市 コンサートホール  
「アメイジング・グレース」  
「When The Saints Go Marching in」

平成20年2008.6.7（土）松江市 プラバホール  
「小さな喫茶店」「あのすばらしい愛をもう一度」

過去1年間の活動報告は次の通りになります。

平成20年2008.4.8（火）創立記念例会家族会  
ホテルオークラ神戸  
6.7（火）全日本RC親睦合唱祭  
松江市 プラバホール  
9.2（火）コーラス同好会総会  
神戸北野クラブ  
（世話人交替 塚本哲夫から西村太一に）  
12.16（火）忘年家族例会  
ホテルオークラ神戸

平成21年2009.4.14（火）55周年創立記念例会

### 【コーラス同好会会員】

・橋本 豊捷	・岩野 了
・上村 伸幸	・加藤 昇治
・工藤 恭孝	・三輪 吉郎
・宮崎勢四郎	・森本 一裕
・西村 太一	・西藤 直人
・榊原 志朗	・土田 剛司
・塚本 哲夫	・植村 孝一
・山邑 耕一	・山崎 仁嗣
・吉田 正人	・乙守 典厚
以上18名	

指揮・指導：西村雅子  
ピアニスト：片桐えみ

### 【むつみ会コーラス同好会会員】

・赤木 和子	・畑崎美代子
・岩野 恵美	・上村 敏子
・嘉納 洋	・工藤 泰子
・松下 博江	・三原 節子
・光葉千代子	・宮崎美江子
・三好 春江	・中井恵俐子
・岡 幸子	・執行 斐子
・新宮 栄子	・角田 祥子
・塚本恵美子	・戸山 昌子
・山本 政子	・横山るみ子
以上20名	

指揮・指導：松下 博江  
ピアニスト：宮下 恵美

## 絵画・写真同好会『東彩会』

世話人代表 小倉宗夫

絵画同好会は神戸東ロータリークラブ創立35周年記念例会での作品展から開始され、約20年が経ちました。現在の絵画・写真同好会「東彩会」は、平成7年(1995年)に改名され、現在14回目の作品展を当クラブの創立55周年記念例会で行う予定をしております。

現在の会員は、有澤忠雄、太原震也、太原晃一、小倉宗夫、日下 譲、阪口正浩、雀部虎四郎、白羽 誠、須藤雄二、角田嘉宏、高石 昇、野田晴清、則岡弘士、平岡秀樹、三原孝公、吉田建美、以上、16名です。

同好会の活動状況を報告します。

- ・平成16年(2004年)10月23日、写生会「しあわせの村」を行う。参加者7名です。
- ・平成17年(2005年)2月17～22日、国際ロータリークラブ創立100周年記念作品展を「たじま画廊」で開催。出展者13名です。
- ・平成17年(2005年)4月12日、神戸東クラブ、創立51周年記念例会会場(ホテル・オークラ神戸、平安の間)にて作品展を行う。出展者10名です。
- ・平成17年(2005年)11月23日、「琵琶湖大津・坂本(日吉神社)」にて写生会を行った。参加者は9名です。
- ・平成18年(2006年)4月6～11日、神戸東クラブ創立52年記念日を祝し、絵画・写真作品展を「たじま画廊」で行いました。油絵、水彩画、写真などを出品。出展者は12名です。

- ・平成18年(2006年)11月11日、淡路島(東浦)で写生会を行う。アート山美術館(淡路大磯)を訪問、館長さんから、丁寧な説明を受けました。
  - ・平成19年(2007年)4月5日～11日、神戸東クラブ創立53周年記念「東彩会」絵画・写真同好会を「たじま画廊」にて開催。出展者は10名です。
  - ・平成19年(2007年)7月21日、初夏の写生会を高山植物園(六甲山)で行う予定が雨天のため中止になりました。
  - ・平成19年(2007年)12月11日、写生会並びに忘年会をポートピア・ホテル「真珠の間」で行った。
  - ・平成20年(2008年)4月3日～8日、恒例になっている創立記念日に行う「東彩会」絵画・写真同好会を「たじま画廊」で行った。出展者は15名でした。
  - ・平成20年(2008年)11月22日、紅葉の名所「永源寺」(東近江市)へ写生会に行った。参加者は11名です。
- 当同好会の会長を永年勤めて頂き、活発で楽しい会である「東彩会」をご指導下さった太原震也会員が勇退され、相談役のお立場でご協力して頂くことになりました。新しい代表世話人として、小倉宗夫会員にお願いしております。

(文責 三原孝公)



## ワイン同好会

世話人代表 角田嘉宏

ワイン同好会は会員制のクローズされた組織ではなく、開催の都度、全会員及び御家族の皆様にご案内し、参加希望者を募っています。

会の目的はワインを楽しみながら、世界各地の歴史と文化に対する理解を深め、会員相互の親睦をはかることにあります。

この目的に沿って、毎回、趣向をこらしたテーマを設定し、ワインを選んでいきます。

過去の活動の中でも特筆されるのは、2005～2006年にフランス、ブルゴーニュ地方の名醸ワイナリーを13名で訪問し、その歴史とワイン作りにおける生産者の熱意に感銘を受けた事です。

格式の高いブルゴーニュワインの騎士団の例会にも出席し、英国のアン王女と同席するハプニングもあり、一同大いに盛り上りました。又、スケジュールの合間をぬって訪問したり、リヨンロータリークラブの手厚いもてなしにも感激しました。

2007年には同好会世話人代表の角田嘉宏会員が、ブルゴーニュワインの騎士に叙任される栄誉を受けて、会員、夫人合わせて9名で、ブルゴーニュ及び、アルザス地方のワイナリーを訪問しました。



ブルゴーニュの特級畑クロ・ド・タールにて



アン王女



リヨンロータリークラブ  
我々のスケジュールにあわせて特別例会を開催してくれました。



ロマネ・コンチのオーナー、ヴィレーヌ氏に面会



ロマネ・コンチ社門前にて

本年度は、開業したばかりのホテル・ラ・スイートでフランス料理のフルコースを楽しみながら、クリスマスイブのロマンティックな夜を過ごしました。

第2回の例会は4月28日ホテル・オークラ神戸で創立55周年記念事業に尽力されました会員の皆様の慰労を兼ねて開催いたします。

(文責 今井拓雄)

## マージャン同好会『楼満会』

世話人代表 田中健三

この度、神戸東ロータリークラブの55周年記念の一環として雑誌会報委員会がその記念誌に同好会活動を掲載するとのことで寄稿の依頼がありました。

確かに記念誌に同好会の過去の活動を記録に残すことは大変良い提案だと考えました。折角の機会ですので可能な限り正確な報告を残す必要があると思ひ、設立当時からご尽力された壺井会員に発足の経緯などをお伺いし本報告書を作成いたしました。

楼満会は平成12年の秋ごろに壺井会員・川崎会員・土城会員や今は退会された沓脱さん・河西さんの発案で出来たとのことでした。

初代の代表世話人は三輪会員にお願いしました。三輪会員はマージャンをされないのにお引き受け頂き、又毎回見学参加していただいたり、おまけに初回の時にはお祝いまで頂きました。

第一回発足大会は平成13年1月23日にトアロードの雀荘「リボン」で開催しました。その時の優勝者は帝国データバンクの奥田さんでした。

第二回は有馬で一泊して開催しました。

以来、年1～2回程度ですが今までに18回開催しました。

三輪会員には3年ほど代表をお願いいたしました。

その後なぜか私が引き継ぐことになり今日至っています。

しかしそのルーツは別にして、又そのことも気にせず適当な時に適当なメンバーが適当にトアロードの「リボン」という昭和のノスタルジーを感じさせる雀荘に集まりワイワイ云いながら卓を囲んでいます。

とは言え、私は名前だけの代表世話人でありまして当同好会を実際に運営して頂いているのは壺井会員・池西会員・川崎会員その他多くの方々でルール作りや案内状の発送、景品の段取り、会場の手配など全てお願いしている状況です。

マージャン会の時にはメンバーはたぶん青春時代の貴重な時間をあの薄暗いタバコの煙が漂う雀荘で費やした頃を思い出すかの様にマージャンに勤しんでいます。

皆一応腕には自身があるようですがよる年々みには勝てず根気も薄れ目も見えにくくなりゴルフと同様自分の思った通りのゲーム展開にはならないようです。

但し、当会は健全性を保っており金銭のやり取りは厳禁となっています。

皆さんから集めた会費で所場代・賞品・飲食を賄っています。その賞品はメンバーの川崎さんにお世話になり季節の美味しい果物や松茸を提供していただいています。

その賞品を目指して皆さんプライドを掛け真剣にゲームに励んでいます。

大抵は半荘を3回くらい行いますが、その間いろんな会話が弾みいっぺんに旧知の友人になれたような気持ちになります。又、マージャンはある面性格も現れますのでその人のことが良く分るようになり親しみを持てるようになります。

ある種親睦として最適なものではないかと思ひます。

この様に年齢の上下や仕事の関係の無い仲間と一時楽しく過ごす機会のある同好会活動もロータリークラブの楽しみ方の一つだと思ひます。

ぜひ皆さんお気軽に参加されませんか。

お待ちしております。

## 料理同好会

会長 鎌田哲夫 副会長 野々村禎之 幹事 田中義明

我が料理同好会は、平成18年7月18日に創立第1回例会を開催いたしました。それ以前に2回ほど準備会を行っておりますので、実質的にはもう、4年目に入っております。

通称は、「イケメン・クッキング・アカデミー」と言いますが、正式には「EAST KOBE MEN'S COOKING ACADEMY」の頭文字を採ったものです。

当初は、野菜の切り方、魚の裁き方などの練習から入りましたが、現在はほとんどが慣れて来て、毎回5～6品の中から自分が好きな料理を作っております。

平成21年3月度例会の料理メニューを紹介します。

- メイン 春野菜の天ぷら  
串カツ
- 旬の野菜料理 菜の花の辛子和え  
たけのことふきの煮物
- 旬の魚料理 さわらなど
- その他 豆ごはん、吸い物、季節のフルーツ



どのようにやっているかを説明します。

まず、集合時間が午後5時30分。会場はウオクニ本社ビル4階調理室。履物を履き替え、手を洗います。4つほどの調理台で、その日のメニューをそれぞれに分かれて作っていきます。それぞれの調理台にウオクニのサポートスタッフが2名ほど、約8人ほどがお手伝いをしてくれます。3年も経つとほとんどのメンバーが手際よくあつという間に仕上げていきます。当初心配した切り傷等の事故は一件もありません。専属ドクター白羽先生の出番はまだ一度もありません。

7時30分頃からは試食会です。アルコールは日本酒、ビール、ワイン、焼酎、紹興酒等、好きなものを飲んで貰っています。

約1時間、皆で作ったものを食べて飲んで、わいわい言って終了して解散です。

現在のメンバーは次のとおりです。

石橋恒生、岩野 了、植村孝一、加藤昇治、嘉納忠夫、白羽 誠、田中義明、野々村禎之、則岡弘士、平岡秀樹、森本一裕、山本康一郎、横山幹夫、吉井正幸、吉田建美、吉田 茂、三原孝広、野田晴清、畑崎廣敬、山崎仁嗣、角田嘉宏、光葉貞男、土田剛司、池西正光、鎌田 哲夫

過去1年間の料理メニューは次のとおりです。

- H20.2.19 ロシア料理「ボルシチ」「ピロシキ」など
- H20.3.18 「カレーライス」を中心に
- H20.4.15 「春の食材を使って」
- H20.5.20 「色々 作ってみましょう」
- H20.6.17 「全部自分で作ってみよう」
- H20.7.22 ウオクニスタッフと創立記念パーティ  
(レストラン「ローテローゼ」)
- H20.9.16 「季節の材料を使ってあれこれ」
- H20.10.21 「季節の料理とローストビーフ」
- H20.11.25 「鍋を囲んで温ったまろう」
- H21.2.4 「ロールキャベツと旬の料理」



参加希望の方は、メンバーに声をかけて、当日ご参加下さい。

## 歩こう会

世話人代表 太原晃一

同好会メンバー

畑崎 廣敏、木下 章夫、久野 薫、増田 光夫、松下 衛、三原 孝公  
 森本 一裕、野田 晴清、則岡 弘士、額田 健靖、阪口 正浩、澤田 善吾  
 新宮 千早、角田 嘉宏、須藤 雄二、高橋 恵俊、友藤 順義、戸山 晶夫  
 塚本 哲夫、山本康一郎、吉田 建美、太原 晃一、樽本 久（順不同、敬称略）

本会は、メンバーの健康維持・増進、及び親交を深める目的で結成されました。

きっかけは、三原さんに加古川ツーデーマーチに参加してみないかとお誘い頂いたことでした。歩くことに興味のある方々に声をかけ、10kmコースに挑戦。豊かな自然の残る播磨路を全国から集まったウォーキング愛好者と一緒に、自然に親しみ、歩くことの楽しさを十分に感じながらの1日を過ごしました。これが当会の原点です。

その後は不定期ながら年に4～6回、近郊の山々や街道などに出向き、時には遠方へも足を延ばしております。摩耶山、播州赤穂・なぎさ海道、芦屋の海岸通り等の兵庫県下のほか、山辺の道、貴船・鞍馬山など近畿他府県の散策もしております。さらに2007年には日本で29番目の国立公園として指定された尾瀬国立公園、2008年には世界遺産に登録された熊野古道、大山寺周辺へ参りました。

常に心がけているのは、無理なく楽しく歩くこと。各々の体力、体調に合わせて過度な負担がかからないようにすることにより、怪我をせず安全にゴールすることを目指しております。



## むつみ会

むつみ会 会長 野田堯子

神戸東ロータリークラブ創立55周年おめでとうございます。創立から2年遅れでできたむつみ会は神戸東ロータリークラブの庇護の下、親睦を深めるだけでなく地域社会への奉仕活動も目的とした会へと発展してまいりました。

むつみ会会長の働きかけで奉仕活動が盛んな時期もありましたが、社会情勢の変化に伴い現在は休止状態です。55年の時の流れを考えるとそれも致し方ないと思えますが、創立時の理念を忘れることのないよう寄付事業は毎年続けております。

同好会としてはむつみ会コーラスが、月一回・御影にしむらコーヒーで練習に励んでおられ、レパートリーもずいぶん増えたと伺っております。総会で日ごろの成果を披露して頂くと、会場が和やかな雰囲気に入れられ、会員相互の親睦に大きな力を発揮していただいております。さらに神戸東ロータリークラブのコーラス同好会と合同の、混声合唱の練習会にも参加しておられます。毎年行われる全国合唱祭を目指してますます腕に磨きをかけられることと楽しみにしております。

むつみ会の新春会も最近バラエティーに富んだ催しが企画されるようになりました。それぞれの年の会長が独自のカラーを出し、大阪を味わう吉本新喜劇の観賞や大阪松竹座の歌舞伎観劇会・劇団四季のミュージカルと行動半径を大きく広げております。新しい企画を実行するにはそれなりの時間と労力が必要ですが、会議を重ねることによって役員間の協力態勢が整い、むつみ会の歩みが確かなものになってきたとうれしく思っております。

神戸東ロータリークラブの行事に参加して親交の輪を広げるためにも、むつみ会独自の行事はとて大切なものです。今年度は懸案であった会則の改定を行い、時代に即した分かりやすい会則となりました。むつみ会の活動に大きな変化はないものの、設立当初の理念を失わず、上手に世代交代をしながら神戸東ロータリークラブの活動を側面から応援していきたいと思っております。

# 現会員名簿

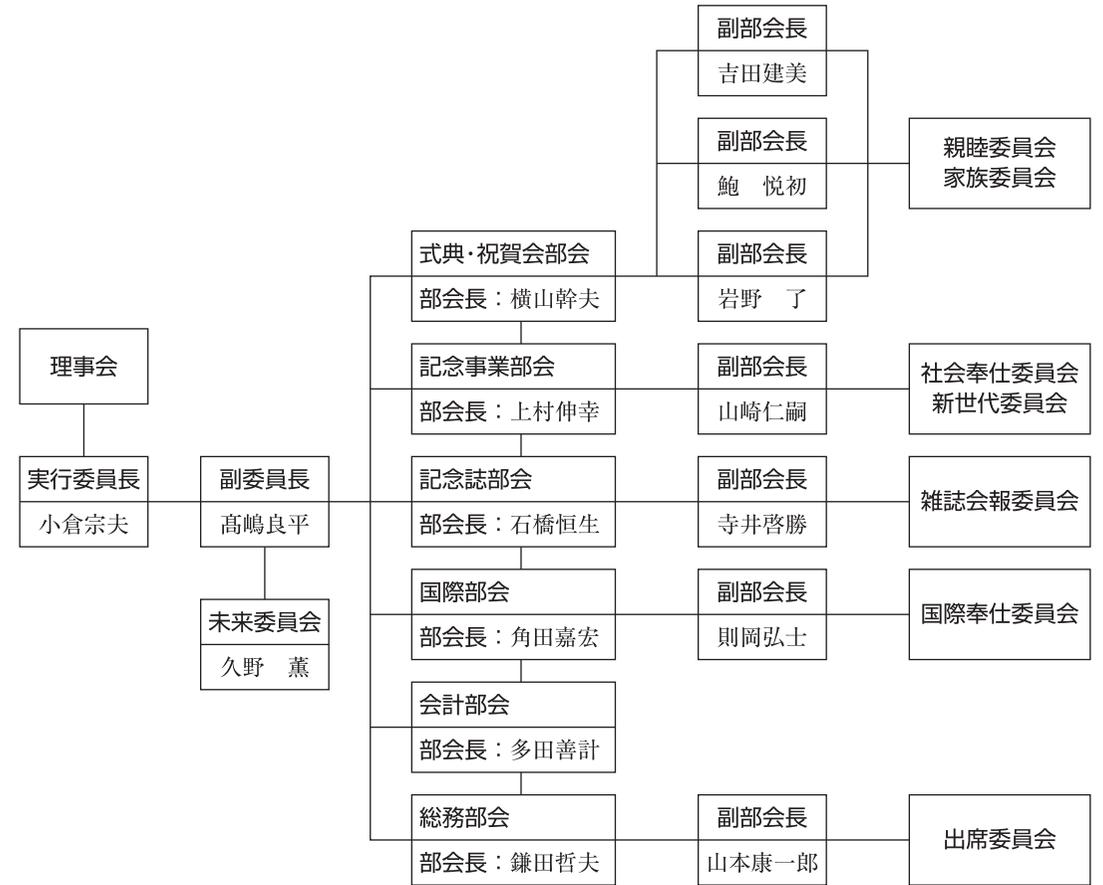
番号	氏名	職業分類	入会日	推薦者	職名
143	赤木 文生	弁護士	S42.12.5	村田(定)、奥野	神戸ブルースカイ法律事務所 所長
556	青井 克巳	証券業・商品・先物取引業	H20.8.5	三輪、木下(健)	大和証券(株) 神戸支店長
374	有澤 忠雄	眼科	S63.9.6	三好、高嶋(良)	眼科有澤クリニック 院長
528	鮑 悦初	食品工業	H16.3.2	植村、角田	(株)廣記商行 代表取締役
503	千葉 始	ホテル	H12.9.5	樽本、小倉	(株)ホテル オークラ神戸 顧問
455	土城 敏彦	建築設計	H7.8.29	樽本、小倉	(株)土城設計 代表取締役社長
547	江口 行生	コンサルタント(医療)	H19.6.19	尾山、横山(幹)	オフィス プライム 代表
500	福原 敏晃	菓子	H12.8.29	石橋、工藤	(有)ボック 代表取締役社長
515	原田 信也	流通市場	H14.5.7	野田、畑崎	
525	橋本 豊捷	紙工業	H15.11.11	福原、壺井	(株)橋本パッケ
491	畑崎 廣敏	被服工業	S48.3.20 H11.6.29(再)	小倉、野澤	(株)アールド 社主
487	東 浩哉	食品工業	H11.6.1	太原(震)、澤田	(株)放香堂 代表取締役副社長
543	樋口 一哉	鉄鋼業	H19.5.22	上村(修)、金栄	樋口鋼業(株) 代表取締役社長
488	池西 正広	石材工業	H11.6.8	寺崎、中口	イケニシ(株) 代表取締役
347	今井 拓雄	酒精飲料	S61.6.17	安福、高田	(株)今井商店 代表取締役
516	井元 憲生	衣料・繊維雑貨	H14.5.7	植村、畑崎	(株)バリュー・プランニング
400	石橋 恒生	印刷・出版	H2.9.18	植村、藤田(久)	(株)興正社 代表取締役社長
530	伊藤 隆啓	不動産仲介業	H16.4.20	鎌田、吉田(茂)	(有)五代興産 代表取締役
504	岩野 了	コンサルタント・デザイナー	H12.9.5	角田、沓脱	(株)TCD 代表取締役社長
432	鎌田 哲夫	弁護士	H5.6.22	赤木、村田(由)	海岸通法律事務所
424	上村 伸幸	歯科	H4.11.24	木下(健)、三原	上村歯科医院 院長
151	嘉納 忠夫	自動車工業	S43.10.15	八馬、小野	兵庫日産自動車(株) 顧問
296	加藤 昇治	建築材料	S58.6.7	八馬、野澤	
480	川崎 元男	植物性食品	H10.1.27	寺崎、中口	川崎青果(株)
353	川島 宗治	芸術	S61.7.22	安福、柴田	茶道 裏千家
262	木下 章夫	真珠販売	S54.7.3	近沢、阿部	(株)木下真珠 会長
165	木下 健	ゴム工業	S45.1.6	近沢、高田	(株)三富商店 取締役会長
558	古賀 朗	酒精飲料(ビール醸造)	H20.11.11	今井、横山(幹)	キリンビール(株) 神戸支社長
407	工藤 恭孝	印刷・出版	H3.5.7	月岡、植村	(株)ジュンク堂書店 社長
379	久野 薫	病院	S63.12.6	有澤(武)、薄木	医療法人社団 薫英の会 久野病院 理事長・院長
156	日下 譲	純科学	S44.4.1	八馬、小泉(進)	甲南大学 名誉教授
126	林 同春	スポーツ	S41.3.8	安福、末正	中央実業(株) 代表取締役
255	増田 光夫	植物性食品	S53.9.19	久野、三好	(株)増田要祐商店 取締役会長
508	松井 照男	不動産管理業	H13.6.5	野田、川崎	(株)日本ネットワークサービス 代表取締役
557	松居 隆	火災保険	H20.8.5	三輪、塚本	(株)損害保険ジャパン 神戸支店長
518	松下 衛	ホテル	S63.9.6 H14.7.2(再)	三原、角田	(株)神戸メリケンパークオリエンタルホテル 相談役

番号	氏名	職業分類	入会日	推薦者	職名
559	松谷 齊泰	被服工業	H21.4.7	戸山、山崎	(株)紅屋 代表取締役社長
449	道上 明	弁護士	H7.5.9	有澤(武)、村田	神戸ブルースカイ法律事務所
261	三原 孝公	歯科技工業	S54.6.12	坂下、角田	(株)三原歯研
560	三戸岡 英樹	医学(内科)	H21.4.7	白羽、執行	芦屋三戸岡クリニック 院長
228	光葉 貞男	菓子	S51.1.13	小泉(進)、奥	ゴンチャロフ製菓(株) 取締役会長
221	三輪 吉郎	運輸	S50.1.28	山本(鎌)、島田	三輪運輸工業(株) 相談役
544	宮 昭久	病院	H19.5.22	岡、金栄	医療法人社団 敬風会 理事長
251	宮崎 勢四郎	教育	S53.1.10	松野、小泉(進)	
501	森本 一裕	ガラス工業	H12.8.29	壺井、工藤	森本硝子店 代表社員
329	向井 菊美	車輜工業	S60.2.5	藤田(久)、榎本	社団法人 自転車協会 常任理事
343	村田 由夫	弁護士	S60.11.26	奥野、赤木	前田村田法律事務所
441	中井 章詞	病院	H6.5.31	執行、薄木	医療法人社団 中井病院 理事長
553	中尾 優	弁理士	H20.7.1	三原、角田	特許業務法人 有古特許事務所 副所長
362	西原 興一郎	自動車工業	S62.4.7	森川(正)、嘉納	兵庫三菱自動車販売(株) 社長
252	西村 太一	自動車工業	S53.2.7	村田、角田	神戸トヨペット(株) 代表取締役会長
440	野田 晴清	建設業	H6.4.19	武藤、小泉(進)	(株)エヌビーシー
481	野々村 禎之	食品工業	H10.3.31	三輪、塚本	ウオクニ(株) 代表取締役社長
529	則岡 弘士	総合商業	H16.3.9	三原、角田	第一貿易(株) 代表取締役
166	小倉 宗夫	化学工業	S45.1.6	小野、角南	小倉サンダイン(株) 取締役相談役
389	太原 晃一	真珠養殖	H1.9.19	南(史)、末正	日信貿易(株) 代表取締役社長
120	太原 震也	真珠販売	S40.8.31	荒勝、近沢	
458	岡 栄治	建設業	H8.4.23	寺崎、中口	(株)岡工務店 取締役社長
394	乙守 典厚	宣伝	H2.2.6	樽本、西宮	(株)トーアコーポレーション 代表取締役社長
425	大辻 正明	公認会計士	H4.12.15	角田、西宮	大辻公認会計士事務所 所長
509	尾山 宜道	仏教	H13.6.5	高橋、土城	宗教法人 十善寺
539	西藤 直人	ゴム工業	H18.2.7	小倉、三輪	住友ゴム工業(株) 顧問
342	阪口 正浩	造園	S60.11.19	安福、西宮	(株)神戸グリーン造園 代表取締役
493	榊原 志朗	公認会計士	H11.8.31	大牟田、山野	榊原公認会計士・税理士事務所 所長
357	雀部 虎四郎	プラスチック工業	S61.11.11	小倉、木下(健)	バンドー化学(株) 名誉顧問
552	澤田 正樹	形成外科	H20.4.1	久野、三原	さわだクリニック 院長
198	柴田 英朗	美術工芸	S47.10.3	川島、安福	柴田静楽堂 店主
172	執行 英毅	耳鼻咽喉科	S45.7.7	池田、風間	
263	新宮 千早	ビジネスサービス	S54.7.24	藤田(久)、榎本	(株)ベップ 取締役社長
555	清水 和	生命保険	H20.7.8	執行、須藤	朝日生命保険(株) 神戸支社長
447	白羽 誠	病院	H6.11.28	風間、執行	シラハ病院 院長
554	宗野 正吾	建設業	H20.7.1	野田、小倉	鹿島建設(株) 神戸営業所 所長

悉皆番号	氏名	職業分類	入会日	推薦者	職名
182	角田 嘉宏	弁 理 士	S46. 5.18	安福、原	有古特許事務所 所長
384	須藤 雄二	真 珠 養 殖	H 1. 6.13	木下(章)、八馬	伊予豊玉真珠(株) 代表取締役社長
492	多田 善計	公 認 会 計 士	H11. 6.29	大辻、樽本	多田公認会計士事務所
327	高橋 恵俊	仏 教	S59.12.11	末正、高見	善光寺
551	高石 昇	精 神 科	H20. 2.19	樽本、角田	(医)高石クリニック 理事長
475	高見 育男	税 理 士	H 9. 6.17	沓脱、大辻	高見税務会計事務所
323	高嶋 良平	植 物 性 食 品	S59. 8. 7	末正、大牟田	高嶋酒類食品(株) 代表取締役社長
550	高田 英輝	司 法 書 士	H20. 2. 5	土城、岡	司法書士法人トウエスト合同事務所 大阪事務所 所長
452	玉垣 信太	石 油 工 業	H 7. 6.27	高嶋(良)、友藤	神戸スタンダード石油(株) 代表取締役社長
382	田中 健三	不 動 産 仲 介 業	S63.12. 6	末正、沓脱	(株)ユービーエル 代表取締役
506	田中 義明	運 輸	H13. 4.10	沓脱、河西	田中輸送(株)
167	樽本 久	金 物	S45. 1. 6	有澤(武)、末正	樽本産業(株) 取締役会長
523	寺井 啓勝	建 設 業	H15. 4.15	吉井、増田	三和建设(株) 代表取締役
311	戸山 晶夫	病 院	S58.12. 6	安福、高嶋(平)	甲南学園 名誉理事
453	壺井 醇	食 品 工 業	H 7. 6.27	横山(幹)、角田	(株)ケルン 代表取締役社長
548	土田 剛司	コンサルタント(不動産)	H19. 6.19	松下、金栄	(有)あいぎ鑑定評価 代表取締役
358	塚本 哲夫	動 物 性 食 品	S62. 1.13	有澤(武)、木下(健)	六甲バター(株) 取締役社長
363	植村 孝一	被 服 工 業	S62. 4.14	芹沢、角田	マック(株) 監査役
524	上村 修司	農 芸 ・ 園 芸	H15.10. 7	土城、川崎	(株)順花園
260	薄木 正敏	整 形 外 科	S54. 4. 3	有澤(武)、久野(一)	うずき医院 院長
454	山本 康一郎	建設業(建築設計)	H 7. 6.27	沓脱、月岡	(株)山本設計 代表取締役社長
527	山邑 耕一	不 動 産 管 理 業	H15.12. 2	嘉納、加藤	山邑興産(株)
281	山野 眞	不 動 産 管 理 業	S56. 9. 1	有澤(武)、野澤	(株)山野商会 代表取締役
538	山崎 仁嗣	料 理 店	H18. 1.10	横山(幹)、野々村	(有)ナリッジ 代表取締役
546	横山 公一	事 務 所 用 品	H19. 5.22	工藤、植村	横山(株) 代表取締役社長
534	横山 幹夫	金 属 工 業	H 1. 6.13 H17.6.14(再)	小倉、植村	ワイメタル(株) 代表取締役
513	横山 滋	獣 医	H14. 2.26	久野、三原	アイヴィヨコヤマ ペットクリニック 院長
470	吉田 建美	矯 正 歯 科	H 8.11.19	三原、上村(伸)	(医)吉田矯正歯科クリニック
510	吉田 正人	不 動 産 管 理 業	H13. 6. 5	岡、壺井	X-ROKKO(バイ・ロッコウ) 代表者
485	吉田 茂	機 械 ・ 装 置	H11. 3.23	沓脱、鎌田	神戸整備重機株式会社 代表取締役
486	吉井 正幸	木 材 工 業	H11. 4.13	増田、横山(幹)	(株)桃山商店 専務取締役
522	吉本 政和	不 動 産 業	H15. 1.28	金栄、松井(照)	(株)コスモ不動産 代表取締役

2009年6月末日現在

## 神戸東RC 創立55周年記念事業実行委員会 組織図



### 編集後記

50周年記念誌は、我がクラブのバイブルを目指して作成されましたが、55周年誌は60周年に向けて、一度踊り場で立ち止まって我がクラブのこれからを考えようとの思いで編集を致しました。コンテンツとして久野委員長には「未来委員会からの提言その1」としてまとめていただき、座談会では幹事経験者の皆さんに事務方のトップとしての経験談からのご意見、そして日ごろ会員の皆さんが感じていることを文字にいただいた「私のロータリーライフ」の3本の柱で構成されています。進化の過程で少し立ち止まることは新たな飛躍に必要であることを痛感した編集作業でした、資料編では4大奉仕委員長、同好会世話人代表の皆様にご協力を賜りました。丁寧に作業をしたつもりですがご期待に沿えるものができたかわかりませんが、不手際がありましたら友情に免じてお許しください、最後にご協力いただいた会員の皆様、事務局の皆様に感謝を申し上げ編集後記と致します。

神戸東ロータリークラブ 創立55周年記念事業実行委員会記念誌部会  
部会長 石橋恒生

神戸東ロータリークラブ  
創立55周年記念誌

---

発行日 2009年6月30日

発行者 神戸東ロータリークラブ  
〒650-0042 神戸市中央区波止場町2丁目1  
ホテルオークラ神戸内  
TEL(078)333-1818 FAX(078)333-1515

表紙デザイン 株式会社TCD

企画・制作・印 株式会社 興正社